神苑會史料

全

元神苑會 寄贈本

明治
45. 2. 19
寄贈

不寸画

神蕊死錄

明治四十四年

六、一百

宮二位久元題

易曰。修辭立其誠。所以居業也。知終終之。可與存義也。神苑會創業未央。會凶歉及軍國之變。幸有皇室恩賚之厚。因總裁殿下之督勵。與神宮司廳之補助。而完成不愆其素者。實會員諸子之誠與義旺於中之所致也。然其業亙二十五年之久。時情紛錯。處理曲折。不有載籍。安取信於後世。乃屬藤井氏。編纂叙述。名曰神苑會史料。夫億兆恭敬之地。今也森嚴肅穆若是倍可欽仰也。將來立誠存義。以維持之責在後人。亦是臣民之所以報效萬一。可不勉焉乎。編成。書此爲序。

明治四十四年三月

神苑會會頭子爵　花房義質

神苑會史料序

恭惟垂仁天皇二十五年興神宮于伊勢國五十鈴川上神德
尊嚴天下億兆之所崇敬也迨明治維新地方之志士胥謀欲
廓淸靈域設徵古館以益顯揚神德十九年始創設神苑會尋
奉有栖川宮爲總裁
朝廷賜金遠邇翕然捐貲於是徹民屋拓土地以爲神苑購求
山林以添內宮風致買收倉田山以剏建徵古農業二館蒐列
歷朝遺物以明典章文物之淵源及沿革其業可謂偉矣雖然
本會創設以來閱二十有五年而完成斯業之至難可以知也
自非由
朝廷及總裁之恩德與顯官名士及地方人士之協翼安能至

此哉公平嘗奉職於兵庫縣知事也總裁熾仁親王召見于舞
兒別邸特賜令旨公平感激心竊期報效未幾親王捐館威仁
親王繼爲總裁被囑副會頭公平愈感奮歷說各地參畫會務
聊致涓埃之微忱唯恨熾仁親王不及親覩斯業之完成也頃
者神苑會史料成因書來由一端以爲序

明治四十四年十二月

正三位勳一等男爵　周布公平撰

神苑會史料凡例

一本書ハ編年ノ體ニ倣ヒ、神苑會創始以來ノ經歷ヲ纂輯セル者ニシテ、務メテ事實ヲ收拾シ、妄リニ制作スルコトナシ。是レ實歷ヲ以テ來者ニ傳ヘント欲スルノ旨意ナレバナリ。

一事業資金召募ニ關シ、各府縣知事、郡長等、所謂地方委員部職員諸氏ノ厚意ト盡力トハ、固ヨリ感謝ニ餘アル所ナリト雖モ、書中悉ク其令名ヲ揭グルニ遑アラズ、諸氏之ヲ咎ムルナクンバ幸甚。

一書中「神宮」「帝室」「皇族」等ヲ指稱シ奉ルニ當リ、特ニ其字頭ニ間隔ヲ設クルモノハ、是レ編者ガ敬意ヲ表スルノ標置ニシテ、別ニ遵由スル所ノ例文アルニ非ルナリ。

一時期ヲ劃シテ創立、成立、法人、終局ノ四トシ、編次ヲ逐テ一ヨリ十ニ至ルモノハ、單ニ編纂上ノ便宜判別ニ出ルノミ、固ヨリ既往二

十五年間ノ史料ヲ網羅セシニ過ギズ、若夫編史ノ體要ヲ整備スルハ之ヲ後世修史家ノ技能ニ竢ツ所ナリ。

一本書引用書類ハ、悉ク神苑會事務所保存ノ簿册記錄ナラザルハナシ、是レ引用書目ヲ載セザル所以ナリ。

一創立中、記錄完備セズ、或ハ時日ヲ脫シ事歷ヲ逸スル者ナキヲ保セズ、而シテ調査ノ及ブ限リハ、首唱者太田小三郎氏ノ手帖、及編者ノ明確ニ記憶セル所ニ據リテ編述セシ點アリトス。

一本書ハ明治十九年六月ノ創始ニ起リ、同四十四年三月ノ解散ニ終ル。而シテ解散以後、民法ノ規定ニ據レル淸算人ノ事務ニ關シテハ、特ニ其要領ヲ末尾ニ揭ゲテ以テ事歷ノ局ヲ結ブモノナリ。

明治四十四年三月

編者識

神苑會史料目次

宮域及市街古圖　內宮外宮方面各一葉附略解

神都實測圖　一葉

第一編

創立第一期　明治十九年六月創始ヨリ同年十二月創立認許ニ至ル……一

第二編

創立第二期　明治二十年一月ヨリ同年十二月ニ至ル……四五

第三編

創立第三期　明治二十一年一月ヨリ同年十二月ニ至ル……一〇一

第四編

創立第四期　明治二十二年一月ヨリ同年六月ニ至ル……一六五

第五編　成立第一期　明治二十二年六月ヨリ同二十三年十二月ニ至ル……二七五

第六編　成立第二期　明治二十四年一月ヨリ同三十年十二月ニ至ル……三三五

第七編　成立第三期　明治三十一年一月ヨリ同三十五年十二月ニ至ル……四四七

第八編　法人第一期　明治三十六年一月ヨリ同三十八年十二月ニ至ル……五三九

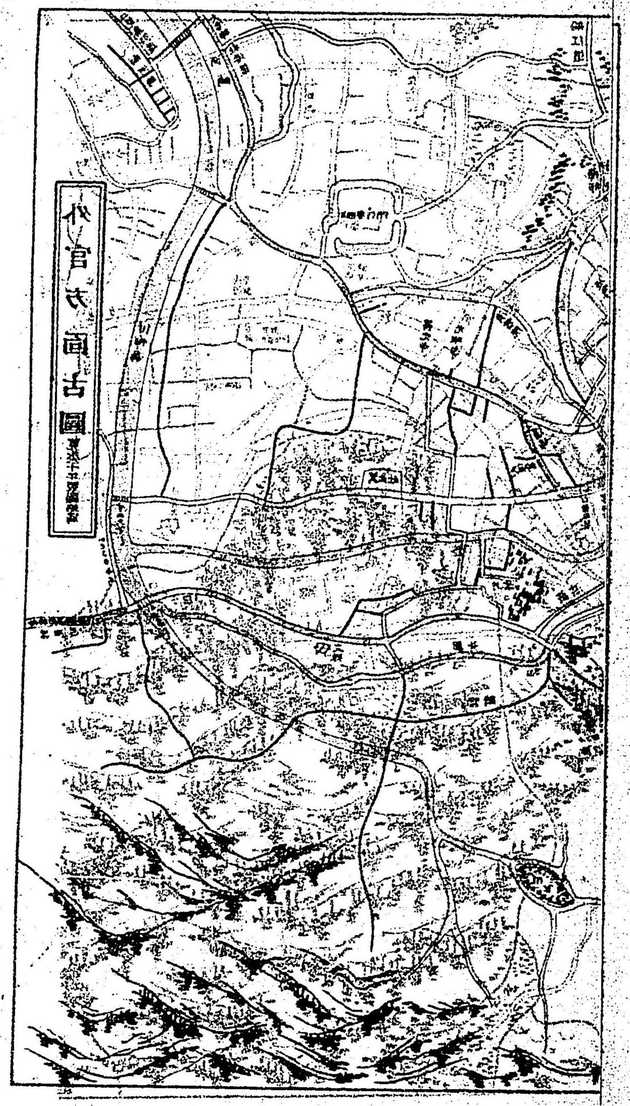
第九編　法人第二期　明治三十九年一月ヨリ同四十二年十二月ニ至ル……七二七

第十編　終局期　明治四十三年一月ヨリ同四十四年三月解散ニ至ル……八九五

通計十編目次畢

內宮方面古圖
北
東
西

外宮方面古圖



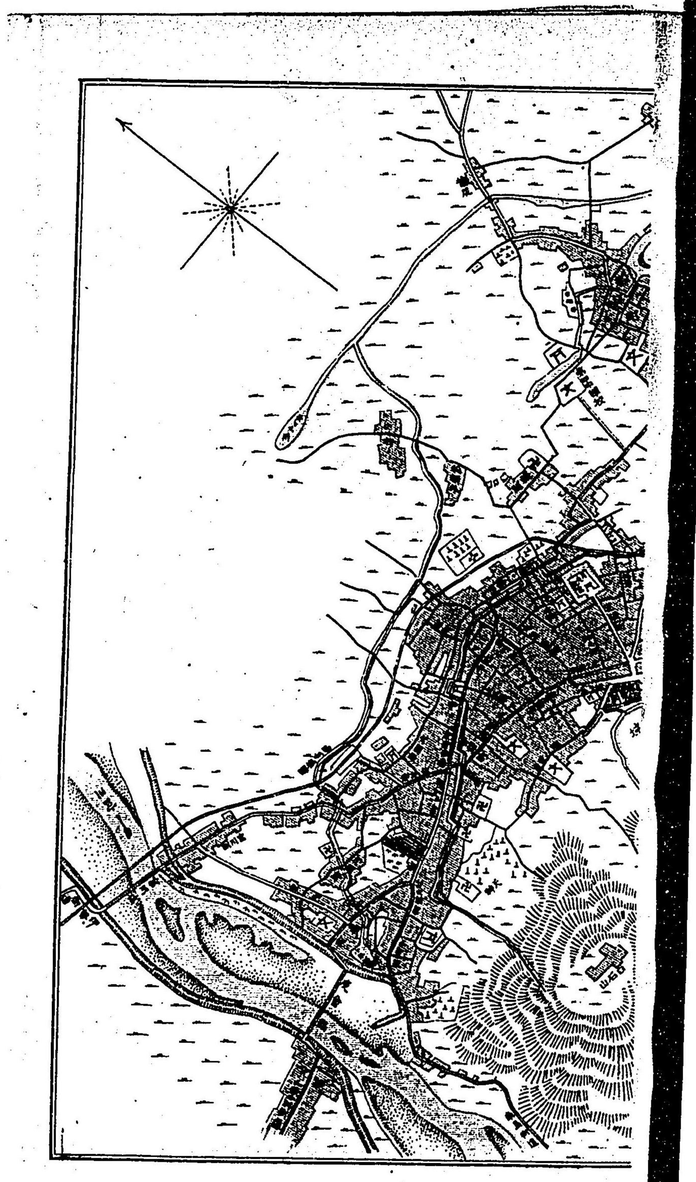
宮域及市街古圖略解

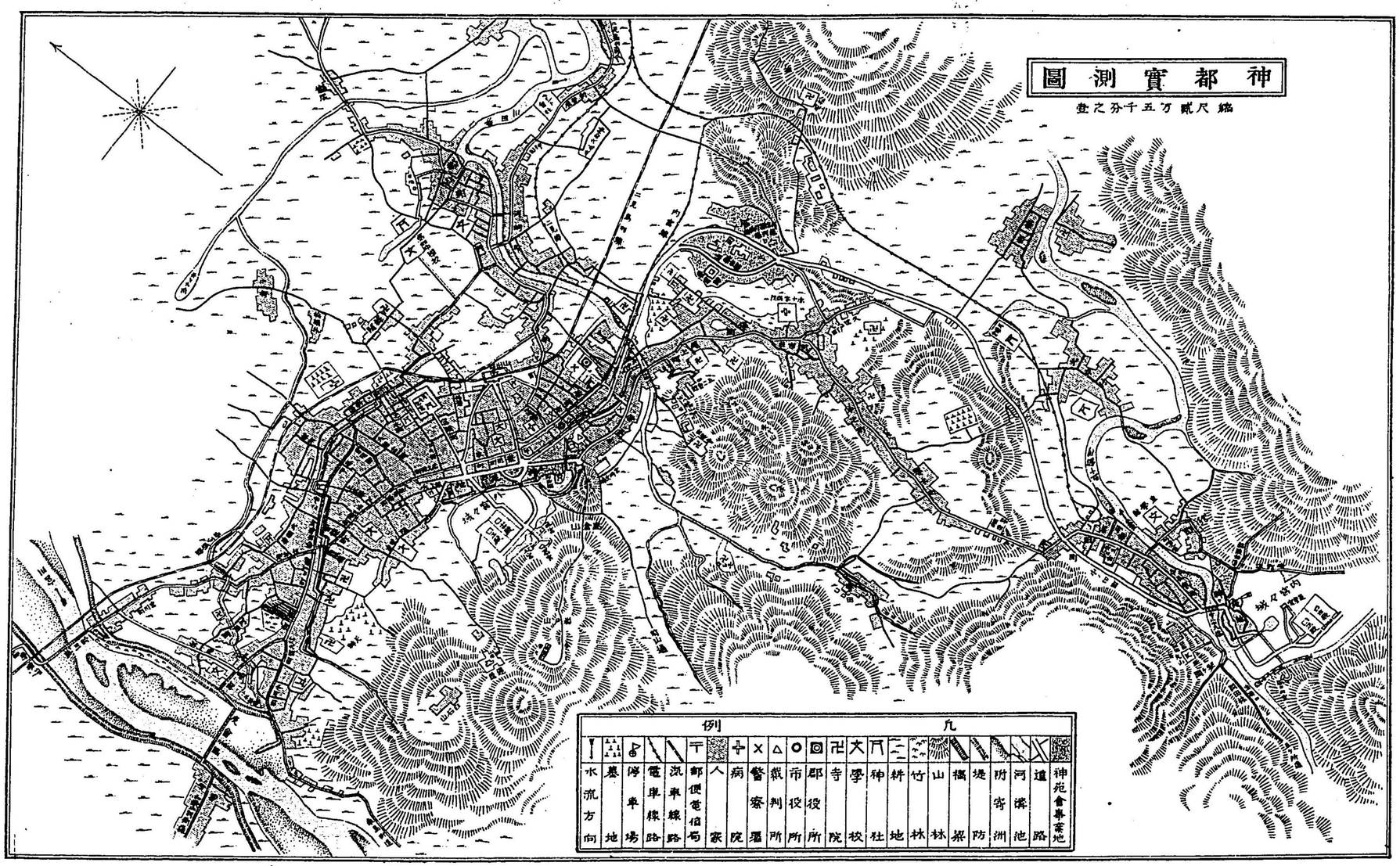
本圖ハ寛永二十年（今ヲ距ル凡二百六十年前山田奉行石川大隅守ノ時）ニ調製セシ原圖ヲ縮寫シテ、内宮　外宮ノ二方面ニ分割セルモノナリ。其樣式實測ニ據ラズト雖モ、古圖中最完全具備セルモノト認ム、古今ヲ對照スベキ好材料タルヲ以テ、掲ゲテ參考ニ資ス。當時ノ神領ハ宇治郷（附近村落ヲモ加フ）ヲ　内宮領、山田郷（附近村落ヲモ加フ）ヲ　外宮領トシ、宇治郷ニハ年寄、山田郷ニハ三方ノ家格アリ、各會合所ヲ置テ行政ノ衝ニ當リ、之ヲ統轄スルニ幕府派遣ノ山田奉行ヲ以テシタリキ。

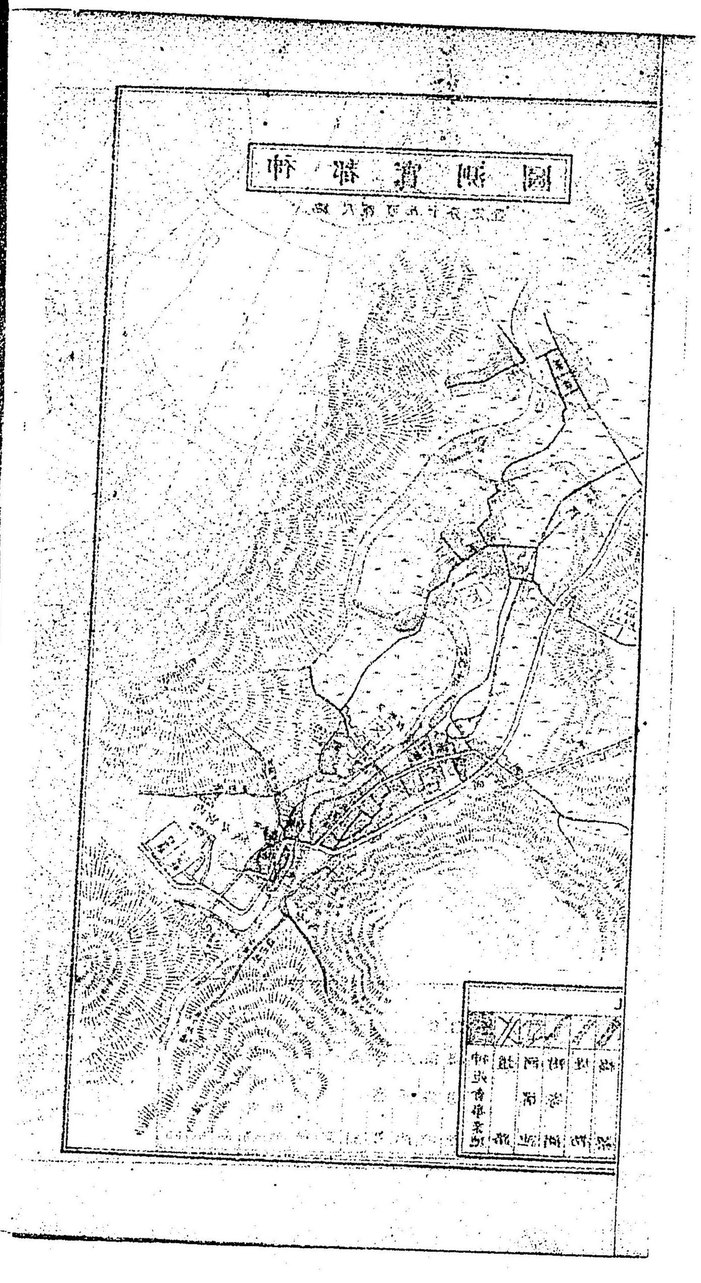
内宮領ハ古市以東ニシテ、外宮領ハ常明寺（今ノ優町）以西ナリト雖モ、紙幅餘リアルガ爲メ、外宮領ノ内、妙見町（今ノ尾上町）以東ヲ　内宮方面ノ部ニ掲出セリ。

外宮方面　宮域中、子良館附近ニ於テ館ト記入セル個處ハ齋館卽

ナ齋宿館舍ノ謂ニシテ域内ニ於ル附屬舍タル事固ヨリ論ナシト雖モ、當時既ニ全ク民舍ニ變體シ、從ツテ住民ノ占有地トナリシモノナリ。




神都實測圖
縮尺貳万五千分之壹
凡例
水流方向
墓地
停車場
電車線路
汽車線路
郵便電信局
人家
病院
警察署
裁判所
市役所
郡役所
寺院
大學校
神社
耕地
竹林
山林
樹林
堤防
附寄洲
河溝池
道路
神苑會專業地



神苑會史料緒言

神宮ハ

帝國ノ　大廟ナリ、

歷朝崇事ノ範、何ゾ祢禘嘗烝ノミヲ說ンヤ。記ヲ按ズルニ、

延喜ノ朝、成文斐然タリ。當時境域ヲ嚴ニシ穢汚ヲ禁ジテ以テ

廟地ノ肅清ヲ規ス。

南北朝以還、干戈相踵ギ　綱紀振ハズ。茲ニ於テ乎　齋館概ネ鄕

閭ニ屬シ、民家乃ヲ境內ニ列ナリ、火災數次、尙因襲シテ其地ヲ褻

瀆スルモノ久シ。

明治維新、百揆皇張、而シテ昔日ノ地未ダ復セズ、陋屋駢列シ烟塵

狼藉タリ。志士太田君、典故ニ徵シテ恢弘ノ急ヲ唱ヘ、且

昭代ニ膺ヘ偉觀ヲ興サンコトヲ圖ル、至誠耿々自ラ創業ノ難局

ニ當ルヲ期セリ。滿岡君啓沃剴切、乃チ募緣ノ疏ヲ草シ、名ケテ神苑會ト曰フ。同志響應駸々トシテ部署ニ嚮ヒ、先ヅ民家ヲ撤シテ宮域ヲ廓清ス。穢汚一掃、又疇昔ノ陋ヲ印セズ、識者以テ聖世ニ嘉績アリトス。

宮廷帑ヲ賜ヒ、朝野奬順、神苑ノ擧一氣ニシテ成ル。次デ徵古館ノ建營ニ及ボシ、倉田山ノ爽塏ヲ撰ビテ　神都ノ壯觀ヲ興ス。其徵古館ハ以テ文物ノ實迹ヲ繹ヌベク、農業館ハ以テ生產ノ彙類ヲ討ヌベシ。之ヲ攝スルニ庭園ノ勝槩ヲ以テシテ逍遙ノ淸娛ニ資ス。蓋曠古ノ儀表ナリ。曩ニ事業ノ緒ヲ開クヤ、宮內大臣子爵土方久元卿ノ指導匡翼ヲ辱シ、伯爵吉井友實卿ヲ會頭ニ推シ、有栖川宮ヲ奉シテ總裁ニ戴クノ榮ヲ荷フ。

現總裁威仁親王殿下、

故宮ノ遺緒ヲ紹述シ給ヒ。故吉井伯ノ後ヲ襲ギテ會頭子爵花房義質卿、副會頭男爵周布公平卿、評議員伯爵土方久元卿、理事田中芳男君、桑原芳樹君、自餘職員諸賢銳意統率、遂ニ克ク倉田山ニ徵農二館ノ經營ヲ完了シ、有終ノ美ヲ擧テ

神宮ニ奉獻セラル。達德令聞欽スベキ哉。不佞神都ニ生レ日夕斯業ヲ目睹ス、今又命ヲ編史ニ承ケ敢テ事ニ鉛槧ニ從フ。深ク諸賢ノ盡瘁ヲ感シ、轉タ

神明ノ眷佑アルヲ念フ。慙ラクハ菲才文ヲ屬スル能ハズ、只年次ヲ逐序シ事實ヲ捃摭スルノミ。幸ニ理事太田、滿岡兩君ノ校正ヲ得テ材料悉ク備ハリ、編制始テ就ル、洵ニ望外ノ榮ナリ。熟惟ルニ衆力ヲ鳩合シ著績ヲ經理ス、公且誠ニ非ルヨリハ安ヅ能ク濟ンヤ。本會ノ今日アル者、職トシテ公誠一貫ノ賜ニ由ラザルハナシ、

嗚呼、子來ノ庶民、衿ヲ　神苑ニ正シテ穆タル
清廟ヲ拜シ、踵ヲ馳道ニ旋ラシテ倉田山頭ノ風物ニ接セバ、其レ
必ズヤ心目暢然ノ裡、景仰愈敦ク瞻望愈博キモノアルヲ致サン。
顧フニ
昭代雍熙ノ化、
神德顯彰ノ實收メテ斯業ニ在ルヲ知ル。詩ニ曰ク追琢其章、金玉
其相ト、此之ヲ謂フ歟、冀クハ後世史家、本書ヲシテ更ニ玉振金聲
ノ域ニ至ラシメラレンコトヲ。明治四十四年三月編者藤井清司
謹デ書ス。

神苑會史料

第一編

神苑會史料

太田小三郎閲
滿岡勇之助校　藤井清司編

第一編　創立第一期

明治十九年六月創始ヨリ
同年十二月創立認許ニ至ル

神宮宮域ハ

恭
惟ル
神宮ノ尊嚴ト相待テ、萬古ノ壯嚴ヲ保タル、所ナリ。宮域愈壯ニシテ　神德愈顯カニ、　神德愈顯カニシテ國體愈輝ル。所謂　神德ヲ顯章シ國體ヲ發揮スル者、是我國民ノ本分ニ非ズシテ何ゾヤ。嘗テ舊記ニ據テ　域內ノ規模ヲ攷ルニ、大垣ヲ距ルコト方四十丈以內ニハ、人宅ヲ營ムヲ禁ジ、一點ノ穢汚ダモ境域ヲ犯スコトナカラシム。後世時勢ノ變遷ニ從ヒ、齋宿ノ館舍概ネ民家トナリ、屋宇駢

列、屢火災ノ慘害ヲ流ク、豈恐悚ノ至ナラズヤ。之レ德川幕府ガ、萬治、寛文ノ火災ニ寒心シテ局部改修ノ土功ヲ施シ。近クハ神宮上卿三條大納言(實萬)ガ、天保ノ火災ニ鑑ミ、館町一部ノ撤去ヲ斷行セシメラレタル所以ナリ。然レドモ當時施ス所、未ダ以テ完全ノ績ヲ得タリト謂フベカラズ、之ヲ直言スレバ、陋巷相接シ烟塵相迫ルノ狀、頗ル靈地ヲ傷フノ觀アリ。顧ミテ神都ノ情勢ヲ視ルニ、明治維新ノ激變以來、禰宜ノ世襲ヲ解レ、御師ノ慣例ヲ廢セラレ、民力衰弊未ダ他ヲ顧ルニ遑アラザル者、十餘年、蓋風物荒凉ノ感ナクンバアラズ。

地方ノ志士、太田小三郎深ク現狀ニ慨アリ、奮テ　宮域ノ肅清ヲ復シ、進テ神都ノ大觀ヲ興サント欲ス。窃ニ同志數輩ト謀リテ良圖ヲ講ズル者茲ニ日アリ、更ニ抱負ヲ述テ三重縣令石井邦猷ノ稱贊ヲ得ルニ遇フ、乃チ機ヲ決シテ神苑會ノ事業ヲ首唱ス。

初、首唱者胥謀テ曰ク、斯業壯大、獨リ吾輩地方一局部ノ微力、能ク期成スル所ニ非ズ、之ヲ成スハ衆力一致、計圖宜キヲ制シ、至誠以テ事ニ從フニ在リ。若夫輕舉計ヲ誤リ、半途ニシテ蹉跌セン乎、笑ヲ江湖ニ招キ、信ヲ大方ニ失ハンコトヲ恐ル。思フニ宇治山田ハ立脚根柢ノ地ナリ、宜ク率先シテ協贊ノ誠ヲ表セザルベカラズ、而シテ神宮司廳ノ補助ヲ仰ギ、且地方長官ノ奬勵ニ依リテ廣ク資金ヲ募ルヲ要ス、之レ當路其人ノ意向ニ徵シテ而シテ後吾輩提携ノ方途ヲ定ムベキ所ナリト。茲ニ於テ太田小三郎自ラ進テ其勞ニ膺リ、先ヅ神宮宮司鹿島則文ニ說ニ企圖ノ存スル所ヲ以テス。鹿島氏大ニ之ヲ壯トス。又三重縣令石井邦猷ヲ訪ヒ抱負ヲ陳ブ。石井氏亦私淑スル所アリ、意見符スルガ如シ、深ク其舉ヲ稱シ、機ニ臨ミ奬勵スベキヲ首肯ス。一等屬滿岡勇之助爲ニ創立主意書ヲ起草シ、名ケテ神苑會

ト云フ、首唱者相會シテ規則書ヲ草ス。

神苑會創設主旨

謹テ按ズルニ、

天祖ノ

天孫ヲシテ斯國ニ君臨セシメ給ハントスルヤ、勅シテ宣ハク、豐葦原ノ瑞穗ノ國ハ　朕ガ子孫ノ王タルベキ地ナリ、爾　皇孫就テ治ムベシ、寶祚ノ隆ナル、天壤ト窮リナカルベシト、又　天璽ノ寶鏡ヲ取テ　宣ハク、　朕ガ兒、此寶鏡ヲ視ルコト猶　朕ヲ視ルガ如クスベシト。玆ニ

神武天皇豐葦原ノ國ヲ平定シ、都ヲ大和ノ橿原ニ創メ、以テ　皇統不變ノ基ヲ固クシ、

垂仁天皇　天璽ヲ我宇治ノ五十鈴川上ニ鎮メ、天下億兆ト共ニ之ヲ敬崇シ給ヒ、於是　神德益彰ハレ海內清寧、所謂神人和合ナル者是也。夫レ我　神宮ハ

天祖天照大神ノ鎮座スル所、天璽ノ永ク　皇祚ヲ衛護スル所ニシテ、苟モ

神宮ヲ尊崇恭敬スルハ、則我帝國ノ臣民其心肝ニ銘シタル自然天賦ノ義務也。嗚呼

天下同胞ノ諸彥、恭ク　聖代ノ鴻恩ニ浴シ、崇尊欽仰ノ誠意、如何シテ以テ天下ニ表章スルヲ得ン。維新以來、神宮四時ノ祫祀ヨリ、威儀幣帛ニ至ル迄、絕タルヲ繼ギ廢タルヲ興シ、典禮孔ダ備ルト雖モ、神都ノ規畫未ダ十全ノ完備ヲ盡スヲ得ズ、億兆ノ常ニ以テ遺憾トスル所也。帝國ノ臣民ニシテ鞠躬盡瘁、大ニ有爲ノ精神ヲ奮ハザレバ、自然天賦ノ義務ニ背ク者ト謂ベシ。蓋神都ノ地タル山媚ビ水明ニ、千歲ノ風致ヲ存スルヲ以テ、今善ク勝區ノ規畫ヲ修メ、神宮ノ壯嚴ヲ擴張スルハ、同胞諸彥ノ宜ク奮テ以テ自ラ任ズベキ所ナリ。故ニ今回神苑會ヲ組織シ、公衆ノ良圖ヲ集メ大ニ計畫スル所アラントス。凡ソ　內宮ニ於テハ宇治橋以東ノ市街ヲ撤シ、更ニ神苑ヲ設ケ、苑中一大館ヲ興シ、神庫ノ寶物ヲ陳列シ、普ク庶人ヲシテ拜觀セシメ。外宮ニ於テハ其接近ノ地ト、幽邃清潔ノ地トヲ選ビ、四時ノ花木ヲ植エ、市街ノ塵囂ヲ遠ケ、一大勝區ヲ開キ、漸次神都ノ面目ヲ改更セントス。伏テ惟ルニ、

神宮ハ　帝國ノ宗廟ニシテ、名教ノ中心ナリ。

神武天皇ハ創業ノ　聖祖ナリ、宜ク其神殿ヲ神苑中ニ奠シ、以テ其

神靈ヲ祀リ、又　倭姫命ハ　垂仁天皇ノ朝、御杖代ト爲リテ

天祖天照大神ヲ奉ジ、三十餘年間各地ノ山河ヲ跋渉シ、遂ニ萬古不易ノ神宅ヲ五十鈴川上ニ相ス、亦宜ク神殿ヲ苑中ニ興シ、以テ其　神靈ヲ祀ルベシ、其他和氣鎌足諸公以下、楠新田ノ如キ、忠貞節烈苟モ　皇基ニ關シ、偉勳炳焉ノ諸公ハ、皆宜ク神苑中ニ興シ、以テ其　神靈ヲ配祀セバ、獨リ神宮莊嚴ノ擴張ノミナラズ、古來有勳ノ諸靈ヲ　宗廟ノ苑中ニ慰メ、彌我帝國ノ萬國ニ卓絶スルノ盛事ヲ顯揚スルニ足ラン、而シテ遠クハ天祖冥護ノ聖德ニ酬ヒ、近ク昭代雍熙ノ恩ニ答フ、正ニ此時ニ在リ、積年ノ思念自ラ措ク能ハズ、叨リニ僭越ヲ省ミズ、斯ノ神苑會創設ノ擧ヲ首唱スルニ至レリ、嗚呼、我同胞諸彦、今ニシテ此神恩ヲ報ゼズンバ既往ノ追フベカラズ、良圖ノ再シ難キヲ如何セン、敢テ請フ諸彦應分ノ資財ヲ拋チ、速ニ本會ノ目的ヲ贊助セラレンコトヲ、是管ニ

天祖天照大神ノ聖德ヲ奉謝スルノミナラズ、則我帝國臣民ノ光榮ヲ四海ニ輝シ、仰デ太平ノ盛事ヲ觀ルヲ得ン、爲ニ謹デ我同胞諸彦ニ告グ。

神苑會規則

第一條　本會ハ　神宮宮域外ノ莊嚴ヲ擴張センガ爲メ、宇治橋以內ノ市街ヲ撤シテ神寶拜覽所ヲ設ケ、外宮宮域外ニ連接セル豐川・岡本・田中ノ三個町ニ於テ、幽邃清潔ノ苑囿ヲ開キ、次デ倉田山ニ一大神苑ヲ設ケ

神武天皇及倭姫命ヲ祀リ奉ル神殿ヲ營ミ、和氣・鎌足諸公以下、楠・新田ノ如キ忠貞節烈苟モ　皇基ニ關シ偉勳炳焉ナル諸公ノ靈ヲ之ニ配祀シ、及其肖像碑銘ヲ建ルノ目的ヲ以テ、其原資ヲ汎ク我日本全國有志者ノ義捐ニ募リ、其事業ヲ奏スルニ在リ

第二條　本會ハ神苑會ト稱シ、當分ノ內、伊勢山田一志久保町次四拾九番屋敷ニ事務取扱所ヲ設置ス

但創立中、東京・大阪其他便宜ノ地ニ出張所ヲ設クルコトアルベシ

第三條　募集金額ハ凡五拾萬圓ヲ以テ目途トシ、明治十九年七月ヨリ同二十二年六月ニ至ル三個年間ニ募集スルモノトス

但金額ノ充否ニヨリ募集期限ヲ伸縮スルコトアルベシ

第四條　寄附金募集濟ノ上ハ寄附人名及金高等ヲ卷軸ニ明記シテ寶庫ニ藏メ、金

拾圓以上ノ寄附者ハ特ニ之ヲ石材ニ鏤刻シ、又金百圓以上ハ其望ニ應ジ、本人若クハ祖先ノ傳記等ヲ彫刻シ、神苑中適當ノ地ニ建立スルコトアルベシ

第五條　寄附金ハ募集手續書ニ照準スベシ

第六條　寄附金募集中ハ、一個月毎ニ之ヲ取纒メ、本會ト定約シタル銀行本店ニ利附預ケ金トナスモノトス

第七條　募集金總額三分ノ二ヲ以テ、本會事業ヲ創設スル一切ノ費途ニ供シ、剩餘三分ノ一ハ縣廳ノ管理ヲ受ケ、之ヨリ生ズル年々ノ利子ヲ以テ保存費ニ充ルモノトス

第八條　設立及保存等ノ事業ハ、本會ノ意見ヲ具陳シテ縣廳ノ監督ヲ受ルモノトス

第九條　寄附ノ金額ハ多寡ヲ論ゼズト雖モ、金拾圓以上ノ寄附者ヲ以テ本會會員トシ、參拜ノ節ハ神苑中ニ於テ特別ノ接待ヲ爲スモノトス

第十條　會員中ニ於テ會頭一名、副會頭二名、幹事長一名、幹事二十名ヲ互選シ、滿三個年間本會ノ庶務ヲ整理セシム

但役員ニハ總テ給料ヲ支給セズ

第十一條　本會ノ出納計算ハ毎年新聞紙ヲ以テ廣告スベシ

第十二條　毎年五月ヲ以テ會員ノ總會ヲ開キ、出納報告書ヲ檢シ、及本會將來ノ保存方法等ニ關スル意見ヲ開陳スルモノトス

但例會ノ諸費ハ保存資金ノ利子ヲ以テ支辨スルモノトス

第十三條　本會ハ當分ノ內發起人中ニ於テ一切創立ノ事務ヲ處辨擔任スルモノトス

第十四條　本會ノ規約ハ會員協議ノ上改訂增補スルコトヲ得ベシ

寄附金募集手續書

第一條　寄附金募集ノ爲メ派出スル委員ハ、有志者ノ姓名及金高等ヲ記入シテ本會ニ復命スルニ止マルモノトシ、本會ハ更ニ該金取纒ノ爲メ、會員中特ニ選定シタル委員ヲ派遣シ、之ヲ徵收スルモノトス

但各委員ハ其權限ヲ明記シタル委任狀ヲ携帶シ、有志者等ノ望ニ依リ之ヲ明示スベキモノトス

第二條　前條徴收委員ハ各地方ノ寄附金ヲ取纒メ、本會ト定約セル最寄銀行ヘ送附スルモノトス

第三條　徴收委員、有志者ヨリ金員ヲ領收シタル時ハ、左式ノ受取證ヲ交付スベシ

寄附金受取證

一金　若干

右ハ本會規則第一條ノ趣旨ニ因リ御寄附相成正ニ受取候也

年　號　月　日

神苑會印

同會寄附金徴收委員

何之誰印

郡町村

何　某　殿

第四條　寄附金徴收委員ハ前條手續ヲ經タル領收金ヲ詳記シ、十五日間毎ニ之ヲ本會ニ報告スベシ

第五條　本會ニ於テハ前條報告ヲ受ルノ後、各有志者最寄ノ新聞紙ヲ以テ、其人名

金高等ヲ廣告スルモノトス

第六條　寄附金ハ一時ニ送附スベキモノナレドモ、寄附者ノ望ニヨリ募集期限中、之ヲ三回ニ送附スルモ妨ナシ

第七條　本會ハ左ニ列擧スル所ノ銀行ニ委托シテ寄附金取扱所トシ、最寄各地方ノ集纒額ヲ管理スルモノトス

東　京　何　銀　行

大　阪　何　銀　行

其他處々ノ銀行

第八條　寄附金ハ前條記載シタル定約取扱所ノ外、一切取扱ハザルモノトス

此稿成ルニ及ビ、度會郡長浦田長民ニ請ニ市民招集ノ事ヲ以テス。浦田氏亦神都ノ人也、深ク此擧ヲ喜ビ、宇治山田各町ノ戸長議員幷ニ有力ノ輩ヲ招キテ本會企圖ノ要ヲ告ゲ其協贊ヲ求ム。相會スル者五十餘名、皆贊同ヲ表シ敢テ事業ヲナサン事ヲ希フ、意嚮立ロニ

決シ、主旨規則ヲ定メ、事業順序ヲ立ンガ爲メ、直ニ委員七名ヲ擧テ起草ヲ托ス、之ヲ明治十九年六月五日トス。本會創立ノ起原是也。

神苑會事業着手順序豫定

本會ハ緒言ノ如ク、大廟宮域外ニ於テ一大壯觀ナル神苑ヲ創設スルニ在リ、依テ之ガ着手順序ヲ豫定スル左ノ如シ。

第一　內宮ハ宇治橋以內ノ地反別凡三町歩、地價凡貳千貳拾圓及其地ニ存在セル家屋五十一戸ヲ買上ゲ、寶物拜觀所ヲ建設シ、外宮ニ於テハ宮域ニ接續セル田中中世古町南側卽チ、外宮入口東方櫻樹ノアル所ノ續キヨリ、假郡役所ノ橫ナル石橋ノアル所迄ト、豐川町內字前野ト稱スル所一般舊社左右ノ沼田及ビ岩戸下一般ト、岡本町內字堀切一般右三個町ノ地、反別凡四町六反歩、地價概計參千八百圓及其存在ノ家屋凡八十戸ヲ買上ゲ、花木等ヲ栽植シ、且又岩戸山ハ神苑會ニ拜借修飾ノ事ヲ以テ第一着歩トス

第二　一大神苑ヲ別紙圖面ノ倉田山ニトシ、歷史博物館ヲ建テ、其他花木奇石等ヲ配置シテ閑雅幽邃ノ風趣ヲ添ヘ、且一大館ヲ建設スルヲ以テ第二着歩トス

第三　前記神苑ノ外、西行谷、九山及ビ大瀧、小瀧等ノ古跡名勝ノ地ヲ修飾シ、神苑ノ別區トスルヲ以テ第三着歩トス

第四　前記第一着ノ地所家屋等買上代價ヲ凡七千圓ト豫定シ、該地工事ノ豫算金ハ凡五萬八千圓トス、此募集方法ハ宇治山田地方ノ有志者ヨリ金壹萬圓ヲ醵集シ、金貳萬五千圓ハ神宮司廳ノ補助ヲ仰ギ、尙不足額ハ他ノ義捐金ヨリ之ヲ補充ス

第五　第二、第三着歩ノ工事ハ、凡參拾萬圓ト豫定シ、汎ク我日本全國有志者ノ義捐金ヲ以テ之ニ充ルモノトス

一以上ノ工事ハ都テ縣廳ニ委托シテ其監督ヲ受ルモノトス

一本會會頭、副會頭ハ石井本縣令、及ビ鹿島宮司ニ懇願依賴スルモノトス

一幹事長以下ノ役員ハ會員中ヨリ互選スルモノトス

右豫定案ニ所謂歷史博物館ハ他日成功ノ徵古館是也。當時同志ノ一人大岩芳逸等熱心歷史館ノ計圖ヲ唱道ス。首唱者太田小三郎固

ヨリ壯舉ニ志アリ、倉田山ノ之ニ適スルヲ說ク、衆皆之ヲ可トシ、石井三重縣令ノ巡視ヲ迎ヘテ倉田山ニ導クニ至ル。而シテ提案一ビ出ルヤ、人心頓ニ振ヒ意氣大ニ昂レリ、事業資金五拾萬圓ノ計圖ニ甘ンゼズ、尙計畫規模ノ壯大ヲ希フノ情アリ、爲ニ委員五名ヲ增加シ、再ビ起草ヲ托ス。茲ニ於テ委員相議シ更ニ規模ヲ擴大シテ事業資金ヲ百貳拾萬圓トシ、主旨規則ヲ修補シ印刷シテ之ヲ各町ニ頒ツ。

神苑會規則書

緒言

謹デ按ズルニ、

天祖ノ

天孫ヲシテ斯國ニ君臨セシメ給ハントスルヤ、勅シテ宣ハク、豐葦原ノ瑞穗ノ國ハ　朕ガ子孫ノ王タルベキ地ナリ、爾　皇孫就テ治メヨ、寶祚ノ隆ナル天壤ト窮ナカルベシト、又　天璽ノ寶鏡ヲ取テ宣ハク　朕ガ兒此寶鏡ヲ視ルコト猶　朕ヲ視ルガ如クスベシト。茲ニ

神武天皇豐葦原ノ國ヲ平定シ、都ヲ大和ノ橿原ニ創メ、以テ　皇統不變ノ基ヲ固クシ、

垂仁天皇　天璽ヲ我宇治ノ五十鈴川上ニ鎭メ、天下億兆ト共ニ之ヲ敬崇シ給フ。即チ我

神宮ハ

天祖天照大神ノ鎭座スル所、天璽ノ永ク　皇祚ヲ衞護スル所ニシテ、天下億兆ノ尊崇敬仰スルハ則我帝國ノ臣民其心肝ニ銘シタル自然天賦ノ義務也、嗚呼天下同胞ノ諸彥、恭ク　聖代ノ下ニ寧息シ、何ヲ以テカ　聖恩ノ萬一ニ酬ヒ奉ルコトヲ得ン。夫惟ルニ、神都ノ地タル山媚ビ水明ニ、千歲ノ風致歷然心目ヲ洗フガ如ク、神路・朝熊ノ諸嶺ハ巍々トシテ倉田・岩戸ノ二山ト相對シ、秀靈幽邃ノ氣、發シテ大瀧小瀧ノ飛泉トナリ、清冽浩瀁ノ水、流レテ二見ノ渚ニ朝宗シ、紫淵渺々ノ間、志州群島碁峙ノ光景ヲ現出ス、又西南ニハ野後ノ別宮、阿曾ノ礦泉アリ、其他重巒疊嶂、宛轉相屬シテ

紀伊ニ亙リ、木津呂溪山ノ如キ、其名勝古跡皆以テ内外人士ノ遊覽ニ供スベシ、然レドモ古來　大廟域外ノ規畫經理スルモノ之無キガ爲メ、一タビ　宮域ヲ出レバ道路荒廢榛荆地ニ滿チ、人ヲシテ慨歎流涕セシムルノ現狀ヲ呈シ、天下ノ勝區ヲシテ泯然荒寥陰鬱ノ中ニ埋沒セシム、之實ニ千載ノ遺憾ナリ、因テ茲ニ　大廟宮域ニ接スル人家ヲ撤去シ、幽邃清潔ノ神苑ト爲シ、市街ノ塵囂ヲ遠ケ、次デ倉田山ニ一大壯觀ナル苑囿ヲ開キ、博物館・書籍館・水族館・禽獸園等ヲ設ケ、宇内ノ天産人巧ヲ蒐集シテ公衆ノ耳目ヲ煥發シ、夫ノ名山古跡ノ形勝ヲ修メ、車道ヲ連絡シ、秩然神都ノ規模ヲ整理シ、以テ

聖仁天皇ノ億兆ト共ニ

天祖ヲ恭敬尊崇シ給フ所ノ　聖謨ニ副ヒ、益　神威ヲ振ヒ國光ヲ耀シ、鞠躬盡瘁大ニ有爲ノ精神ヲ奮ハント欲ス、而シテ今斯ノ神苑會ヲ組織スルニ先チ公衆ノ良圖ヲ集メ、其計畫方法ヲ定メント欲スレドモ、天下ノ廣キ億兆ノ夥シキ、普ク就テ詢ル能ハズ、我輩神都ノ下ニ棲息シ積年ノ思念自ラ措ク能ハズ、叨リニ僭越ヲ顧ミズ神苑會創設ノ擧ヲ首唱スルニ至レリ、嗚呼我同胞諸彦遠ク

天祖冥護ノ　聖德ニ酬ヒ奉リ、近ク　昭代雍熙ノ恩ニ答ヘ、彌我帝國ノ萬邦ニ卓絶スルノ盛事ヲ顯揚スルノ目的ヲ贊助セラレンコトヲ、是管ニ

天祖天照大神ノ　聖德ニ酬ヒ奉ルノミナラズ、仰デ太平ノ洪恩ニ謝シ奉ルノ芹誠ヲ表章スルヲ得ベシ、別冊本會規則書ヲ付シ謹デ我同胞諸彦ニ告グ、

神苑會規則

第一條　本會ハ神苑會ト稱シ、神宮域外ノ規模ヲ擴張シ、一大神苑ヲ開キ、普ク天下ノ奇觀ヲ蒐集シ、以テ公衆ノ遊覽ニ供スルヲ主旨トス

第二條　本會事務所ハ度會郡山田ニ設置ス

但東京・大阪其他便宜ノ地ニ出張所ヲ設ク

第三條　事業資金及保存資金併セテ金百弐拾萬圓ヲ目途トシ、宇治山田地方ニ於テ醵集ノ餘、汎ク全國有志者ノ義捐金ヲ募集ス

第四條　前條ノ金額ハ、明治二十年二月ヨリ同二十三年一月ニ至ル三個年間ヲ期シテ募集ス、但金額ノ充否ニヨリ、募集期限ヲ伸縮スルコトアルベシ

第五條　募集總額四分ノ三ヲ以テ、創立幷ニ事業ニ要スル一切ノ費途ニ充テ、剩餘

ノ四分ノ一ヲ以テ保存資金トス

第六條　保存資金ノ一半ハ縣廳ノ保管ヲ請ヒ、一半ハ殖産興業ノ爲メ、確實ナル抵當ヲ要シテ貸與シ、其利子ヲ以テ保存ノ諸費ニ供ス

第七條　寄附金募集中ハ一個月毎ニ取纒メ、本會ト定約セル銀行ニ預ケ、利倍增殖ヲ圖ルベシ

第八條　寄附金募集ノ方法ハ、別ニ條定スル所ノ取扱順序ニ照準スベシ

第九條　本會ノ創設ヲ補翼シ、及將來ノ隆昌ヲ規畫シテ協力贊助スルモノヲ名譽會員トス

第十條　寄附ノ金額ハ多寡ヲ論ゼズト雖モ、金百圓以上ニ及ブ者ヲ特別會員トシ、拾圓以上ノ者ヲ通常會員トシ、各其證票ヲ附與ス

但會員ニハ苑中待賓館ニ於テ特別ノ待遇ヲナスベシ

第十一條　寄附金募集濟ノ上ハ人名及金高ヲ卷軸ニ明記シテ、寶庫ニ藏メ、金拾圓以上ノ者ハ特ニ之ヲ石材ニ鏤刻シ、百圓以上ニ及ブ者ハ本人若クハ祖先ノ傳記等ヲ彫刻シ、苑中適宜ノ地ニ建設スベシ

第十二條　神苑及保存等ノ事業ハ、本會ノ意見ヲ具陳シテ縣廳ノ監督ヲ仰グモノトス

第十三條　本會會員ノ推薦ヲ以テ、總裁一名、會頭一名、副會頭一名、幹事長一名、幹事五十名ノ役員ヲ置ク

但總裁ノ見込ヲ以テ幹事ノ人員ヲ增減スル事アルベシ、幹事長以下ノ役員ハ滿三個年ヲ以テ任期トス、滿期後總裁ノ見込ヲ以テ再選スルコトヲ得

第十四條　總裁ハ本會一切ノ事務ヲ監督ス

第十五條　會頭及副會頭ハ常ニ總裁ヲ補佐シ、或ハ總裁ニ代リテ幹事以下ノ役員ヲ統督ス

第十六條　幹事長及幹事ハ總裁ノ意ヲ承ケ一切ノ庶務ヲ整理ス

第十七條　本會ノ事務ヲ處理スル爲メ、事務所ニ庶務及主計ノ兩部ヲ設ケ、部長各一名、部員若干名ヲ會員中ヨリ選任シ、總裁ノ認可ヲ經、各事務ニ從事スベシ

但事務員ニハ相當ノ給料ヲ支給ス

第十八條　本會ノ出納計算ハ、每年新聞紙ヲ以テ明示ス

第十九條　毎年四月ヲ以テ會員ノ總會ヲ開キ、出納報告書ヲ檢シ、及本會將來ノ事件ニ關スル意見ヲ開陳スルモノトス

但開會期日ハ一個月前新聞紙ヲ以テ報道シ、且會場ノ諸費ハ保存金ノ利子ヲ以テ支辨ス

第二十條　本會議事ハ會頭之ヲ攝ス、若事故アリテ缺席スルトキハ副會頭又ハ幹事長之ヲ代理ス、其議員ハ會員ヲ以テ之ニ充ツ

第廿一條　議事細則ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第廿二條　本會ノ規則ハ、總裁ノ意見若クハ會員ノ協議ニヨリ、總裁ノ認可ヲ經テ之ヲ改訂增補スルコトヲ得

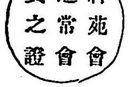
會員證票圖式

名譽會員證票

表面

特別會員證票

通常會員證票



直徑八分

裏面

同　七分

同　七分

寄附金募集取扱順序

第一條　寄附金募集ハ主トシテ宇治山田地方ニ於テ醵集シ、其餘ハ總裁ノ指定ニ依リ順次各府縣ニ募集委員ヲ派出スルモノトス

第二條　募集委員ハ、應募者ノ姓名及金高等ヲ記帳シテ本會ニ復命スルニ止マルモノトス

但派出員ニハ、其權限ヲ明記シタル委任狀ヲ携帶セシム

第三條　有志者ハ其住所姓名及金高ヲ詳記シテ最寄銀行ヘ回金シ、銀行ニ於テハ金額記入ノ姓名簿ニ照シ、假領收證ヲ交付スベシ

第四條　前條ノ手續ニヨリ之ヲ徵收スト雖モ、本會ハ更ニ該金取纒ノ爲メ、徵收委員ヲ派遣スルコトアルベシ

第五條　徴收委員ニ於テ直ニ金員ヲ領收シタルトキハ、左式ノ受取證ヲ交付スベシ

寄附金受取證

一金　若干

右ハ本會規則第一條ノ趣旨ニ依リ御寄附相成正ニ領收候也

年　月　日　　神苑會　印

同會寄附金徴收委員

何之誰　印

縣郡町村

何某　殿

第六條　徴收委員ハ、前條手續ヲ經タル領收金高及姓名ヲ詳記シ、一週間毎ニ本會ニ報告スルモノトス

第七條　本會ニ於テハ、前條報告ヲ得タルノ後、更ニ新聞紙ヲ以テ之ヲ廣告スベシ

第八條　記帳ノ金額ハ一時ニ徴收スト雖モ、寄附者ノ都合ニ依リ、募集期限中三回ニ回金スルモ適宜トス

第九條　本會ハ左ニ列記スル所ノ銀行ニ委托シテ各地方最寄ノ寄附金ヲ取扱ハシム

東京何銀行　大阪何銀行　其他各地ノ銀行

第十條　寄附金ハ、前條ニ記載シタル銀行及徴收委員ノ外、一切取扱ハザルモノトス

主旨規則并ニ豫定計畫案既ニ成ル、宜ク組織ヲ定メ創立ノ旗幟ヲ樹テザルベカラズ。乃チ宇治山田ヲ以テ一致主動ノ地トシ、各町ニ歴説シテ多數ノ創立員ヲ置キ、創立員中毎町三名ノ常務委員ヲ互選ス。其總員九十名、別ニ戸長八名ヲ委員トス。凡ソ協議ヲ要スル毎ニ常務委員及委員ヲ會シテ事ヲ決ス。

六月十六日、會スル者八十二名、度會郡長浦田長民ヲ假會頭ニ推シ、事務ヲ分科シテ庶務・土木・文書・主計ノ四部トシ、假會頭ノ指名ヲ以

テ、各部五名ノ役員ヲ擧ゲ、事務所ヲ一志久保町ニ假設シテ創始ノ百端ヲ經理ス。役員左ノ如シ。

庶務部　太田小三郎・大岩芳逸・吉田轍五郎・山本伊兵衛・宇仁田宗馨

土木部　濱田種助・井坂德三郎・澤瀉久信・西川武右衛門・大西六郎兵衛

文書部　石丸弘人・古森梅太郎・白井清榮門・藤井清司・吉川清三郎

主計部　橋爪孫七・上野梧一・島田長兵衛・世古善兵衛・野村四郎兵衛

六月二十一日、外宮附近ノ買收スベキ用地幷ニ撤去スベキ人家ヲ指定シ、所屬町役場ヲ經テ其旨ヲ各所有者ニ通ズ、計畫實施ノ端ヲ開ク所ナリ。

次デ主動地ノ醵金ヲ定メンガ爲メ、二十五日常務委員會ヲ開キ、醵金法案ヲ評決ス。

醵金法案

一金七萬五千圓　　市街幷ニ近郷村募集總額

內譯

金參萬參千七百五拾圓

但一戸ニ付一個年十五日ヅヽ、三個年間人夫ヲ出スモノトシ、一日拾五錢ノ割、市街中五千戸分見積

金貳萬貳百五拾圓

但同上近郷村中、三千戸分見積

金壹萬六千圓

但市街三十個町ヨリ寄附、金募集總額

金五千圓

但市街共有金ヨリ補助支出ヲ請フ見込

本案寄附金實地ノ徵收手續ハ七月五日ヲ期シ、各町常務委員中各一名ノ代議員ヲ出シ、各町戸長ト會同シテ評定スベキニ決ス。

醵金法案ノ實施ニ先ダチ、附近村落ヲ誘導シテ創立ノ地位ニ加フルノ要アリ、役員分擔之ニ奔走ス。又神苑用地ノ買收及家屋撤去ニ

關シ、七月八日役員會ニ於テ其價格ノ標準ヲ定ムルコト左ノ如シ。

用地買收價格ハ地價七分以内トシ、撤去料ハ實際ノ家屋ヲ評價シ、一坪貳圓乃至七圓ノ範圍ニ於テ五等級ニ分チ、土藏ハ一坪七圓乃至拾貳圓ノ範圍ニ於テ三等級ニ分ツ、尚實地ヲ檢査シ必要アルトキハ等外ノ價位ヲ附スルコト、內外宮各方面トモ之ニ準ズ、但　內宮方面ノ地所ハ地價ノ限度ヲ超ユベカラザルベシ。

茲ニ至リテ初メテ地所家屋ノ調理ニ關スル擔務者八名ヲ定ム。

內宮方面　澤潟久信・濱田種助・井坂德三郎

外宮方面　西川武右衛門・吉川清三郎・山田大路元安・石丸弘人・大西六郎兵衛

創立ノ地其負擔額ヲ評決スルヤ一氣呵成ノ概アリ、宜ク此機ニ乘シテ個人ノ應募額ヲ定ムベシトシ、各町ノ資產家ヲ網羅シテ主計部員ニ擧ゲ、範ヲ多數ノ町民ニ示サンガ爲メ先ヅ役員ノ義捐ヲ促ガス。茲ニ於テ率先シテ各其額ヲ定ムル者、少キハ五拾圓ヨリ多キハ參百圓ニ至ル。

日夜奔走、着々步武ヲ進ムルニ方リ、七月以降、虎列刺病流行蔓延ノ兆アリ、人心洶々、爲ニ會務ヲ阻止スルコト凡二個月、八月下旬ニ至リ前緒ヲ繼續ス。當時急施ノ要、速カニ用地ノ買收ヲ了スルニ在リ、寄附金募集高ヲ定ムルコト之其次ナリ、創立ノ事實其步ヲ進ムルニ從ヒ內務省其他有司ニ對シテ請願陳情ノ途ヲ開クコト之其三ナリ。而シテ各部ノ役員專心事ニ從ヒ、事務益多端ニシテ縣廳ニ出頭ヲ要スルコト少カラズ。十月六日、參廳ノ旅費ヲ制定シ（往復拾錢五厘、宿泊拾錢五厘）次デ八日、役員中、專任理事二名ヲ置キ、月給各拾圓ヲ支給スルニ決ス、島田長兵衛・吉田轍五郎其選ニ當ル。

十一月十六日、內務次官芳川顯正、公務ヲ以テ縣下ヲ巡視ス。役員等謂ヲク本會將ニ他日ノ發展ヲ期セントス、內務當局者ニ對シテ本會設立ノ意志ヲ開陳スルハ最モ其必要ヲ感ズル所ナリ、此機逸ス

ベカラズト、乃チ庶務部員山本伊兵衛ヲシテ本會ヲ代表シ、縣廳ニ至リ石井知事ニ稟議セシム。知事之ヲ首肯シ相伴ウテ内務次官ヲ伊賀ニ迎ヘ、轉シテ南勢ニ嚮フ。本會役員等之ヲ明星村ニ逢迎シ、共ニ導キテ神都中之町旅館聚遠樓ニ投ズ、翌日有志七十餘名招宴ヲ同樓ニ開ク。

内務次官芳川氏、兩宮接近ノ地ヲ實視シテ曰、古昔、宮中炎上ノ實例ニ鑑ミ、斷シテ民家ノ撤去ヲ遂行セザルベカラズ、神苑會ノ事業着眼甚ダ可ナリ、政府モ亦當ニ其成功ヲ翼クルニ躊躇セザルベシト。滯留四日、二見浦ヨリ航シテ四日市港ニ向フ。當時石井知事ノ命ヲ承ケ滿岡縣屬創立願書ヲ起草シテ次官ノ閲ニ供セリト云フ。十一月二十一日、本會事務所ヲ度會郡役所構内ニ移ス。十二月以降、分科中、土木、文書ノ兩部ヲ廢シテ之ヲ庶務部ニ併セ、庶務・主計兩部員中、各日勤員ヲ定メ、月曜毎ニ役員ヲ擧テ參集ノ例日トス。其役員ニハ月給日給ヲ給セズ。理事二人、一名ハ月給拾五圓、一名ハ拾圓ヲ給シ、書記二員（五月給四）ヲ置クニ決ス。

庶務部日勤員

太田小三郎・大岩芳逸・山本伊兵衛・宇仁田宗磬・山田大路元安・上野梧一・濱田種助、石丸弘人・白井清榮門・吉川清三郎

右候補十名ノ内三名ヅヽ交番勤務

主計部日勤員

二名ノ内一名ハ島田政充常勤、一名ハ部員中交番勤務

十二月十五日役員會ヲ開キ、二見浦ニ一館建築ノ事ヲ決ス（後ニ至リテ賓日館ト稱スル者是也）蓋石井知事ノ慫慂ニ基キ、皇太后陛下ノ行啓ニ奉供センガ爲ナリ、議立ロニ決シ建築委員二名（島田政充・秋田喜助）ヲ擧テ之ガ設計ヲ委ネ、併セテ工事ノ監督ヲ

托ス。其建設費概算金五千圓、當時未ダ醵金ヲ收入セザルヲ以テ、主計部員、庶務部員連帶無限ノ責任ヲ負ヒ、第百五國立銀行山田支店ニ就キ借欵ヲ了ス。

此月、第二着歩計畫用地ノ内、黑瀨村共有山、反別二十八町二反歩ヲ購入スルニ決ス、蓋遷延機ヲ失スレバ購買上障害ヲ生ズルノ恐アルヲ以テナリ。

本會創立ノ事實、既ニ公衆ノ耳目ヲ動カスモノアリト雖モ、未ダ地方廳ニ對シ公然出願ノ途ヲ履マズ、茲ニ於テ本月十五日左ノ創立願書ヲ提出シ、二十八日認許ヲ得タリ。

神苑會創立願

恭ク惟ルニ

神宮ハ　帝國ノ　宗廟　皇室ノ先靈ニ渡ラセ給ヒ、其深澤厚恩天下億兆ノ共ニ銘肝仕候所ヨリ、益々　神威ヲ耀シ國勢ヲ振ヒ聊　聖恩ノ萬一ニ酬ヒ奉ンガ爲メ、同志相謀リ拮据經營仕、今般不憚恐懼奉願候、夫我度會ノ地タル

天祖天照大神ノ　神靈ヲ五十鈴ノ川上ニ鎭メ、金甌無缺ノ基本ヲ固メ給ヒシ所ニシテ、山媚ビ水明ニ寔ニ千歲ノ風致歷然心目ヲ洗フ可シ、而シテ

大廟宮域ニ接スル倉田岩戸ノ二山、幽邃高遠ニシテ北東二見浦ノ勝概ヲ帶ビ、東南大瀧小瀧ノ風趣ヲ添エ、又其西南ニ當リ野後ノ　別宮ヲ控ヘ、傍ニ阿曾礦泉ノ靈地ニ連絡セリ、其古跡名勝内外人士ノ歷遊ニ供スベシ、然レドモ從來廟外ノ規畫ニ注目スルモノ之ナク、榛荊地ニ滿チ車道未ダ修マラズ、人ヲシテ歎欷流涕セシムルノ慨アリ、抑モ至尊至重ナル　大廟ノ下ニ於テ、如斯觀ヲ呈スルハ、臣民ノ義務一日モ食眠ヲ寧ンズ可カラズ、殊ニ我々此地ニ生息シ憤慨自ラ措ク能ハザル所ナリ、因テ茲ニ　大廟宮域外ニ於テ一大壯觀ナル神苑ヲ開カンガ爲メ、神苑會ヲ創設シ、前顯古跡名勝ニ連接スル車道ヲ修メ、沼田其他民屋等　宮域ノ體面ヲ損スルモノハ、悉ク資金ヲ拋チ之ヲ買得シ、笏ニ　皇國大神苑ノ規模ニ適合セシメン事ヲ切望シ、其計畫方法既ニ協議相整ヒ、必ズ積年ノ素志貫徹仕度、右ハ至大ノ事業、一朝之ヲ料理ス可カラザルヲ以テ、本會擧行ニ先チ金七萬五千圓ノ義捐ヲ醵集シ、神苑ノ區域且

ッ其計畫等ヲ定メ、別紙神苑會規則幷ニ圖面ニ就キ詳具仕候間我々僭越ヲ顧ミズ懇願仕候次第愛國ノ微衷ヲ御洞察被下、特別ノ御詮議ヲ以テ御聞濟ノ程謹而奉願上候也

明治十九年十二月十八日

三重縣伊勢國度會郡宇治館町人民總代

神苑會創立委員　岡村嵩一印

同　横地長重印

同　林二郎印

同　今在家町人民總代

同　澤潟久信印

同　山本時重印

同　松谷武勝印

同　中之切町人民總代

同　濱田種助印

同　藪谷駒造印

同　佐八定潔印

同　浦田町人民總代

同　奥野章作印

同　田中寅吉印

同　木下圓二印

同　櫻木町人民總代

同　小林佐平印

同　熊本莊吉印

同　柳瀬梅枝印

同　中之町人民總代

同　井村大安印

同　橋本治郎兵衛印

同　久土目彦太郎印

同　古市町人民總代

同　太田小三郎印

同　白井清榮門印

同　平生彦十郎印

同　久世戸町人民總代

同　增井大助印

同　川上德一印

同　川上吉平印

同　山田倭町人民總代

同　岡野廣吉印

同　中西榮助印

同　古川喜七印

同　尾上町人民總代

同　奥野吉太郎印

同　橋爪孫七印

同　井坂宇吉印

同　岡本町人民總代

同　若井源助印

同　青木伊平印

同　澤村石齋印

同　岩淵町人民總代

同　中西用亮印

同　吉田轍五郎印

同　箕曲庸人印

同　吹上町人民總代
同　青木治助印
同　竹内善兵衛印
同　向井繁藏印
同　河崎町人民總代
同　井坂德三郎印
同　上野梧一印
同　橋本八十八印
同　豐川町人民總代
同　山田大路元安印
同　野間敬造印
同　今村三叟印
同　田中中世古町人民總代
同　吉川清三郎印
同　服部林右衛門印
同　河邊藤次郎印
同　宮後町人民總代
同　大西六郎兵衛印
同　河村清兵衛印
同　大倉藤松印
同　一之木町人民總代
同　笠井雄吉印
同　大岩芳逸印
同　橋爪佐太郎印
同　大世古町人民總代
同　秋田喜助印
同　龍重光印
同　中村安右衛門印

同　一志久保町人民總代
同　島田長兵衛印
同　加藤長平印
同　藤井清司印
同　曾禰町人民總代
同　松崎藤九郎印
同　小野田素寧印
同　烏山卯平印
同　八日市場町人民總代
同　宇仁田宗馨印
同　石丸弘人印
同　西川武右衛門印
同　下中之郷町人民總代
同　世古口喜右衛門印
同　芦野三省印
同　西井長吉印
同　常磐町人民總代
同　浦田九左衛門印
同　佐田齋次郎印
同　藤井源三郎印
同　浦口町人民總代
同　村上喜平治印
同　三宅治平印
同　古森梅太郎印
同　二俣町人民總代
同　藤本重樹印
同　田畑季禎印
同　西條清六印

同　辻久留町人民總代
同　久留榮吉印
同　小川助次郎印
同　千種善吉印
同　中島町人民總代
同　山畑利兵衛印
同　山本伊兵衛印
同　野村四郎兵衛印
同　宮川町人民總代
同　中村福松印
同　清水太平印
同　藤原佐助印
同　北中村人民總代
同　中山壯平印

同　東富次郎印
同　堀口九十郎印
同　楠部村人民總代
同　森本孫市印
同　東藤次郎印
同　山崎更吉印
同　一宇田村人民總代
同　松本友吉印
同　谷口常七印
同　鹿海村人民總代
同　出口芳造印
同　中口勇太郎印
同　朝熊村人民總代
同　世古嘉平印

同　西野安次印
同　松下村人民總代
同　池村朝太郎印
同　三谷中藏印
同　畑中休吉印
同　畑中梅太郎印
同　江村人民總代
同　角谷清七印
同　角谷清次郎印
同　坂本七三郎印
同　阿竹庄三郎印
同　庄村人民總代
同　森田吉平印
同　西生三信印

同　富永茂平太印
同　三津村人民總代
同　青山重太郎印
同　西口勝太郎印
同　松井與三平印
同　森本彌平次印
同　山田原村人民總代
同　辻喜代藏印
同　五味貞次郎印
同　森永甚次郎印
同　溝口村人民總代
同　北川岩吉印
同　岡田爲吉印
同　西村人民總代

同　出口金四郎印
同　森田吉五郎印
同　田畑菊治郎印
同　藪本兼藏印
同　黒瀬村人民總代
同　森田友藏印
同　森田金七印
同　酒德林大印
同　小木村人民總代
同　築地甚内印
同　川上重藏印
同　西田留吉印
同　中野卯三郎印
同　辻本常松印
同　田尻村人民總代
同　森才治郎印
同　川合太郎吉印
同　榊原禮治印
同　通村人民總代
同　幕谷甚平印
同　小林源八印
同　井田佐吉印
同　一色村人民總代
同　先野雄次郎印
同　玉木菊次郎印
同　土屋傳平印
同　今一色村人民總代
同　中村龜次郎印

同　西川源太郎印
同　松本安藏印
同　池田長松印
同　中村孫四郎印
同　神社港人民總代
同　森總五郎印
同　小林長大印
同　中西九三郎印
同　竹ヶ鼻村人民總代
同　出口兵作印
同　出口仙吉印
同　小池政吉印
同　小林村人民總代
同　小久保出枝印
同　安田松藏印
同　上條村人民總代
同　大西林七印
同　中村勘藏印
同　馬瀬村人民總代
同　林甚四郎印
同　中北久作印
同　北林清太郎印
同　西村吉五郎印
同　下野村人民總代
同　古川嘉兵衛印
同　古川文藏印
同　小西善七印
同　大湊人民總代

同　山中崔十印
同　山本清吉印
同　松本金平印
同　王中島村人民總代
同　中居力松印
同　里中末吉印
同　長屋村人民總代
同　中西佐平印
同　前田權四郎印
同　前村勘藏印
同　前田長九郎印
同　山口才助印
同　新開村人民總代
同　中谷伊藏印
同　中村齋吉印
同　高向村人民總代
同　藤澤甚十郎印
同　大西源吉印
同　北村與四郎印
同　大倉村人民總代
同　井上惣吉印
同　佐八村人民總代
同　梅田傳藏印
同　山本嘉兵衛印
同　西本萬吉印
同　津村人民總代
同　中山次郎助印
同　坂本市松印

同　前山村人民總代
同　脇田萬造印
同　石井嘉市印
同　米野米吉印
同　旭村人民總代
同　池田庄吉印
同　板谷幸吉印
同　藤里村人民總代
同　中澤利吉印
同　中山齋五郎印
同　齋田喜八印
同　勢田村人民總代
同　上田安吉印
同　瀧川佐吉印
同　山本勝次郎印
同　山本幸助印
同　神田久志本村人民總代
同　中津藤吉印
同　竹屋儀助印
同　奥野清吉印
同　上野村人民總代
同　上之郷定八印
同　久保金助印
同　古布善吉印
同　横輪村人民總代
同　西山銀助印
同　西山專吉印
同　中村兵藏印

同　中村喜代七印
同　上田長次郎印
同　上田菊藏印
同　酒本市松印
同　上田榮吉印
同　菖蒲村人民總代
同　中瀨楠吉印
同　田中久吉印

三重縣知事　石井邦猷殿

前書之通願出候ニ付奥印進達仕候也

三重縣伊勢國度會郡宇治中ノ切町外三個町戸長
大越智正英印

同　古市町外五個町戸長
同　圓座村人民總代
同　中山兵次郎印
同　松原長三郎印
同　神薗村人民總代
同　奥本惣助印
同　内田米吉印
同　内山文助印
同　小林宇助印
同　小林文助印
同　山田岩淵町外二個町戸長
池村萍二印
同　山田宮後町外三個町戸長

桑原常藏印
同　山田會彌町外三個町戸長
松本半五郎印
同　山田常磐町外二個町戸長
古川新三郎印
同　山田中島町外三個町戸長
中森重平印
同　山田河崎町外一個町戸長
應羽英男印
同　楠部村外四個村戸長
岡松甚作印
同　黒瀨村外四個村戸長
川口權四郎印
同　山田原村外四個村戸長
喜多井忠平印
同　江村外二個村戸長
齋藤正夫印
同　玉中島村外五個村戸長
内海長秀印
同　大湊戸長
三木耕三郎印
同　神社港外四個村戸長
矢田精一郎印
同　佐八村外六個村戸長
中西篤三郎印
同　上野村外七個村戸長
米山十二郎印

願之趣聞置候事

明治十九年十二月二十八日　　三重縣知事　石井邦猷印

右六月五日ヨリ十二月ニ至ル間ヲ本會創立ノ第一期トス、所謂草創百端、未ダ條理秩然ノ域ニ至ラザル者也。而シテ第二期以降冠蓋相望ミ、貴賓ノ接待頻繁ヲ極メ、加ルニ常務委員ノ紛擾ヲ以テス。或ハ用地買收ノ難局ニ當リ、或ハ事業資金ノ窮乏ニ處シ、苦心慘憺、名狀スベカラザルモノアリ。

神苑會史料

第二編

第二編

創立第二期　自明治二十年一月至同年十二月

明治二十年一月一日、創立ノ新年ヲ迎ヘ、賀ヲ事務所ニ行フ。次デ三日、倉田山ニ運動會(兎狩)ヲ開催ス、役員委員有志者等、來リ會スル者數百名。

今ヤ本會既ニ創立ノ認可ヲ得タリ、須ラク運爲ノ方法ヲ定メ經營ノ實蹟ヲ明カニセザルベカラズ。茲ニ於テ、一月六日、役員會ヲ開キ左ノ事項ヲ決議シ、次デ神宮司廳ニ對シテ補助金下付ヲ出願ス。

第一　本會會頭ノ選定ヲ本縣知事ニ申請スル事

第二　本會設立ハ既ニ知事ノ認許ヲ經ルト雖モ、更ニ知事ノ意見ヲ問ヒ、假會頭ノ指名ヲ以テ上京委員二名ヲ選定シ、東京ニ於テ貴顯紳士豪商等ニ詢リ大規模ヲ定メ、全國寄附ノ見込ヲ立テ、且第一等ノ信用アル銀行ニ本會ノ出納ヲ依頼

スル等ノ全權ヲ委任シ出京セシムルコト

第三　倉田山總體買上ノ計畫ヲ定メ、宇治山田ニ於ル開苑用地ト共ニ、公園地卽チ無税地ニ地目變換ヲ出願スルコト

但右ノ委員三名ヲ定ムルコト

第四　金員借入ノ事

右ハ地所買上代家屋立退料ニ支出ヲ要スル金凡ソ參萬四千圓ニシテ、其他創業費ヲ合シ、金五萬圓ヲ借入レザレバ着手スル能ハズ、右借入方法ハ本縣知事ノ意ヲ承ケ處辨スルヲ相當ノ順次ナリト思考スルヲ以テ、右照會委員二名ヲ假會頭ノ指名ニテ選定スルコト

第五　本會ノ附則ヲ規定スルコト

本會ノ規則ハ臨時ニ定メタルモノ居多ニシテ、前後矛盾ヲ免レザルモノアリ、故ニ之ヲ一括訂正シテ完全ナル法則ヲ定メ、各員ヲシテ踐行セシムルヲ最モ必要ナリトス、依テ起草委員五名ヲ互選シ、十日間ヲ期シ脫稿セシメ、然ル後役員總會ニ於テ議定スルモノトス

第六　日時ヲ定メ常務委員會ヲ開キ、本會昨年來ノ成績及會計決算ヲ報告スルコト

第七　寄附金募集ノ統轄者ヲ選任スルコト

右分擔者ハ既ニ選定スト雖モ、之ガ統轄ヲ爲スモノナキヲ以テ、不都合ノ點不尠、故ニ各委員ヲ督責シ、成功ヲ促スノ統轄者二名ヲ選任スルコト

第八　本縣各官吏ニ寄附金勸誘委員二名ヲ派出セシムルコト

右本縣各郡村ニ派出スルニ先チ、本縣官吏ヨリ始ムルヲ好手段ナリトス、其委員ヲ假會頭ヨリ指名選定スルコト

右議決ト共ニ、第一項及第四項第八項ノ委員ニ太田小三郎・村井恒藏。第三項ノ委員ニ濱田種助・石丸弘人・島田長兵衞。第五項ノ委員ニ宇仁田宗馨・藤井清司・吉川清三郎・大岩芳逸・濱田種助。第七項ノ委員ニ宇仁田宗馨・山田大路元安、當選シ。各擔任ノ件ニ從事ス。

補助金御下賜願

小臣等謹デ宇治山田ノ人民ニ代リ、貴廳ニ伏願懇請スル趣旨ハ、別紙神苑會創立願

書及ビ趣意書等ニ詳記スル如ク、我度會ノ地タル、畏クモ
天祖天照大神ノ鎮座セラル、所、天璽ノ永ク　皇祚ヲ衛護シ給フ所ナルニ、其
宮域外ヲ見ルニ、道路荒廢、榛荊地ニ滿ツルノミナラズ、人家接近頗ル尊嚴ヲ汚スノ
恐アリ、或ハ火災延燒ノ恐アルヲ以テ、此患ヲ除キ此地ヲ清掃シ、神德萬分ノ一ニ
奉答スルハ、神都ノ下ニ棲息スル小臣等ノ正ニ盡サヾルベカラザル義務ナリトス、
是ヲ以テ當地方人民ヨリ既ニ七萬五千圓ノ義捐金ヲ醵集シ、宇治橋以内ノ市街及
山田豐川・岡本・田中ノ三個町内、宮域ニ接スル人家ヲ撤去シ、幽邃清潔ノ苑囿ヲ營
ムヲ以テ第一着トシ、漸次倉田山其他名勝古跡ノ地ニ及ボサント欲シ、別紙願書ヲ
地方廳ニ呈出セシニ既ニ許可セラレタリ、而シテ此事業タル其規模宏大、當地方人
民ノ能ク負擔シ得ベキニ非ザルヲ以テ、況ク日本全國有志者ノ義捐ヲ仰グノ計畫
ナリト雖モ、第一着ノ事業ニ於テハ盟テ臣等ノ負擔セント欲スル所ナリ、然ルニ第
一着ノ工事ト雖モ決シテ小事業ニ非ズ、地所買上、家屋撤去料ヲ通計スレバ殆ド參
萬五千圓ヲ要スルニ因リ、七萬五千圓ノ醵金、餘ス所僅々ナリトス、更ニ追收センカ、
頻年當地方ノ衰弊、業ニ既ニ七萬五千圓ノ負擔ハ人民ノ熱血ヨリ漸ク此ニ達シタ
ル實情ナレバ、追徵ノ至難ナル敢テ言ヲ俟タザルナリ、於茲乎萬止ムヲ得ズ貴廳ニ
懇請スル所以ハ、貴廳非常準備金ノ内ヨリ、右補助トシテ金參萬圓御下賜アランコ
トヲ、貴廳幸ニ人民ガ
神宮ニ盡スノ衷情ヲ洞察セラレ、願意速ニ採納セラレンコトヲ、依テ御參考ノ爲メ、
神苑會創立願書趣意書假規則書及繪圖面相添此段奉伏願候也

三重縣伊勢國度會郡宇治山田
神苑會創立委員總代
濱田種助
白井清榮門
吉川清三郎
藤井清司
宇仁田宗馨

明治二十年一月八日

神宮宮司　鹿島則文殿

役員太田小三郎、會務ヲ負ヒテ津ニ在リ、卒然狀ヲ山田ニ寄セテ僚

輩ヲ招ク。一月十七日、宇仁田宗馨・大岩芳逸・山本伊兵衛・吉田轍五郎・藤井清司等、電馳廳下ニ至ル。乃チ知事ノ内意ヲ傳ヘテ曰ク、

國母陛下ノ行啓將ニ近キニアラントス、宜ク輦輿ヲ奉迎スルト共ニ圖畫ヲ以テ本會ノ企圖ヲ明カニシ御覽ニ供シ奉ル所アルベキナリト。茲ニ於テ太田以下數名、廳下ニ會同スルコト數日、相議シテ神苑成功圖ヲ案シ、畫工喜多村豐谷ヲシテ其調製ニ從事セシム、他日知事ヲ經テ宮内省ニ獻納セルモノ之ナリ。

之ヨリ先キ、二見浦ニ新館建築ノ工ヲ起スヤ、擔任其局ニ當ル者、日夜土木ヲ督シ、竣功將ニ近キニアラントス。而シテ神苑用地ノ買收モ着々契約ヲ了シ、啻ニ事務ノ繁忙ヲ來スノミナラズ、大ニ資金ノ必要ニ迫レリ、之レ役員等ガ焦慮百方、屢々石井知事ニ面シテ稟議スル所ナリ。既ニシテ行啓ニ先ダチ熾仁親王殿下御參向アラセラルベキノ報ニ接ス。役員相議シテ曰ク、本會幸ニ殿下ヲ總裁ニ奉戴スルノ榮アラン乎、庶幾クバ以テ前途ノ大成ヲ期スルヲ得ン、宜ク御參向ノ機ヲ以テ具情懇願ノ途ヲ求メザルベカラズト。乃チ石井知事ニ稟議シ、豫メ旅館ヲ選定シ台臨ヲ期待ス、役員擧テ之ガ準備ニ汲々タリ。

二月十九日、二見浦ノ新館成ル、名ケテ賓日館ト云フ、敷地千餘坪、建坪百八十餘坪。此日開館式ヲ行フ、大要左ノ如シ。

館ノ裝飾

一　表門ニ國旗ヲ交叉ス

二　門内受付所ヨリ玄關マデ敷物ヲ設ク

三　玄關ニハ絹五色ノ幕ヲ張リ國旗ヲ交叉ス

四　表門内左側柵際ニ紅白紫ノ旗四十四流ヲ建ツ

開館式次第

一、石井三重縣知事鳥羽街道ヨリ臨場ノ爲メ太田小三郎、外役員、江村橋ニ之ヲ迎ヘ、午後一時着、休憩所ニ入ル

一、午後二時、第一鼓ヲ合圖トシ、役員、各町常務委員、寄附募集委員等一同門ノ内外兩側ニ整列ス

一、第二鼓ニテ、役員山本伊兵衛ノ先導ニヨリ石井知事以下諸賓入場

一、役員、常務委員、寄附募集委員、入場

一、一同敬禮

一、浦田度會郡長祝辭

一、會員總代祝辭

一、宴會

來賓幷ニ參列者

石井三重縣知事、鹿島神宮宮司、根津判事、關檢事、門岡警部長、東神宮禰宜、浦田度會郡長、町井志摩郡長、滿岡本縣一等屬、伊藤山田警察署長、内山神宮主典、十文字神宮宮掌、森川造神宮作所員、知事隨行縣屬三名、度會郡書記四名、北川本縣會議長、本莊第百五國立銀行員、新聞社員、各町戸長、江村及山田原兩村戸長、各町及二見鄕常務委員幷ニ寄附金募集委員、工事監督係、本會役員、理事、書記、雇員等凡テ二百二十六名

石井知事演說大要

神苑會員ガ熱心奮發、意想外ノ美館ヲ建築シタルハ實ニ喜ニ堪ヘズ、本日ハ梅花ノ春風ニ開クト共ニ開館ノ式ヲ行フ、實ニ賀スベシ、前途益好果ヲ結バレンコトヲ望ム、殊ニ　有栖川宮殿下ニ願上タル賓日館ノ御染筆モ忝ク拜戴セリ、諸君希クハ感謝セヨ。

浦田郡長ノ祝文

何レノ國カ山水無カラン、何レノ地方カ勝區無カラン、既ニ山水アリ、勝區アリ、而シテ人ノ來遊欣賞セザルハ蓋人造ノ道路亭榭ノ、以テ其遊息ニ供スルナキニ據ル、我神都ノ地タル、神靈ノ棲止スル所、到ル所、山水明媚、風物清麗、所謂伊勢名所ノ稱、空シカラザルナリ、而シテ中外遊客ノ履、未ダ全ク遍カラザルモノ、蓋其故アラン、我神苑會員夙ニ之ヲ知ル、故ニ内外神苑ヲ營始スルニ當リ、先ヅ我伊勢第一等ノ勝區タル二見浦ニ着手セリ、時恰モ　皇太后宮ノ此地ヲ通御シ給フニ會シ、益奮勵感奮シ、

非常ノ勞力ト費金トヲ客マズ、一大亭榭ヲ建設シテ以テ休御ニ供セントス、其館タルヤ層樓複閣、其費ヤ殆ド五千餘圓而シテ起工以來僅々五十餘日ニシテ成ル、嗚呼此地ヤ既ニ天下有名ノ勝區タリ、而シテ今此一大亭榭ヲ建設シテ以テ輦轂憩休ノ用ニ供スルヲ得ントス、所謂天造ノ山水、人設ノ台觀ヲ添ヘテ、始メテ其美ヲ天下ニ發揚スルモノ、蓋此ニ於テ乎在焉、我神苑會ノ幸福何者カ之ニ如カン、茲ニ歲明治ノ二十年二月十九日、我縣知事石井閣下、臨テ新館ノ成ヲ落ス、長民モ亦其後ニ從フコトヲ得タリ、因テ所感ヲ陳ベ會員ノ喜ヲ表シ、以テ祝詞ニ代フト云フ。

明治二十年二月十九日　　三重縣度會郡長　浦田長民

會員總代ノ祝文

度會ノ鄉天其禎ヲ錫ヒ、地其靈ヲ效シ、千古蔚然ノ氣、發シテ風土ノ象ニ現ハル、是神都ヲ以テ夙ニ世ニ鳴ル所以ナリ、恭ク惟ルニ　聖明ノ治、恩八荒ニ遍ク、光九陔ニ徹ス、是ヲ以テ邊海波穩カニ、億兆生ヲ聊ンジ、貴トナク賤トナク、仰デ昇平ノ洪德ニ酬ヒ、願ミテ報本ノ大義ヲ履ンガ爲メ、遐邇踵ヲ接シテ神都ニ詣ラザル者ナシ、本地ニ棲息スル者焉ゾ感奮興起セザルベケンヤ、生等曩ニ神苑會創設ノ舉ヲ首唱シ、幸ニ同志ノ協贊ヲ得、屢有司ノ奬諭ヲ被リ、提携事ニ從ヒ、計畫略其緒ニ就クニ至レリ、茲ニ

皇太后陛下將ニ葢ヲ本地ニ駐メラルヽコトアラントスルヲ聞クヤ、窃ニ以テ千載一遇ノ好機トナシ、勇躍禁ゼズ、敬ミテ通御ニ際スル一片ノ微衷ヲ捧ゼンガ爲メ、遽カニ雙鑑浦頭ニ一館ノ新營ヲ企テ、工ヲ客歲臘月ニ起ス、爾來拮据、晷以テ油ニ繼ギ、數旬ニシテ成ルヲ告グ、此地靑嶂ノ峨々タルヲ負ヒ、滄海ノ茫々タルニ臨ム、風光ノ勝實ニ勢陽ニ冠タリ、殊ニ紅畧耀リヲ揚ゲ、波瀾錦ヲ盪カスノ光景ハ、夙ニ天下ノ人口ニ膾炙スル所、故ニ名ケテ賓日館ト曰フ、彩鳳雲中ニ飛ビ、金龍頭上ニ怒スルノ美觀ナシト雖モ、好風淸洛ヨリ來レバ、庭前ノ老松爲ニ琴瑟ヲ奏シ、爽氣材樾ニ發スレバ、朶頭ノ小禽共ニ好音ヲ弄ス、眼ヲ潑シテ瀁々ノ聲ヲ尋レバ、積水漫々長ニ碧落ヲ窮メ、六合朗曠トシテ心目浩然タリ、茲ニ本會創始ニ功勞アル同志ノ諸君ト會シテ、齊シク本館ノ落成ヲ祝ス、何ノ樂カ之ニ如カンヤ、嗚呼此館ハ實ニ本會ガ豫定外臨時ノ土功ニ係ルモノナリ、而シテ其草創ノ際ニ在テ、能ク今日ノ經營ヲ成スニ至リシモノハ、誠ニ石井本縣知事閣下奬勵ノ賜ニ由ル、今ヤ開館ノ式ヲ擧グルニ際シ、閣

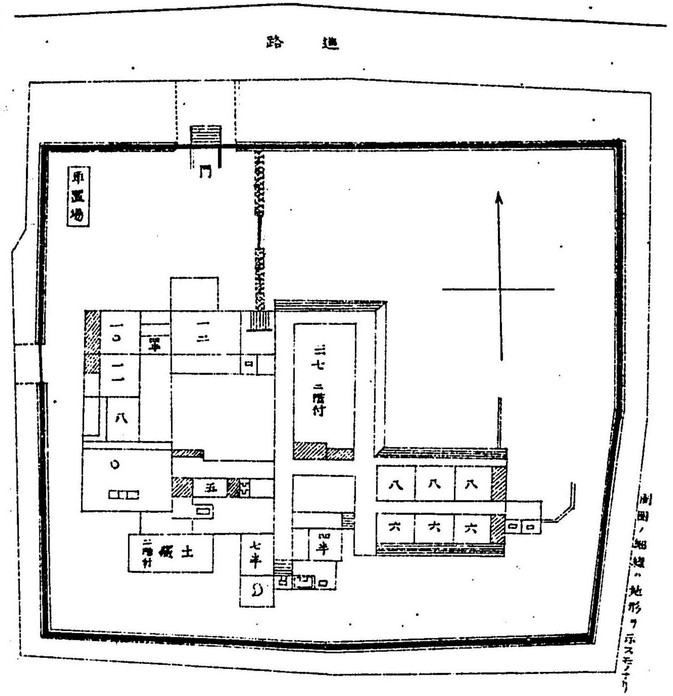
下ノ臨場ヲ辱シ、本會ノ光榮ヲ施スヲ得タリ、生等深ク閣下ノ奬勵ニ謝シ、併テ將來ノ匡救ヲ希フニ切ナリ、顧フニ本會ノ擧タル、計畫至大、前途ヲ想望シテ成功ノ易カラザルヲ知ルト雖モ、勇往敢爲、斃レテ已ムノ精神ヲ以テセバ再ビ閣下ヲ請ジテ成績ヲ報ズルノ日アルヲ信ゼントス、今日會同ノ諸氏ハ相共ニ本會ヲ組織セシ熱心ノ士ナリ、宜ク團結協力シテ向後ヲ經理スル所ナカルベカラズ、嗚呼朝暾曈々トシテ、東海ニ現ハル、ノ光景ヲ望メバ、誰カ感慨ノ起ラザルヲ得ン、生等同志ノ徒、企圖ヲ完成シテ以テ國光ヲ煥發スルコト、亦應ニ、此朝暾ニ倣フベキノミ、式ヲ行フノ日、天朗カニ、氣麗カナリ、造化亦生等ノ微意ヲ贊スルアルカ、聊カ不腆ノ辭ヲ列ネテ本日ノ賀懽ヲ陳ブ。

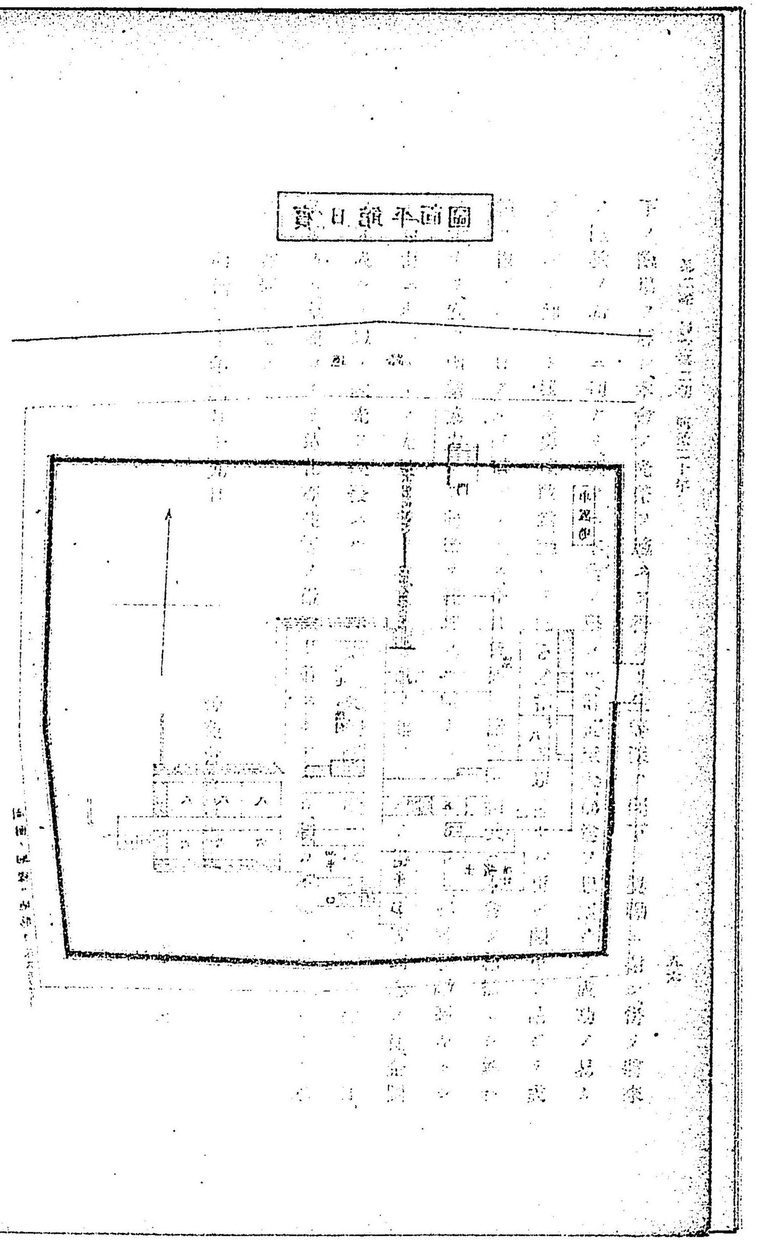
明治二十年二月十九日

神苑會會員總代

藤井清司

賓日館平面圖





賓日館開館ノ式ヲ了シ、館則ヲ定ムルコト左ノ如シ。

賓日館館則

第一條　本館ハ賓日館ト稱シ、神苑會ノ建築ニ係ル、故ニ其保存管理ノ方法ハ同會ノ協議指定スル所トス

第二條　本館ハ普ク公衆ノ請ニ應ジテ登館遊憩スルコトヲ得セシム

但本會事務所ノ特許ヲ受ケザレバ漫リニ館中ニ宿泊スルコトヲ得ズ

第三條　凡ソ登館セント欲スル者ハ、本會事務所ヨリ發行スル切符ヲ、各人毎ニ携帶シテ本館ニ差出スベシ

第四條　前條ノ切符ハ本館幷ニ最寄賣捌所ニ就キテ需ムベシ、其切符一枚ノ料金五錢ヲ徴收ス

但十歳以下ノ者ハ此限ニアラズ

第五條　切符ハ左ニ掲グル雛形ニ準ズ

但此切符ハ再度其用ヲ爲サヾルモノトス

雛形

表

第　號

遊覽券

月　日

裏

登館者心得

一登館者ハ各人必ズ此券一枚ヲ携帶シテ本館ニ差出スベシ
一會員外ノモノニシテ本館ニ飲食セント欲スルトキハ別ニ會員ノ紹介狀ヲ携帶スベシ
一館中儲席ヲ禁ズル室内ニ於テハ神苑會ノ特許ヲ得ザレバ酒食ヲナスコトヲ得ズ
一爛醉者ト認ムル時ハ登館ヲ謝絶スルコトアルベシ
一神苑會來賓接待上ノ都合ニヨリ臨時登館ヲ謝絶スルコトアルベシ

第六條　前記ノ切符ヲ需メテ登館スル者ハ、都テ本館ノ茶菓及海水温浴ヲ供スベシ且會員若クハ會員ノ紹介狀ヲ携帶スルモノハ、其依頼ニ應ジ本館ノ賄人ヲシテ飲食物ヲ調進セシムベシ

第七條　酒食ノ外、書畫園碁ノ會、其他諸般遊技等ノ爲メ其席ヲ使用スルモノニハ、總テ相當ノ席料ヲ徵ス

第八條　登館者ハ成ルベク靜肅ヲ旨トシ、喧騷雜沓ニ渉ルノ行爲ヲ禁ズ

第九條　館中儲席ヲ禁ズルノ室内ニ於テハ、神苑會ノ特許ヲ受クルニ非ザレバ濫

リニ酒食ヲナスコトヲ得ズ

第十條　爛醉者ト認ムルトキハ登館ヲ斷ルコトアルベシ

第十一條　以上館則ヲ顧ミザルモノハ直ニ館内ヲ退去セシムベシ

第十二條　本館ハ神苑會來賓接待上ノ都合ニヨリ臨時衆人ノ登館ヲ謝絶スルコトアルベシ

二月二十四日

熾仁親王殿下、武豐港ヨリ海路鳥羽港ニ御安着在ラセラル。太田小三郎・山本伊兵衛・大岩芳逸・山中崔十・上野梧一・西田七左衛門・村田德三・河村清兵衛・石丸弘人・井坂德三郎・榎本三右衛門・藤井清司・西川武右衛門等十三名、本會會員ヲ代表シ同港ニ奉迎ス。石井知事殿下ノ駕ニ陪ス、午前十一時　殿下江村ニ着セラル、ヤ、本會祝砲ノ代フルニ煙花ヲ以テシ、賓日館ニ台臨ヲ仰ギ、石井知事ノ準備セル午餐(洋食)ヲ獻ズ。午後一時同館御發、

兩宮御參拜ヲ了シ、旅館三日市太夫次郎邸ニ入ラセ給フ。隨從武官三名、家扶一名、醫官一名、從者三名トス、旅館ニ於テハ、七五三正式ノ膳部ヲ供シ奉リ、又別室ニ古器物ヲ陳列シ、夜ニ入リ兒女ノ舞踊ヲ台覽ニ供シ奉ル。

殿下ニハ石井知事ヨリ本會事業ノ現況ヲ聽取シ給ヒ、翌二十五日午前八時、京都ニ迎ハセラル、會員及宇治山田各町ノ常務委員一名宛出デ、奉送ス。

後幾クモナク

皇太后陛下行啓ノ日ヲ治定セラレ、二見浦通御ノ際、賓日館ヲ以テ御泊所ニ充テサセラルベキ旨縣廳ノ示達ニ接ス。茲ニ於テ館ノ內外裝飾整頓ノ準備ヲ要シ、其擔當員ヲ定ム。

三月二日、曩ニ調製ニ從事セシ神苑圖裝潢成レルヲ以テ

皇太后陛下ニ獻納セラレンコトヲ石井知事ニ出願ス。

小臣等曩ニ宇治山田市街及ビ近鄕人民ニ代リ本會創立ノ規畫ヲ爲シ、既ニ御聽許ヲ得、爾來孜々トシテ其實施ニ盡力セリ、然ルニ這回　皇太后宮行啓ニ際會ス、之レ千歲ノ一遇ナルヲ以テ、神苑ノ一端ヲ開キ本會ノ衷情ヲ表章センー欲スルモ、奈何セン事業壯大、未ダ其志ヲ達スルコト能ハズ、之小臣等ノ日夜憂憤遺憾ニ耐ヘザル所ナリ、然リト雖モ先キニ閣下ノ御高諭ヲ辱フシ、今ヤ漸ク本會別區二見浦ニ賓日館ヲ建築シ通御ノ際、御泊ノ御沙汰ヲ受ケ實ニ本會ノ光榮之ニ過ギズ、因テ　兩宮神苑計畫圖ヲ製軸シ　台覽ニ奉供シ、而シテ該圖ヲ奉獻仕度、願意微衷ノアル所ヲ御洞察被下、何卒可然御執奏被下度、此段奉悃願候也

明治二十年三月二日

神苑會總代

村田德三印

宇仁田宗磬印

三重縣知事　石井邦猷　殿

三月三日、未ダ地方一般ノ醵金ヲ徵收セズ、經費缺乏ヲ告グルヲ以

テ、日ヲ期シテ先ヅ役員寄附金既定額三分ノ一ヲ徴收スルコトヲ決議ス。

決議

一金六千圓　役員寄附申込額

此三分ノ一卽弐千圓ヲ本月十五日限リ、各所屬戸長役場ヲ經由シ、銀行切符ヲ以テ本會ニ納付スルコト

此時ニ當リ、用地買收ニ關シ擔務役員ノ行爲、甚ダ怪訝ニ堪ヘザルモノアルヲ察知シ、太田・宇仁田・大岩・吉川等大ニ之ヲ憂慮ス、以爲ク事若シ暴露セバ物議沸騰、或ハ事業沮喪ノ虞ナキヲ保セズト、密カニ善後ノ策ヲ講シ、速カニ矯正ノ方略ヲ施サンコトヲ思考ス。適各町常務委員中、機ニ乘ジテ、理事者ノ改革ヲ試ミント欲スルモノ輩出シ、遂ニ役員ノ指彈ヲ主張シ、或ハ事務所ニ質問ヲ提起スル等、稍紛訌ノ兆アリ。加フルニ貴賓ノ接待頻繁ヲ以テシ、內外彌多事ニシテ、又時局ノ應變ニ遑アラズ。

三月六日、會員一同、恭ク皇太后陛下ノ鹵簿ヲ宮川ニ迎ヘ奉ル。午後三時御泊所龍重光ノ邸ニ御着輿アラセ給ヒ、

翌七日

兩宮御參拜、午後一時、二見浦ニ着御アラセラル。本會役員賓日館門外ニ奉迎ス、輦輿館ニ達スルトキ、祝砲ニ代ヘ煙花ヲ放揚ス、本會豫メ漁船數十隻ヲ準備シ、各紅白紫ノ旗幟ヲ船頭ニ樹立シ、又漁夫ヲシテ紅手帕ヲ頭ニシ、腰簑ヲ着ケ、護衞軍艦(滿艦飾)ノ前面、浦上適當ノ所ニ曳網ノ技ヲ演ゼシメ、其獲ル所ノ鱗族ヲ潮水盤ニ放チ、潑溂ノ狀ヲ御覽ニ供シ、之ヲ奉獻ス。

非常御立退所ヲ江村正覺寺ニ設ケラル。

裝潢ヲ施セル神苑圖ハ台覽ノ榮ヲ辱フシ、石井知事ヨリ宮內省ニ奉獻セラル。

皇太后宮大夫杉孫七郎、供奉ニ列セリ、深ク本會ノ事業幷ニ會員ノ勞ヲ稱シ、又賓日館ニ用フベキ額面ヲ揮毫セラル。

夜ニ入リ海邊紅燈ニ一齊ノ點火ヲ行フ。

浦上碇泊ノ護衞艦(浪速外一艦)ヨリ放ツ所ノ探海燈、波濤ニ映射シ、電光數里ノ外ニ眩耀セリ。今ヤ本會幸ニ賓日館ヲ以テ御泊所ニ供シ奉ルコトヲ得タル者ハ、洵ニ之レ千載ノ一遇、無限ノ光榮也。

八日正午、輦輿賓日館ヲ發シ、鳥羽港ニ迎ハセラル、本會役員恭ク鹵簿ヲ江村ニ奉送ス。

此夜、石井知事ト賓日館ニ會シ、奉送迎ノ終了ヲ祝ス、深更ニ至リ風雨强烈、知事蹶然、鳥羽港ニ赴キ奉伺ス。越テ九日、天候未ダ復セズ、風浪險惡ナリ、本會員恐懼ニ堪ヘズ。十日、

陛下ノ鳥羽港常安寺ニ泊御シ給フヲ聞キ、大岩芳逸・山中崔十ヲシテ本會ヲ代表奉伺セシメ、蜜柑千個・梨五百個ヲ携ヘ獻上ス、既ニシテ風浪歇ミ浪速艦ニテ還啓アラセラル。

三月二十日、假會頭ノ諭旨ヲ以テ、役員中、濱田種助・吉田轍五郎・山田大路元安ノ三名ニ其職ヲ辭セシメ。次デ二十五日、常務ノ役員ヲ改選ス、就任者左ノ如シ。

總務長　太田小三郎

庶務部委員長　山本伊兵衞

庶務部委員　吉川清三郎　世古口喜平次　上野梧一

主計部委員　山羽九郎兵衞　竹內善兵衞　村田德三

四月四日、假會頭旨ヲ諭シ、島田政充・堀江德兵衞ヲ役員中ヨリ除名ス。

四月五日、岩淵町三日市大夫次郎ノ邸ニ常務委員ヲ會シ、役員公選ノ可否ヲ諮リ、併セテ左ノ會務ヲ報告ス。

報告

一、神苑開設願
二、神苑地坪數總計表
三、苑地建家立退料概算表
四、內宮神苑敷地豫算
五、同上ニ對スル經費豫算
六、外宮神苑敷地豫算
七、同上ニ對スル經費豫算
八、支辨金仕譯見積表
九、神宮司廳補助金ニ對スル誓約書
十、本會設立以後經費支出計算表
十一、神苑會創立願

此日、假會頭、庶務主計ノ役員十二名ヲ率キテ出席シ、神宮司廳ハ禰宜主典各一名ヲ列席セシム、各町委員、常務委員等、出席スル者約四十名。役員公選問題ニ關シ議論紛々決スル所ナシ。

翌六日、繼續シテ開會ス、此日祭主　久邇宮殿下ノ御寄附金五百圓、神宮司廳職員ノ寄附金千五百圓決定ノ件ヲ報告ス。而シテ昨來宿題ノ役員公選案ニ關シ、尚繼續シテ、翌七日ニ至ルモ遂ニ解決スル所ナクシテ止ム。蓋常務委員中、庶務主計役員ノ行爲ニ慊焉タル者數輩、頻リニ公選說ヲ主張スト雖モ、現情之ヲ許サヾルハ能ク衆員ノ認識スル所ナリ。然レドモ議論三日ニ亙リテ執拗持說、進ンデ縣廳ニ迫ラントスルノ形勢アルヲ以テ、庶務部員大岩芳逸、卽夜、馳セテ太田小三郎ヲ廳下ニ訪ヒ、翌日相共ニ參廳シテ總會紛議ノ顚末ヲ具陳ス。

客月

皇太后陛下ノ泊御ニ供シテヨリ、賓日館ノ名漸ク著ハレ、來觀者益多シ。四月十九日、議シテ其使用規程ヲ定メ、又常務委員總會ニ附スベキ議案ヲ定ム。

賓日館使用規程

一、觀覽人通券料金五錢

二、館內ニ於テ飲食セントスルモノニハ左ノ通リ席料ヲ徵收ス

(一)八疊一間　參拾錢　(二)六疊一間　貳拾錢

三、海水浴ニ係ルコトハ二見村若松德平ニ依托スルコト

四、浴衣敷物ノ準備ハ若松德平ニ依托スルコト

五、館內常詰員一人雇入ノ件　月給金四圓

六、每月三回卽チ十ノ日每ニ席料通券料ヲ若松德平ヨリ事務所ニ納メシムルコト

七、通券賣捌ハ若松德平ニ命ジ、他ニ希望スル者アルトキハ現金ヲ以テ賣渡スコト

常務委員會ニ附スベキ事項

一、議事細則ヲ發行スルコト　報告

二、役員ヲ公選スルコト　議事

三、本會規則改正ノ件　同上

四、神苑計畫費徵收豫算　同上

四月二十二日、皇太后宮職ヨリ三重縣廳ヲ經テ銅花瓶壹對ヲ下賜セラル。

翌二十三日、常務委員會ヲ度會郡役所內ニ開キ、宮內省下賜ノ花瓶ヲ中央ニ安置シ、出席者ニ示ス。

議題

一、役員公選ノ件　中西用亮外三名請求

二、議事概則

〃　三、神苑會規則

四、兩宮神苑計畫費徴收豫算

右第一號案ハ常務委員多數ノ與カリ知ル所ニ非ズ、故ニ請求者ニ於テ總代ト稱スルモ、其實總代ニ非ズ、又茲ニ議スベキ問題ニアラズトシ、之ヲ廢案トスルニ決ス。

第四號案ハ精査ヲ遂ゲタル後、他日之ヲ議スルコトヽシ、第二號乃至第三號案皆原案ヲ可決ス。本月初旬以來連日紛擾ノ問題茲ニ至テ漸ク解決シ、創立員ノ意嚮再ビ一定ニ歸ス。

此月、神宮司廳補助金參萬圓下付ノ件ヲ聽許セラル。其懇請ノ初メニ當リ、太田小三郎、誠ヲ竭シ狀ヲ具ス、宮司鹿島則文之ニ對シテ斡旋甚ダ至レリ。今斯ノ好運ニ際會シ、本會進取ノ氣益鋭ナリ。神宮司

廳ノ指揮ニ基キ其請書ヲ提出スルコト左ノ如シ。

契約書

這回宇治山田市街及近郷有志者人民ニ於テ神苑會ナル者ヲ組織シ　兩宮宮域外ニ一大神苑ヲ開設セント欲ス、然ルニ先ヅ第一ニ　兩宮宮域ニ接續スル地面及家屋ヲ買入レ之ニ着手センコトヲ決定セリ、是ニ於テ貴廳ヨリ右工事補助トシテ金參萬圓交付ノ事御採聽被下、會員一同深奉感謝候、依テ吾曹、會員一同ニ代リ貴廳ニ對シ契約スル如左

一、皇大神宮宮域接續地、即宇治館町宇治橋以内全部、此敷地坪數九千六百三十四坪五合五勺

一、豐受大神宮宮域接續地、即山田田中中世古町、豐川町、岡本町、此敷地坪數一萬五千二百五十三坪四合四勺

一、前項神苑工事目論見ニ於テハ、必ズ貴廳ニ對シ稟議承認ヲ得ルモ、其工事ニ於テハ本會之ヲ專行ス

第一項第二項神苑工事目論見及後來修繕若クハ其結構ヲ變更スル時ハ、必ズ貴廳

ニ京議承認ヲ得テ着手可致事

右苑中、建物修繕花木培植、刈草掃除等平常注意シ、不體裁無之樣可致事

右苑中諸興行物等ノ營業場ハ、一切設置致間敷事

右苑中ノ工事ハ來ル二十二年六月ヲ以テ、必ズ竣功可致事

前四項ニ違背スル場合ニ於テハ、貴廳ヨリ交付ノ金額返納可致事

明治二十年四月二十七日　　神苑會總代

主計部、庶務部部員連署

假會頭　署名

神宮宮司　鹿島則文殿

今ヤ紛訌既ニ去ル、而シテ花瓶ノ下賜ヲ拜シ、神宮補助金モ亦聽許セラル、宜ク好機ニ乘ジ速カニ豫定ノ實蹟ヲ擧グベキナリ。茲ニ於テ宴ヲ設ケテ之ヲ祝シ、併セテ慰勞懇信ヲ表スルノ議ヲ決シ。四月二十八日、大世古町龍重光ノ邸ニ宇治山田各町ノ創立功勞者ヲ招致ス(各町創立委員、常務委員中ヨリ三名ヅヽ、及ビ神宮司廳、度會郡役所ニ於ル神苑會係、宇治山田各連合町委員卽チ戸長等)會スル者七十三名。假會頭浦田長民、開會ノ主旨ヲ告ゲ、町毎ニ數名ノ募集委員ヲ指名囑託ス。次デ五月八日、賓日館ニ附近村落(四十五個村)ノ戸長及創立委員九十名ヲ招ク。(宇治山田ヨリ常務委員中ノ五名出デテ接待ニ任ズ)假會頭浦田長民開會ノ主旨ヲ告ゲ、併セテ向後ノ盡力ヲ依賴スルコト前ニ同ジ。

主動ノ地既ニ一致協力ノ域ニ至ル、更ニ運動方面ヲ開展シテ、主旨擴張ヲ圖ルベキノ必要ヲ認メ、大藏大臣松方正義伯ノ來阪ヲ邀ヘテ謀ル所アラント欲シ、五月十五日、役員太田小三郎(隨行藤井清司)馳セテ大阪ニ至リ、同伯ニ泉布觀ニ謁ス。伯固ト太田小三郎ト舊アリ、大ニ本會ノ事業ヲ是認シ、約シテ共ニ伊勢ニ向ハントス。本會此

報ニ接シテ待ツ所アリ、既ニシテ大臣公務繁忙、約ヲ行フノ餘日ナク、俄カニ參向ヲ中止セラル。

六月十八日、午後一時、

神宮祭主朝彦親王殿下、賓日館ニ台臨アラセラレ、謁ヲ會員ニ許シ且令旨ヲ賜フ。

令旨

諸子ガ敬神ト愛國ノ心ノ深厚ナル玆ニ神苑會ヲ創設シ、神域接近ノ地ヲ清ムルヲ初トシテ、偉大ナル計畫ヲナシ、神都ノ面目ヲ改メ、地方ノ衰頽ヲ挽回セントスルノ美舉アルハ、夙ニ之ヲ聞ク、今親ク來リテ、諸子熱心ノ實情ヲ視テ大ニ感喜セリ、想フニ此業ヲ全クセンニハ、共同一致、能ク心ヲ協ヘ、互ニ力ヲ併セテ、耐忍以テ事ニ從フニアリ、諸子ノ決心亦此ニ存スルコトヲ知ル、庶幾クハ盡力アランコトヲ。

石井知事、令旨ヲ奉戴シ、會員一同ナシテ眷々服膺、以テ事業ノ成功ヲ期セシメンコトヲ奉答ス。右了リテ　殿下ニハ御休憩、別室ニ陳列セシ古器物ヲ台覽アラセラル。

翌日、祭主殿下、御發輿ニ當リ本會役員、各町常務委員等、多氣郡新茶屋村ニ至リ奉送ス。

頃來、粗地所買收家屋撤去ノ契約ヲ了シ、將ニ多大ノ支出ヲ要セントス、役員ヲ擧ゲテ資金ノ方策ニ腐心セザル者ナシ。適西京ノ人、花輪正摸ナル者、來リテ本會ノ企圖ヲ贊シ、事業ノ進行、維持ノ方法等ニ建策スル所アリ、必要ニ應ジ資金調達ノ勞ヲ執ランコトヲ聲言セリ。然レドモ其建策スル所本會ノ素望ニ副ハザルヲ以テ、之ヲ採用スルニ至ラズ。

此際、假會頭浦田長民辭職ス(鈴鹿郡長ニ轉任ノ爲メナリ)役員相議シ、假會頭後任一名、幹事一名ノ推選并ニ事務章程其他必要ノ事項ヲ議定セント欲シ、六月二十七日案ヲ發シテ委員・常務委員ノ總會ヲ開ク。

議案

一、假會頭浦田氏辭職ニヨリ更ニ鹿島則文氏ヲ假會頭ニ推選シ、又會員中ヨリ幹事一名ヲ推選併セテ各氏ニ推選狀ヲ送ルコト

一、本會創立中別紙ノ通リ事務章程ヲ設定スル事

神苑會事務章程

第一條　本會事務ノ進捗整理ヲ要スル爲メ、規則第十三條ニ掲グル總裁以下ノ役員ヲ一定スルニ至ル迄、假會頭及幹事各一員ヲ以テ本會ノ全體ヲ統括シ、且規則第十七條ノ趣旨ニ從ヒ、庶務主計ノ兩部員若干名ヲ擧ゲテ、以テ一切ノ事務ヲ分擔處理スルモノトス

第二條　第一條ノ主旨ニ依リ、本會ニ役員ヲ置ク左ノ如シ

一假會頭　一員
一幹事　一員
一庶務部長　一員
一主計部長　一員
一庶務部員　若干員
一主計部員　若干員
一書記　若干員

第三條　假會頭ハ本會一切ノ責ニ任ジ、其擧行スベキ事務ニ於テハ幹事ト合議シ專決施行スルコトヲ得

第四條　假會頭ハ各部員ヲ指揮統督シ、事務ノ便宜ヲ圖リテ之ヲ進退任免シ、且臨時事務員ヲ雇入ルコトヲ得

第五條　假會頭ハ各部中ノ處務細則ヲ制定スルコトヲ得

第六條　假會頭ハ本會ノ印章ヲ管守スルモノトス

第七條　假會頭事故アルトキハ幹事ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトアルベシ

第八條　幹事ハ假會頭ニ亞ギ本會一切ノ事務ヲ總理スルノ責ニ任ジ、又ハ假會頭ノ委任ヲ受ケ本會ノ事務ヲ規畫スルコトアルベシ

但委任ノ條項ハ別ニ之ヲ定ム

第九條　幹事ハ假會頭ト共ニ願伺幷ニ會員ニ對シ、報告書類ニ署名捺印スルモノトス

第十條　幹事事故アルトキハ、庶務部長ヲシテ其職務ヲ代理セシムルコトアルベシ

第十一條　庶務部長ハ幹事ニ亞ギ部中ノ庶務ニ付其責ニ任ジ、假會頭ノ指揮ニ依リ部員以下ヲシテ事務ヲ分掌セシム

第十二條　主計部長ハ部中ノ事務ニ付其責ニ任ジ、假會頭ノ指揮ニ依リ部員ヲシテ其事務ヲ分掌セシム

第十三條　庶務部長及主計部長ハ事ノ細大緩急ヲ量リ、假會頭若クハ幹事ニ其意見ヲ開陳スルコトヲ得

第十四條　各部長ニ於テ事ヲ處スルニ方リ、事實錯雜スルトキハ豫メ其時日ヲ定メ假會頭若クハ幹事ノ允許ヲ受ケ之ヲ處理スルモノトス

第十五條　事ノ兩部ニ連繫スルモノハ、主務ノ部長ニ於テ處分案ヲ起シ、其關係部長ノ合議ヲ要スベシ、各部長若シ意見ヲ異ニスルトキハ幹事ニ申、幹事ヨリ假會頭ノ裁定ヲ請フベシ

第十六條　幹事若シ各部長ノ成案ニ異議アルトキハ之ヲ修正セシメ、或ハ假會頭ノ裁認ヲ經テ指揮ヲ爲スコトアルベシ

第十七條　庶務部員ハ其部長ノ指揮ヲ承ケ、第二十四條中庶務部ニ屬スル事務ヲ分掌ス

第十八條　主計部員ハ其部長ノ指揮ヲ承ケ、第二十四條中主計部ニ屬スル事務ヲ分掌ス

第十九條　庶務部員、主計部員ハ日常出勤及臨時出勤ノ二種トス

第二十條　日常出勤者ハ制定ノ時限ヲ以テ出勤シ、其餘ノ役員ハ假會頭ノ指揮ニ

應ジ、臨時出勤シテ事務ニ服スルモノトス

第二十一條　書記ノ内一員ヲ假會頭及幹事ニ專屬シ、其指揮ニ從ウテ文書記錄ニ從事シ兼テ部員ノ職務ヲ佐ケシム

第二十二條　書記若干員ハ庶務主計兩部ニ分屬シ、其文書筆記簿冊整理等ニ從事セシム

第二十三條　以上役員ノ外、小使若干員ヲ置キテ本會ノ雜事使役ニ供ス

第二十四條　庶務主計兩部ノ事務ハ左ノ各項ニ分別ス

庶務部

一神苑計畫地所ニ關スル事項
一寄附金募集ニ關スル事項
一土木ニ關スル事項
一文書往復ニ關スル事項
一交際ニ關スル事項
一役員及雇員出張派遣等ニ關スル事項
一官廳ニ對スル願伺屆并ニ本會ノ報告ニ關スル事項
一役員ノ任免辭令等ニ關スル事項
一事務所内取締ノコト

主計部

一金錢出納ニ關スル事項
一金錢物品ノ貸借ニ關スル事項
一物品ノ購入調理并ニ保存管守ノ事項
一銀行其他ニ於ケル金錢取扱上ノ締約ニ關スル事項
一諸般給與旅費支給ニ關スル事項
一出納計算報告書ノ調製ニ關スル事項
一寄附金取扱ニ關スル事項

第二十五條　前條列記スル事項ハ、處務細則及附則等ニ參照執行スベシ

第二十六條　本會ハ總會及役員會ノ二種ヲ以テ之ヲ設ケ、議長ハ假會頭之ヲ勤ムベシ

第二十七條　總會ハ規則第十九條ニ依リ汎ク會員ヲ徵招ス

第二十八條　役員會ハ毎月一回庶務主計兩部員ヲ會シ本會ノ事務ヲ諮問スルモノトス

但時宜ニヨリ臨時開會スルコトアルベシ

第二十九條　役員會ハ庶務主計兩部ノ別ナク各員等一ノ資格ヲ以テ意見ヲ陳ブルモノトス

但此際ニ於テハ假會頭ハ主務員ヲ指定シテ番外ニ充ツ

第三十條　當宇治山田市街ノ會員中ニ於テ三十名以上ヲ選拔シテ本會ノ委員トシ、重大事件ニ際スル毎ニ役員會ニ列シ意見ヲ開陳セシムルコトアルベシ

第三十一條　諮問ニ對シ議了セシ事項ハ假會頭ノ裁認ヲ經テ之ヲ決定ス、假會頭ハ其意見ヲ以テ之ヲ可否取捨スルコトヲ得

第三十二條　事ノ樞要機密ニ涉ルモノハ、各部員ニ於テ直ニ假會頭又ハ幹事ニ稟議スルコトヲ得

第三十三條　本會ノ事務ニ服スルモノハ月給若クハ日給ヲ支給スベシ

第三十四條　諸般給料旅費ノ制ハ別冊給與規則ニ照準スベシ

第三十五條　以上ノ條項ハ實際處務上ノ都合ニ依リ假會頭ハ幹事及部員十名以上ノ同意ヲ得テ改訂修補スルコトヲ得

右議案ヲ可決シ、且滿場一致、首唱者太田小三郎ヲ幹事ニ推選ス。

次デ本日ノ決議ニ基キ、地所家屋ニ關シテ常務創立員中ヨリ選擧スベキ調査委員三名ノ選擧ヲ行ヒ、佐田齋次郎・中西用亮・田中虎吉之ニ當選ス(後幾クモナク田中虎吉死亡シ後任小林佐平當選ス)。

宇治山田各所ニ於ル創立員等謂ヘラク、首唱者太田小三郎ヲ幹事ニ推選スルノ意嚮ハ、既ニ六月二十七日總會ニ於テ滿場一致ノ贊成ヲ經ル所ナリ、宜ク推選ノ形式ヲ具ヘテ其承諾ヲ請フノ途ヲ踐マザルベカラズト。七月四日、代表者三十名(毎町一名)連署シテ推選狀ヲ贈ル、太田小三郎乃チ承ケテ幹事ノ任ニ就ク、推選狀左ノ如シ。

本會規則第十三條ニ依リ總裁以下ノ職員ヲ推選スルニ至ル迄本會ノ事業ヲ進捗整理センガ爲メ某等一同貴下ヲ幹事ニ推選ス、願クハ速カニ允諾アリテ本會ヲ統督總理セラレンコトヲ頓首謹言

明治二十年七月四日

神苑會發起人總代

宇治館町　櫻井左右馬
同　今在家町　小林佐平
澁谷本造
同　中之切町　同　中之町
藪谷駒造　浦北音吉
同　浦田町　同　古市町
田中虎吉　木戸七兵衛
同　櫻木町　同　久世戸町
川上德一
山田倭町
中西榮助
同　尾上町

井坂宇吉
同　岡本町　加藤長平
澤村石齋　同　大世古町
同　岩淵町　中村安右衛門
中西用亮　同　曾禰町
同　吹上町　松崎藤九郎
青木治助　同　一之木町
同　豐川町　橋爪佐太郎
野間宗三郎　同　八日市場町
同　田中中世古町　慶谷豐吉
服部林右衛門　同　下中之郷町
同　宮後町　西井長吉
渡邊恆六　同　常磐町
同　一志久保町　佐田齋次郎
同　浦口町

伊藤收二　同宮川町
同二俣町　中村福松
藤本重樹　同河崎町
同辻久留町　西川安吉
大井淺吉　同船江町
同中島町　西井忠次郎
野村市助

太田小三郎殿

七月二十一日、度會郡衙内ニ在リシ事務所ヲ豐川町ニ移轉ス、其建物同町共有ニ係リ神苑用地内ニ屬セルヲ以テ他日撤去ヲ要スル部類ナリト雖モ、姑ラク賃借シテ之ヲ假用ス。

當時既ニ組織ヲ刷新シ内規ヲ釐革シ、各職責ヲ定メテ鋭意事務ノ進捗ヲ圖ル。役員以下擔務員左ノ如シ。

假頭　鹿島則文
幹事兼庶務部長　太田小三郎
主計部長　宇仁田宗馨
庶務日勤員　山本伊兵衛　大岩芳逸
同候補員　上野梧一　吉川清三郎　村田德三
主計部日勤員候補者　竹内善兵衛　山羽九郎兵衛　世古善兵衛
庶務部員兼假會頭附属書記　藤井清司
書記兼寄附金募集係　渡邊漸
書記　下山保福　日比益衛
庶務部員　宇仁田宗馨　山本伊兵衛　上野梧一　吉川清三郎
村田德三　山中崔十　村井恆藏　石丸弘人
白井清榮門　藤井清司　平野久右衛門　大西六郎兵衛
西川武右衛門　久保田五兵衛　辻村彌八　岡村長四郎
主計部員　竹内善兵衛　山羽九郎兵衛　世古善兵衛　島田長兵衛

世古口　喜平次　小川宗一　秋田喜助　西田七左衛門
河村清兵衛　橋爪孫七　山下五郎兵衛　榎本三右衛門
橋村總八

寄附金募集係
橋爪佐太郎

地所家屋調査委員
佐田齋次郎　中西用亮　田中虎吉
中島町外三ヶ町委員
中森重平　藤本重樹　白米文四郎　中村福松
野村市助

常磐町外二ヶ町委員
古川新三郎　伊藤收二　藤井源三郎　西井長吉
曾禰町外三ヶ町委員
松本半五郎　鳥山卯平　慶谷豐吉　中村安右衛門
加藤長平

宮後町外三ヶ町委員
守屋式太郎　河邊藤次郎　橋爪佐太郎　渡邊恆六
野間宗三郎

岩淵町外二ヶ町委員
池村泮二　中西用亮　澤村石齋　青木治助
河崎町外一ヶ町委員
鷹羽英男　井坂長七　西井忠次郎

古市町外五ヶ町委員
小林文助　木戸七兵衛　小林佐平　上田喜市郎
古川喜七　增井大助　浦北音吉
中之切町外三ヶ町委員
大越智正英　八束甚平　田中虎吉　藪谷駒造
澁谷本造

創立以來宇治山田各町ノ戸長ヲ委員トシ、毎町創立員中、常務委員三名宛ヲ擧ゲシモノ、茲ニ至テ其内ノ一名ヲ擧ゲ、單ニ之ヲ委員ト稱シ、之ニ戸長ヲ加ヘテ委員長トス。

元假會頭浦田長民、鈴鹿郡長ニ轉任シ、後任度會郡長滿岡勇之助(元本縣一等屬)七月二十七日ヲ以テ赴任ス。本會役員等之ヲ宮川ニ迎フ。爾後縣屬柚原具致、縣廳内ニ在リテ滿岡前縣屬ニ代リ本會ノ事務ヲ管掌ス。

鹿島假會頭、滿岡度會郡長、共ニ本會ノ經歷ニ精シ、因テ相共ニ市内(戸長役場八個所)ニ出張シ、町民ヲ會シテ事業ノ必要ヲ說キ、協力ノ

實ヲ求ムルユト連日(八月五日ヨリ九日ニ至ル)。既ニシテ宇治山田各町委員幷ニ募集委員ノ盡力ニ依リ、市内ノ寄附金、逐次決定ヲ告グ。之ヨリ度會郡内ヲ決定スルノ要アリ、蓋本郡ノ成績ハ縣下各郡ニ影響シ、之ガ模範タルハ勿論、本會ノ基礎根柢亦茲ニ存セルヲ以テ、專心募集ノ局ニ當ル者ヲ置キ、或ハ郡長ノ巡視ニ隨從セシメ、或ハ機ニ臨ミテ派出遊説セシムル等、百方誘掖、以テ實蹟ヲ擧グルニ汲々タリ。

全國募集ノ着手ニ先ダヤ、趣旨目的ノ普及ヲ計ランガ爲、規則書廣告ノ件ヲ決議シ。十月初旬、朝野・時事・郵便報知・京濱毎日・東京日々ノ五大新聞紙ニ趣旨及規則書ヲ掲載ス。

本會豫定順序ノ第二着歩トセル歴史博物館ノ事業ハ、規模宏大、之ガ調査ニ時日ヲ要スルヤ論ナシ、今ヨリ其準備ヲナサンガ爲、在東京福地復一(帝國博物館動務)ニ取調ヲ依囑シ、稿案成ル毎ニ之ヲ通報セシム。神苑用地ノ買收幷ニ家屋撤去ハ創立以來、極力處理ヲ急グ所ニシテ、敢テ反抗ノ徒ヲ生ゼズト雖モ、其進行ニ方テヤ、或ハ窃カニ私利ヲ營ミ、或ハ言ヲ左右ニ託シ、輙ク轉住ヲ爲サズ、賣買ノ間、譎詐百端、動モスレバ事業ヲ阻害セントスル者アリ。幹事太田・役員宇仁田・大岩等、獻身事ニ從フ者、各本會ノ主旨ヲ説キ、慰諭諄々、調停太ダ務ム。然レドモ冥頑固執仍ホ不穩ノ情況ヲ認ムルヤ、郡長滿岡勇之助、亦現場ニ臨ミ百方説示ヲ加フルガ如キ、備サニ困難ヲ嘗ル所ナリ。既ニシテ處理漸ク進ミ、民家撤去ノ期ヲ定メテ、内宮方面卽チ宇治館町(戸數五十六戸、建坪千九百三十七坪六合餘、敷地八千百三十八坪五合五勺)ハ九月二十一日ヨリ向フ五十日トシ。外宮方面卽チ山田豐川町・岡本町・田中中世古町(戸數百十一戸、建坪二千百九十

三坪二合餘、敷地一萬九百九十二坪七合九勺)ハ十月十六日ヨリ向フ五十日トシ。地方發行ノ新聞紙(伊勢新聞・作新日報)ヲ以テ之ヲ廣告ス。是ニ於テ乎、土工實施ノ順序計畫ヲ要シ、又資金調理ノ緊急ヲ告グルニ至レリ。

地所・家屋ノ調査委員トシテ、七月以降創立員中ノ三名(中西用亮外二名)ヲ擧ゲ、既成ノ契約ヲ調査シ、併セテ未成ノ契約ヲ結バシムルモノ數月。幹事以下ノ役員ト、相提携シテ專ラ締約ノ事ニ從ヒ、二三已ムヲ得ザル事故アルモノヲ除クノ外、大抵豫定標準價格ノ範圍ヲ以テ結了スルヲ得タリ。其不當價格ノ修正ニ於テ、地所代金五千九百餘圓ノ減殺ヲ告グ。當時進捗ノ情況ヲ概察スベキ資料トシテ、十二月二十日ノ調成ニ係ル調査委員報告明細表中ヨリ左ノ事蹟ヲ拔抄掲載ス。

地所									
區域		買收用地總坪數	買收豫定價格即チ公定地價	持主人員	買收既濟坪數	未遂人員			
內宮方面宇治(館町)		八、一五、五	二、〇一五、六六四	五七名	六、五五六、五九	一〇名			
外宮方面山田(豐川町外二個町)		二、四八、七六	三、四七〇、五九	五九	九、八七五、三五	八			
合計		一九、三九、二八	五、四九二、七三	一二六	一六、四三一、九四	一八			
家屋									
區域	戶數	建坪	立退料契約既遂高	同上未遂高	未遂戶數				
內宮方面宇治(館町)	五六	一、九三七、六七八	八、三八、四五七	三、一〇三、九四一	五				
外宮方面山田(豐川町)	七	一、四四五、九六〇	三、五〇二、八一六	二、六二八、一〇〇	二四				
同(田中中世古町)	九	二、三五、二八〇	一、〇七〇、五六一	………	……				
同(岡本町)	二七	五、二一、九八〇	一、九〇〇、四一三	六三、八〇〇	二				
合計	二六九	四、一三〇、八九八	一四、八四二、二四六	五、八九四、八四一	三				

宇治山田各町幷ニ附近村落ノ寄附モ亦十一月ヲ以テ大略記帳ヲ了ス、之ヨリ更ニ縣下各郡ニ及ボシ、之ヲ結了シテ而シテ後、全國府縣ヲ唱誘スルノ順序ニ依ラザルベカラズ。今ヤ募集委員ヲ縣下各

郡ニ派セントスルニ方リ、各郡長ヲ推薦シテ贊助員トシ既ニ其承諾ヲ得ルアリト雖モ、能ク素志ヲ徹底セントセバ、地方長官ノ内訓ヲ請フニ如カズトシ、本縣知事ニ懇願スルニ、内訓發布ノ事ヲ以テス。

十二月下旬、明治二十年度（自七月至十二月）事務成績報告書ヲ編製シ、印刷シテ宇治山田市街及附近卅六個村募集係ニ配布ス、報告書左ノ如シ。

明治二十年度（自七月至十二月）神苑會事務報告

第一項　明治二十年七月二十一日、事務所ヲ豐川町ニ假設シ、庶務主計兩部ノ責任者ヲ置キ日常諸般ノ事務ヲ掌理シ、市街各町ノ委員長委員募集係等ト相連絡シテ大ニ進張ノ機運ヲ邀ヘ、傍ラ近傍村落卽チ舊神領各村ニ向ツテ斷エズ寄附金ヲ要求シ、進ンデ又度會郡内各村一般ニ及ボセリ、之レ別紙第一號表ヲ得ル所以ニシテ其決定ノ當時ニ際シ新聞紙上屢廣告ヲ怠ラザリシ所ナリ、而シテ近傍及郡内一般ノ各村ニ於ル、未ダ僅々ノ外其成額ヲ見ルニ至ラズト雖モ屢派出員ノ督促ニ由リ、不日將ニ報ズル所アラントスルノ現狀ニ處セリ

第二項　宇治館町・山田豐川町・岡本町・田中中世古町ニ於ル地所買上及家屋撤去ノ件ハ、豫テ本會事業ノ第一着歩ト定メシ重要緊急ノ件ニシテ、爲メニ七月以來調査委員諸氏ト計リ、當初買上委員ノ爲シタル契約書或ハ其實地ニ就キ、公平無偏ノ調査ヲ遂ゲ、猶之ヲ斟ズルニハ、客年七月五日役員會ノ決議ヲ以テ根據トセリ、然ルニ宇治館町ノ地所ノ如キハ盤根錯雜、苦情織ルガ如キモ、鋭意之ヲ排却シ、遂ニ地價額ニ超過セシ金額合計凡五千六百餘圓ヲ減殺セリ、依之同地家屋撤去ノ日限ヲ定ムルニ、向フ五十日間ヲ以テス、其追約書ニ雙方捺印セシハ九月十二日ナリ、次デ十月五日以來、外宮方面卽チ山田豐川町外二個町ノ調理ニ及ボシ、宇治館町ニ於ルガ如ク家屋撤去期限ヲ向フ五十日間ト定メ、其之ガ追約ヲ交付セシハ實ニ同月十六日也、爾來日々地所賣買ノ登記ヲ要求シ、又家屋撤去ノ内渡シ金、或ハ全額ノ仕拂及撤去ノ履行ヲ督スル等專ラ會計主務員及調査委員等之ニ從事シ、其繁忙言フ可ラズ、今ヤ撤去期限ヲ經過シテ猶家屋ノ存在セルヲ見ルハ、事情已ムヲ得ザルガ爲メ之ガ猶豫ヲ與ヘタルモノアリ、又不相當ノ契約或ハ決議

外ノ契約ニヨリ、未ダ完結ニ至ラザルモノ、及同質ノ地所ノアルアレバ也、是等ハ調査委員事務成績報告書、即別紙第二號編表ニ詳カナリ

第三項　金錢ノ收支ハ前項事件ノ收結ヲ告グルニ從ヒ、漸ク浩繁ヲ來セリ、即其額ヲ舉グレバ別紙第三號計算表ノ如シ、抑モ地所買上代、家屋立退料及事務所經費ノ如キハ、日一日支出ヲ缺クベカラザルモ、其目的タル收入ハ單ニ寄附金ノ一途アルノミ、然ルニ其徵收每ニ豫期ノ如クナル能ハザルノミナラズ、未ダ寄附額ノ決定ニ至ラザル者アリテ、當局者ノ苦配實ニ名狀ス可ラズ、幸ニ神宮司廳係員ヲ首メ、兩部日勤候補者諸氏ニ於テ非常ノ勞劬ト非常ノ斡旋トヲ添ヘラレシニヨリ、業ニ已ニ第一着事業ノ買收地及ビ家屋撤去ノ決行ヲ奏シ、今日之ガ成績ヲ告グルニ至リシ所以ナリ、蓋假會頭以下、庶務主計兩部ノ候補員ニ至ル七名ニ於テ、無限責任ニ同ジキ借入金ヲ首トシ、其他ノ借入金及寄附徵收金額等、其收支ノ要領ハ第三號表ニ詳カナリ、猶盡サヾル所ハ主計部長幷ニ寄附係長ニ於テ之ヲ陳述セン

第四項　以上三項ハ、七月以來常務ノ重モナルモノ也、此他普通從事ノ要領ヲ摘記

スレバ左ノ如シ

一本會規則書ハ十月ノ初メ朝野時事郵便報知・京濱每日・東京日々ノ五大新聞紙ヲ以テ三日間江湖ニ廣告セリ、是レ豫メ全國有志ノ注意ヲ惹起センガタメナリ

一舊神領地三十六個村ハ、常ニ募集係員ヲ派遣シ督促ヲ怠ラズ、其要求スル所ハ每戸人夫四十五人即之ヲ金員ニ易フレバ參圓六拾錢ヅヽトス、度會郡內一般ノ各村ニ於テ每戸人夫十五人ヅヽノ寄附ハ、當初戸長諸氏ノ肯諾ヲ經シモ、猶爾來戸長諸氏特別ノ盡力ヲ以テ各村落ノ總代人ニ悉ク募集係ノ囑托書ヲ送リ、以テ各村ノ募集事件ヲ懇囑セリ、是故ニ今回各村ニ向ッテ別紙第四號書類ヲ送リ、募集法案ノ參考ニ供セントス

一本會計畫ノ眼目ナル博物館・書籍館・美術館・歷史園ノ如キ事業ニ至テハ、豫メ內外古今ノ材料ヨリ、沿革考究蒐集類別ノ方法等所謂設置ニ關スル一切ノ憑據ナカルベカラズ、是ヲ以テ十月初旬、東京・福地復一ヲ以テ該取調員トナシ、專ラ學士・事業家及物件等ニ就キ調査セル事項ヲ通報セシム、是レ一朝ニ調了スベ

カラザル重要ノ件ナレバ、今ヨリ其準備ヲ施サント欲スル者也

一縣下各郡郡長ニハ八月六日附ヲ以テ贊助ヲ請フノ狀ヲ送レリ、爾來大舉實地ニ臨ムベキハ勿論ナリト雖モ、豫メ其順序法則ヲ畫セザルベカラズ、故ニ十一月三日、幹事參廳シテ懇願書ヲ呈シ親シク縣知事及ビ書記官等ニ面陳稟具セリ、今ヤ願意ヲ達セントスルノ沙汰ヲ俟ツ次第ニシテ、專ラ是ガ準備ニ汲々タリ

一當時議決ノ方針卽チ內前野ノ里道ヲ廢シテ其南側ニ沿ヒ新道開設ノ事ヲ決行シ、去月右道路變換ヲ出願シ、既ニ許可ヲ得タルヲ以テ、追テ又從來ノ前野本道ヲ廢シ今回開設ノ新道ニ併セ、國道七間幅ニ出願セント欲スル所也

一七月以來、賀日館ニ來遊ノ貴紳ハ　梨本宮・北白川宮御息所及森文部大臣・石橋內閣統計院長・勝間田愛知縣知事等ニシテ皆是レ他日本會ノ翼贊ヲ請フベキ機會ノ伏線ヲ得タルモノ、如シ、此他普通ノ登館者ハ（自五月至本月）總員凡千六百名ナリ、抑該館ノ日ヲ逐ウテ名聲ヲ江湖ニ馳スルハ則本會ノ名聲ヲ江湖ニ馳スル所以ノモノナレバ、不日該館繪圖面ヲ調製シ、普ク登館者ノ要求ニ應ゼント欲スルモノナリ

一買收地、家屋撤去跡ハ壞敗狼藉觀ルニ忍ビザルヲ以テ、來一月ヲ待チ寄附人足ヲ投ジテ之ガ大洒掃ヲ爲シ、然シテ其周圍ニ木柵ヲ植エ、是ヲ以テ先ヅ第一着工事ノ一段落ト定メ、其後ハ全力ヲ寄附金募集ニ傾注シ、專ラ事業資金ヲ收容セント欲ス

一館町立退地內ニ於テ寄附金標札掲示所構設ノ事ニ決セリ、依テ其側ニ間口二間奥行二間半ノ土藏一個所ヲ買求メタリ、右ハ參拜有志者ノ寄附金申込所ニ充テ、傍ラ本會ノ目的ヲ擴張セント欲スレバ也

以上經紀ノ事項ハ附屬書類ト共ニ、報ジテ以テ諸氏ノ展閱ニ供ス、猶詳細ノ事ハ庶務主計ノ合議錄幷ニ會計諸帳簿等ニ就キ檢閱アランコトヲ

神苑會假會頭　鹿島則文

同會幹事　太田小三郎

附屬報告書類

第一號　寄附金成額表
第二號　地所家屋調査表
第三號　出納報告書
第四號　郡内各村へ發布セントスル書類

（此ニ掲載ヲ略ス）

神苑會史料

第三編

第三編

創立第三期　自明治二十一年一月至同年十二月

明治二十一年一月、村井恒藏ニ庶務部長ヲ囑託ス。是ヨリ先キ、同人、縣會常置委員ノ公議ヲ負ヒ常ニ廳下ニ在リ、太田幹事參廳スル毎ニ、會務ニ參與スル所多シ、今常置委員ノ任期滿ルニ及ビ、庶務部長ニ任ジテ、專ラ本會ニ從事ス。

昨臘以來　兩宮附近、民家概ネ撤去ヲ了シ、廢墟荒凉ノ觀アリ、速ニ之ヲ掃蕩シ地盤ヲ平均セザルベカラズ。是ニ於テ宇治山田及附近村落ニ對シテ寄附金ニ換算スベキ人夫ノ課役ヲ促ガシ、部署方面ヲ定メテ勞役ヲ課ス(人夫一日賃銀八錢ヲ標準トシ、舊神領部內ハ毎戸四十五人宛、自餘村落ハ毎戸十五人宛ノ募集法案ニ準據ス)。而

シテ地域ノ掃蕩ニ次ギ開苑ノ土功亦急且要ナルヲ以テ、庶務部員吉川清三郎ヲシテ專ラ其事ヲ掌理セシメ、地形ヲ案ジテ先ヅ道路ヲ修メ、次デ溝渠ヲ通シ、橋梁ヲ架シ、石積ヲ施ス等、各局部ノ豫算ヲ調製シ、請負規則ヲ設ケテ着々工事ヲ督勵ス。其道路改修ニ方テヤ、國道ニ連接シ往來頻繁ヲ加フベキ部分ハ、他日國道ニ編入セラルベキヲ以テ、實地ヲ測量シテ幅七間ヲ標準トセル一條ノ幹線ヲ定メ、成規ヲ踐ミテ縣廳ノ許可ヲ請ヒ、又　宮域ト境界相交ル部分ニ在テハ、神宮司廳ノ認許ヲ得テ其設計ヲ定ム。凡ソ施工ノ完全ヲ計ランガ爲メ、特ニ縣廳ニ請フニ、土木吏員一名ノ派出ヲ以テシ、其監督ノ下ニ土功ヲ進捗セリ。時ニ本會事務所ニ充ツル所ノ廨舍モ亦撤去區域ニ在ルヲ以テ、此後田中中世古町吉川清三郎ノ宅ニ移リ、姑ラク事務所ヲ此處ニ假設ス。

苑地ノ土功、既ニ衆目ヲ惹クト雖モ、他ノ地方ニ在テハ未ダ目的事業ノ何タルヲ解セザルモノ多シ、今多數ノ參宮旅客ヲシテ之ヲ知悉セシメンガ爲メ、一葉ノ規則書ヲ印行シ、添ルニ簡單ナル說明書ヲ以テシテ、市內各町ノ旅舍ニ依托シ、之ヲ宿泊人ニ交付セシム。

第二着歩ノ事業卽チ倉田山ニ於ケル計畫調査ノ爲メ、昨秋以來、在京福地復一ニ依囑スル所アリト雖モ、未ダ調成ノ域ニ至ラズ、若夫荏苒曠日ニ委センカ、信ヲ江湖ニ示ス能ハザランコトヲ恐ル。庶務部員大岩芳逸、上京シテ專ラ調査ノ事ニ從ヒ速ニ調成ヲ期センコトヲ提案ス。其計畫順序ノ腹案ヲ列記セルモノ左ノ如シ。

倉田山計畫見積順序　　甲編（本地ニ於テ調査シ得ベキ事項）

一　地所買上家屋立退料ノ事

地所ハ地價反別ヲ取調ベ、家屋ハ坪數評價ヲ取調ブル事

一　大道及小徑ノ事

全體ノ地域ヲ五區ニ大別シ、第一區・第二區內ノ大道ハ、幅五間トナシ、小徑ハ二間半或ハ三間トス、又第三區・第四區第五區內ノ大道ハ、幅三間トナシ、小徑ハ二間或ハ一間トス、而シテ坂路ハ止ヲ得ザル個所ノ外ハ、渾テ二寸勾配トス

一地均ノ事

第一區・第二區ノ平坦ナル地ヲ均シ、遊覽人ノ徘徊ニ便ナラシメ、又待賓館前眺望ノ如キ、博物館前ノ如キハ、最モ注意ヲ要ス、又第三區・第四區第五區ニ於テハ肖像及亭榭等ヲ建設スル個所ノミヲ均シ、其他ハ天然ノ風致ヲ存シ、只歩行ノ便ヲ開クベシ

一樹木植付ノ事

第一區・第二區內ニハ、櫻松柳楓ノ類、又第三區・第四區ノ溪間及其他ニハ、楳櫻楓或ハ棣棠花躑躅萩等ノ類ヲ集メ、移植ノ株數幷ニ栽培ノ方法ヲ取調フル事

一景石設置ノ事

第一區・第二區內ニ、適宜据付ノ見込ヲ立テ、或ハ石燈籠等ノ事ヲ取調フル事

一芝植付ノ事

第一區・第二區ノ樹木及景石ノ傍、又待賓館前博物館前等、凡平坦ノ所ニ見積ヲ立ツル事

一水道伏樋ノ事

五十鈴川ヨリ伏樋ヲ以テ水ヲ導キ、苑內ニ灌漑セシメ、飛泉ヲ設ケ又ハ溪流ヲ通ズルノ見積ヲナス事

一待賓館ノ事

本館ハ來賓ノ用ニ供シ、併テ本會集會ニ充ントスルニ在リ、因テ客室寢室又ハ遊戯場ニ至ル迄ノ構造ヲ見積ル事

一競馬場ノ事

苑內適當ノ地ヲトシ、周圍ニ鐵柵ヲ設ケ、圓形ノ地ヲ設クル事

一能舞臺ノ事

一亭榭小憩所ノ事

苑內風致ニ富メル場所ニ二三ノ小亭ヲ設ケ、又ハ傘ノ臺ノ如キ小憩所及鐵椅子ヲ設クル事

倉田山計畫見積順序

一大時計ヲ設クル事

古市町ヨリノ通路、卽チ苑地入口ニ大時計一臺ヲ裝置シ、着目仰視ノ標トシ、兼テ時間ヲ知ルノ便トス

一電燈或ハ玻璃燈ヲ設クル事

第一區第二區大道及博物館前、其他建設物アル所ヨリ、第三區第四區第五區ノ大道各所ニ建設ス

一歷史博物館ヲ設クル事

歷史博物館ハ我國未ダ其設アルヲ聞カズ、然レドモ建國悠久ナル我邦ニ於テハ必須ノ設備ニシテ、古來有形上ノ沿革ヲ示シ、我國ノ變遷ヲ表示スルハ大廟ノ下ニ於テ最モ缺ク可カラザルモノナリ、此擧ハ實ニ困難ノ事業ナリト雖モ、大體ノ組織トスル所ハ、人類學・歷史哲學・審美學等ニ基キ、本邦固有ノ事物ヲ採集シ、各專門家ニ就キ、館內ヲ衣食住・遊戲・雅藝・儀式・祭典・文學・美術・農業・工業・商業・貿易・運輸・交通・衞生・兵備・軍陣・神佛・妖怪等ノ部門ニ分チ、每區時代ヲ逐ウテ排

列シ、又其實物ノ得難キモノハ圖畫模造ヲ以テ之ヲ示シ、一々簡單ナル說明ヲ附セントスルニアリ

一古俗園ヲ設クル事

古俗園ハ歷史博物館ノ附屬ニシテ、館內ニ於テ裝置スベカラザルモノ、卽チ園藝・城址或ハ我國原人時代所謂神代古俗ノ形狀ヲ示スモノニシテ、穴居時代ノ遺物ヲ蒐メ、竪穴・橫穴・古墳・埴輪・立物等ヲ模造シ、其沿革ニ從ヒ園中ニ排列セントスルニアリ

一銅石肖像及碑銘ヲ設クル事

神武天皇ノ肖像・倭姬命ノ廟ヲ始メ、和氣・鎌足・楠・新田等ノ如キ、苟モ皇猷國基ニ關シ、偉勳炳焉タル聖皇先賢ノ肖像ヲ設置シ、又規則第十條ノ傳記碑銘ヲ彫刻建設ス

一書籍館ヲ設クル事

我國古來ノ書籍ヲ蒐集シ、皇典ヲ學ブニ便ナラシメ、且內外ノ典籍ヲモ集メテ、衆人ノ閱覽ニ供セントス

一歴史博物館附屬農工博物館ヲ設クル事

現時農工上ニ必要ナル器具ハ、内外ヲ論ゼズ、種類區域ヲ設ケテ網羅排列スルノ區トシ、一般觀者ヲシテ將來ニ應用發明スル所アラシメントス

一油畫廊ヲ設クル事

我國ノ古代ヨリ近世ニ至ル迄、歴史上、偉勳ヲ傳ヘシ賢相名將若クハ純忠正義ノ士ガ廟堂帷幕ノ裡ニ於ル畢功ヨリ、戰陣矢石ノ間ニ奔走セル現狀及天下人口ニ膾炙セル、逸聞美談ノ事蹟ハ悉ク其人々ノ眞像ヲ油畫ニ描取シ、之ヲ掲グルニハ、世代ヲ追ヒ、部類ヲ分チ、以テ觀者ヲシテ、一見遺風ヲ追懐シ、直ニ感觀奮起セシムルヲ要ス

一動物園ヲ設クル事

動物園ハ博物館ノ附屬ニシテ、内外東西ノ產ニ係ル禽獸蟲魚ヲ蒐集飼養スルノ區トシ、以テ諸般動物ノ生育セル實況ヲ目擊辨別スルノ資トス

一假山ヲ設クル事

古今、園藝家ノ意匠ヲ模範トナシ、我國古來園藝ノ進化ヲ示スヲ必要トス

右提案ヲ裁可シ、其甲編事項ハ本地ニ在リテ調査ヲ進ムルモノトシ、乙編列記ノ事項ヲ稽査センガ爲メ、一月下旬、大岩芳逸ヲ東京ニ派シ、福地復一ト共ニ從事セシム。

二月本會事業計畫案ノ調査進行ト相待チ、縣下各郡ヲシテ奮起協力、益本會事業ノ發達ヲ期セシメンガ爲メ、各郡長ニ對シテ示達アランコトヲ石井本縣知事ニ懇願ス、其書左ノ如シ。

懇願書

不肖某等會員一同ニ代リ茲ニ懇願スル所アラントス、同顧スレバ明治十九年十二月ヲ以テ本會創立ノ允許ヲ蒙リ、爾來執務ノ方針ヲ定メ、鋭意敢行茲ニ一閲年、遂ニ當時豫期セシ創立事業卽チ　兩宮接續地買上幷ニ人家撤去ノ實蹟ヲ始メ、郡内寄附金凡拾萬圓別紙甲號事蹟書ノ如ク之ヲ奏了セリ、猶奮テ縣下二十郡ニ進行シ、次デ天下公衆ニ相及ボサント欲ス、是ヲ以テ夙夜經營敢テ進圖ヲ講定シ、今ヤ準備方サニ成リ、愈以テ不日皇張ノ途ニ就カントスルニ至レリ、是寔トニ我度會郡民、協同

憤發ノ志念ニ原由セシ效果ニシテ、某等不肖ノ、素ヨリ鞠躬盡瘁、渝ルナキヲ期スル所ナリト雖モ、抑モ本會將來ノ事業ハ、別紙乙號豫算書ノ如ク　天祖御鎭座以來、空前絶後ノ計畫ニ屬シ、固ヨリ邊境一部ノ協合ヲ以テ完全ノ收局ヲ期スベキニアラズ、乍恐　皇室ヲ首メ奉リ、汎ク天下公衆ノ協力ヲ得テ之レガ大成ヲ期スル所以ニ候得共、物ニ本末アリ、事ニ終始アルハ古今ノ通義、則チ人事ノ常例ナルヲ以テ、誓テ輕躁浮動ノ擧ヲ戒メ、整然秩序ヲ取テ稍今日創業ノ端緒ヲ開キシモ、天下ノ汎キ公衆ノ膠シキ、未ダ是ヲ以テ信認ヲ憑章スルニ足ラズ、未ダ是ヲ以テ事實ヲ聲聞スルニ足ラズ、必ズヤ縣下二十郡、相須テ創業ノ衝ニ當リ、然ル後之ヲ天下ニ表明シ、其信認ヲ公衆ニ博スルニアラズンバ、恐クハ之ガ大成ヲ告ゲガタカラントス、是本會進張秩序ノ本領ニシテ、將又天下公衆ノ注目スル所也、今ヤ本縣下ノ結合如何ハ實ニ本會ノ消長ニ關スル一大機關ニシテ、不日各郡ニ派出相當ノ寄附金ヲ要シ、相與ニ天下ニ表明セント欲スレドモ、寄ニ憂フ大聲里耳ニ入ラズ、或ハ危疑ノ念ヲ挾ミ、爲メニ充分ノ信用ヲ來サヾルノミナラズ、又時日ヲ徒消シ、自然天下公衆ニ對シ本旨徹底ノ時機ヲ失スル等ノ事アルニ至テハ、萬々歎ハシキ次第ト存候間、何卒特別ノ御詮議ヲ以テ本縣下二十郡歟起感憤、相共ニ率先創業ノ責ニ當リ候樣、各郡郡長諸氏ニ御内示被成下度然ルトキハ一層人心ヲ喚起シ、彌創立ノ根據ヲシテ鞏固ナラシメ、上　皇室ヲ首メ奉リ、下天下公衆ニ對シ、徹頭徹尾本會率先ノ事實ヲ表明スベク、是唯我度會郡ノ名譽ノミナラズ、實ニ本縣下萬世不泯ノ名譽ヲ樹ツル義ト信認罷在候、仍テ別紙甲號事蹟書、幷ニ乙號計畫豫算書相添ヘ此段奉懇願候也

乙號書類　神苑計畫案

兩宮接續地

兩宮接續ノ地ハ、從來人家軒ヲ接シ頻ル猥雜ヲ極メ、自ラ風致ヲ損スルノミナラズ、嘗テ火災ノ　宮域内ニ延燒センコトヲ恐レ、屢撤去ノ說アリシモ、未ダ行ハレズ、由テ今回斷然其地ヲ購ヒ、盡ク人家ヲ撤去シ、道路ヲ修メ樹木ヲ植エ、池ヲ穿チ水ヲ引キ、清淨幽邃ノ苑囿トナシ、參拜者ヲシテ自ラ靜肅恭敬ノ念ヲ起サシメントセリ

倉田山神苑

兩宮ノ中央、古市町ノ東北ニ起伏セル丘陵ハ、迤逶十餘町ニ亙リ、喬木矮樹雜錯繁茂シ、大厦高閣ヲ構フベキ平地アリ、園地懸泉ヲ設クベキ溪澗アリ、丘頭ノ眺望ハ、遍ク

神路・朝熊ノ諸山ニ對シ、五十鈴川ノ清流脚底ヲ過ギ、遠クハ二見浦ヨリ渺漫タル伊勢海ノ碧波ヲ隔テ、遙カニ富嶽ヲ水天彷彿ノ間ニ望ムベク實ニ天然ノ風景ニ富メリ、由テ此地ヲ開キテ一大苑囿トナシ、倉田山神苑ト稱シ徑路ヲ修メ、樹石ヲ配シ、亭榭ヲ設ケ、燈臺・銅像・待賓館・奏樂殿ヲ建テ、且左ノ歷史博物館等ヲ設置セントス

歷史博物館

歷史博物館ハ、古來人爲上ニ屬スル有形物ノ變遷ヲ示シ、我國風俗・習慣・文物・技藝ノ沿革ヲ知ラシムルモノニシテ、人類學・史學・審美學等ノ學說ニ基ヅキ、歷世ノ史乘及遺跡古物ニ徵證ヲ求メ上古・中古・近古・近代等ノ年紀ヲ分チ、秩然變遷ノ次第ヲ立テ、彙類ヲ甄別シテ圖畫・模造物及實物ヲ陳列シ、一々簡單ナル說明ヲ附ス、其陳列ノ要目左ノ如シ

陳列目

第一室
- 第一區　容飾（容貌・風姿・頭髮・鬚眉・黥面・文身・化粧・澡浴類
- 第二區　飲食（飲食物・調理・調膳・廚房具類
- 第三區　衣服（衣服・冠帽・履襪・服玩・布帛類
- 第四區　住屋（家屋・建具・室內裝飾物・庭園類
- 第五區　器財（鑽燧・燭火・井・竟・釣瓶・机・案・臺・架・梯・箱・櫃・籠・網・紐・帶・刷・覆・座・印・鎖・鑰・看板・防火具・報知具・稱量具類

第二室
- 第一區　文藝（文字・文章・諸學術・圖書・學校・文庫・文房具類
- 第二區　美術（繪畫・音樂・詩歌・書類
- 第三區　遊藝（雅藝・戲曲・碁・弄類
- 第四區　醫藥（醫術・藥物類

第三室
- 第一區　農業（農作・種樹・漁獵・收畜・養蟲類
- 第二區　工業（工業・製作・建築・土木・造船・採鑛類
- 第三區　運輸（交通・運搬・舟舶・車駕・橋梁類
- 第四區　商賈（商業・貿易・貨幣・證券・度量衡類

第四室
- 第一區　宗教（宗教・巫占類
- 第二區　道德（道德・禮儀類
- 第三區　儀式（儀式・祭典類
- 第四區　政治（政治・法律類
- 第五區　兵事（兵事・武藝類

第五室　人物類

第六室　圖書類

歷史博物館附屬　彰德館

彰德館ハ、我國古來有名ノ聖皇明君ヲ始メ、忠臣義士・鴻儒・高僧名士・鉦匠・孝子・節婦等ノ肖像及其行爲事蹟ヲ幀面ニ描出シ、之ヲ館內ノ壁面ニ揭ゲ、又館ノ中央ニハ塑像ヲ安置シ、觀者ヲシテ自ラ欽羨ノ念ヲ生ジ、感奮興起スル所アラシムルモノナリ

歷史博物館附屬　徵古園

徵古園ハ、上世ノ遺跡古物ヲ模シ、横穴・竪穴・塚穴・古墳及埴輪立物・石棺・陶棺・石人・石馬・貝塚・土器塚・環狀石維等ヲ設ケ、且中古・近古ノ建築物タル、唐制ノ宮殿・校倉・城廓・蘆舍及有名ノ庭園等ヲ模造設置シ、以テ考古ノ志料ニ供シ、風俗文物ノ沿革ヲ知ラシム

歷史博物館附屬　植物園

植物園ハ、地上ニ圓形ヲ劃シ、中央ニハ本邦固有ノ花卉草木ヲ列植シ、其周圍ハ外

環ヲ層スルニ從ヒ、上古・中古ヨリ近古・近代ニ及ボシ、各時代ニ於テ支那・朝鮮・印度・南洋諸島・西洋各國ヨリ舶載セル植物ヲ配栽シ、且園地ヲ縱横分劃シテ、植物ノ細目ヲ分チ、序ヲ逐ウテ聚胞體植物ヨリ、双子葉多瓣花植物ニ至リ、一目植物學上ノ智識ヲ得セシムルニ便ス

歷史博物館附屬　動物園

動物園ハ諸般動物ノ種屬・形貌・性能・生育等ノ次第ヲ領知セシムベキ實觀ニシテ、博物館ニ附屬スベキ必要ノ設備物トス、其構造ハ先ヅ園內ノ位置模樣ニ適シテ、鐵檻・庭籠・水槽・囿室ノ類ヲ設ケ、獸・鳥・魚・爬・蟲・蟹・蝦類等、各部屬ヲ劃シテ畜養生育ノ法ヲ施シ、間々又海外異域ノ產ヲ集メテ耳目ノ料ヲ富マシム

歷史博物館附屬　圖書館

圖書館ハ專ラ皇典和書ヲ集メ、傍ラ漢書及諸學術雜書・洋書ヲ備ヘ、廣ク諸人ノ繙閱ヲ許シ、國史ヲ案ジ和文ヲ修メ、又古今內外ノ智識學理ヲ探究スルニ便ナラシム

宮川架橋

宮川ハ神都ノ咽喉ヲ扼スル溢流ニシテ、近來假橋ヲ架設スト雖モ、霖雨出水ノ爲メ破損流失ノ患ナキヲ保セズ、往々通行ノ停滯ヲ來スニ至ルハ夙ニ遺憾トスル所ナリ、故ニ堅牢ナル木製本橋ヲ架設シ、一ハ廟下ノ觀ヲ副ヘ、一ハ通行往來ノ便ヲ與ヘ、以テ聖世ノ闕事ヲ裨補セント欲ス

神苑計畫豫算概目

一金壹百貳拾萬圓　　募集金總額

內譯

金九拾萬圓　　創立幷ニ事業資金

此譯

金七萬參千八百八拾四圓　　第一着卽兩宮接續地開苑費

金五拾七萬六千百拾六圓　　第二着卽倉田山開苑費

金五萬圓　　宮川架橋費

金五萬圓　　豫備費

金拾五萬圓　　創立募集經費

金參拾萬圓　　保存資金

計金如元　　總額

第一着神苑豫算仕譯書

一金七萬參千八百八拾四圓

內譯

金五千五百五拾八圓六拾參錢八厘　　地所買上代

但宇治館町・山田豐川町外二個町・耕宅地合計反別壹萬九千六百四拾坪二合八勺　　家屋立退料

金貳萬七百參拾七圓八錢七厘

但同所家屋百六拾九戸此坪四千百參拾坪八合九勺八才　　道路改修費

金壹千九百貳拾七圓八拾錢七厘

但宇治館町・山田豐川町外二個町・延長參百六拾五間・道幅七間　　架橋費

金六百貳拾四圓

但木造橋梁參個所長三間乃至二十一間巾一間乃至七間此坪四拾八坪

金參千八百四拾參圓　地均シ費

但宇治館町苑囿敷地八千八百參拾坪、山田豐川町外貳個町苑囿敷地九千四百七拾坪、合計壹萬八千參百坪

金七千八百圓　石積費

但五十鈴川岸長百九拾五間高壹間貳段ニ景石積上ゲ此坪參百九拾坪

金五百五拾六圓五拾五錢　石柵費

但五寸角長四尺ノ石柱宇治ノ分貳百五拾本、山田ノ分參百八拾本、合計六百參拾本幷ニ附屬鐵具鐵鎖共

金七百參拾六圓　小徑費

但苑中小徑延長九百貳拾間修築及兩側石代

金參千貳百七拾五圓　建築費

但宇治苑內亭榭貳棟、山田苑內參棟、合計坪數百參拾壹坪

金六百八拾參圓貳拾錢　整地費

但豐川町字茜田參千四百拾六坪、深貳尺浚賃

金壹千貳百圓　池中築島石積費

但築島周圍六拾間高貳間、此坪百二十坪及周圍百間高貳間、此坪貳百坪、合計參百貳拾坪

金壹千百四拾四圓五拾錢　池周邊石積費

但南側百七拾間高壹間半、此坪貳百五拾五坪、北側百四拾壹間高壹間半、此坪貳百拾壹坪半、合計四百六拾六坪半

金五千壹百圓　敷砂費

但地坪八千五百坪ヘ菅島砂利厚五寸積

金壹萬貳百圓　樹木及景石費

但樹木各種千七百株栽植、景石貳千四百個及芝植付八千五百坪

金壹千圓　玻璃燈費

但宇治館町、山田豐川町外貳個町苑地沿道ヘ五拾基ッヽ、合計百基

金九百四拾八圓貳拾參錢　內宮宮域境界修築費

但新規石垣築立長百貳拾四間、堀割百五拾間、參道六拾八間

金壹千參拾八圓參錢　外宮宮域境界修築費

但新規石垣築立長參百八拾五間、堀割貳百七拾八間、北御門口參道百五拾八間

金五千百參拾六圓七拾五錢八厘　賓日館建築費

但建物坪數百八拾坪參合

金五百四拾參圓參拾錢　同館敷地買上代

但此坪數九百四拾六坪

金壹千八百參拾圓　同館倉庫及備品諸費

但倉庫一棟幷ニ館內備付諸器械調度品代

計金如元

第二着神苑豫算仕譯書

一金五拾七萬六千百拾六圓　總額

內譯

金七千百五拾壹圓八拾貳錢　倉田山地所買上代（但反別合計廿壹萬七千六百八拾五坪參合六勺）

金壹千拾貳圓五拾錢　古市町家屋拾參戸立退料

金五萬八千七百五拾圓　待賓館建築費

此譯

金參萬七千五百圓　本館煉瓦石造二階建坪數貳百五拾坪

金千貳百五拾圓　附屬舍木造平家建坪數五拾坪

金貳萬圓　內外裝飾幷ニ器具代

金壹萬參百四拾圓　築園及亭榭小憩所設置費

金六百壹圓五拾七錢　競馬場設置費

金貳萬六千貳百貳拾圓　水道布設費

此譯

金貳萬貳千九百拾九圓七拾五錢　鐵管伏込費

金參千貳百四拾圓　隧道九個所鑿通費

金六拾圓貳拾五錢　敷地料

金六百貳圓五拾參錢

此　譯

金五百貳拾六圓七拾參錢

金七拾五圓八拾錢

金參千八百五拾七圓七拾九錢

金八千參百七拾壹圓五拾九錢

此　譯

金七千五百貳拾六圓八拾五錢

金八百四拾四圓七拾四錢

金貳千五百五拾圓

此　譯

金參百圓

金貳千貳百五拾圓

金四千五百四拾參圓

道路修築費

大道修築費

小徑修築費

橋梁架設費

地均シ及林地手入費

地均シ費

林地手入費

芝植付幷ニ景石据付費

景石据付費

芝植付費

樹木栽植費

金參百五拾圓

此　譯

金貳百拾六圓

金百參拾四圓

金七千八百四拾九圓貳拾錢

金參千六百圓

金參千貳百圓

金六千圓

金壹萬六千八百圓

金參拾壹萬五百六拾圓

此　譯

金拾四萬六千圓

金壹千貳百圓

金貳百四拾圓

鑿池費

築堤費

掘鑿費

新川掘割費

玻璃燈百八拾基建設費

本會事務所建築費

燈臺一基裝置費

銅肖像及紀念碑建設費

歷史博物館建築費

本館煉瓦石造壹棟二階建五百九拾坪內外裝飾費共

建築幷ニ裝飾技師雇入費

監督人雇入費

金百貳拾圓	書記雇入費
金貳千六百圓	建築用雜費及運搬費
金貳萬八千七百五拾圓	畫料及表裝料
金貳萬七千參百圓	物品模造料
金七萬五千圓	寶物買上料
金五千六百圓	寶物蒐集料
金壹萬百拾圓	裝置玻璃函代
金參千貳百圓	陳列裝置具代
金五百四拾圓	說明票代
金壹千貳百六拾圓	設備掛長給料
金八百圓	學藝委員謝禮金
金壹千八拾圓	設備掛給料
金九百圓	設備掛書記生給料
金五百圓	學藝委員旅費

金貳千五百圓	物品運送其他諸費
金貳千八百六拾圓	取調ニ關スル諸費
金四萬貳百九拾圓	附歷史博物館周彰德館建設費
此譯	
金貳萬七千參百圓	畫料
金五千六百圓	塑像製作料
金四千貳百圓	裝置費
金貳千八百七拾圓	設備諸雜費
金參百貳拾圓	附歷史博物館周徵古園造設費
金壹萬六千四百六拾八圓	
此譯	
金貳千貳百六拾八圓	上古部造設費
金五千六百圓	中古部造設費
金七千八百圓	近古部造設費

本館煉化石造圓形平家建坪數百五拾坪內外裝飾費共

金八百圓

金貳萬參千參百拾圓

此　譯

金七千六百圓

金壹萬千六百圓

金壹千貳百四拾圓

金貳千四百圓

金四百七拾圓

金五千六百九拾圓

此　譯

金七百貳拾圓

金八百八拾圓

金壹千八拾圓

金壹千四百圓

諸雜費

歷史博物館附屬圖書館建築費

本館建築費

圖書買上費

室內諸器具調製費

倉庫及圖書函製作費

設備諸雜費

歷史博物館附屬植物園造設費

築園費

附屬舍建築費

植物及種子買入費

植物運搬植付諸費

金壹千百五拾圓

金四百六拾圓

金壹萬七千九百九拾八圓

此　譯

金七千圓

金參百圓

金貳千六百圓

金壹千百圓

金七百四拾八圓

金四百七拾貳圓

金九百拾六圓

金千八百四拾六圓

金九拾六圓

金千貳百四圓

裝置費

諸給料旅費其他諸雜費

歷史博物館附屬動物園設置費

動物買上費

來觀人出入門

鳥獸室

猪鹿室

猛獸檻

尋常獸室

小禽室

圓形水禽庭籠

水禽庭籠

觀魚室

金四百拾六圓
金百五拾圓
金千百五拾圓

計金如元

宮川架橋費豫算仕譯書

一金五萬圓

內譯

金參萬七千五百五拾圓

此譯

金貳萬六千七百四拾參圓五拾錢
金千九百六拾貳圓八拾錢
金貳千六百四圓
金貳千五百九拾貳圓
金六百六拾四圓六拾七錢

畜養舍
竈舍
設備用諸費

總額

本橋幅四間長百九拾貳間

木材代
石材代
鐵具及唐銅類代
大工方
石工方

金千八百圓五拾錢
金千百八拾貳圓五拾參錢
金八千七百五拾六圓

此譯

金四千百七拾壹圓
金千九百六拾貳圓八拾錢
金五百五拾八圓八拾錢
金四百八拾圓
金六百六拾四圓六拾七錢
金五百四拾七圓七拾五錢
金參百七拾圓九拾八錢
金貳千六百九拾四圓
金壹千圓

計金如元

人夫方
杭木足代其他諸費
小橋幅四間長參拾間

木材代
石材代
鐵具及唐銅類代
大工方
石工方
人夫方
杭木足代其他諸費
道路修築費
諸雜費

金五萬圓	豫備費
金拾五萬圓	創立幷ニ募集諸費
金參拾萬圓	保存資金
小計金五拾萬圓	
總計金壹百貳拾萬圓	

（甲號書類事蹟書掲載ヲ省略ス

二月下旬、在京大岩芳逸ノ調査ニ係ル倉田山事業計畫案成ル、本是レ未定稿ニ屬スト雖モ粗、計圖ヲ説明スルニ足ルヲ以テ印刷シテ會員ニ配賦ス、（前掲計畫案ニ載ル所ノモノ是ナリ）。

三月上旬、縣下各郡ノ募集ニ着手スベキ時機ニ迫リシヲ以テ、寄附帳簿・事業計畫・豫算概目・依囑書等ヲ調理ス、曩ニ縣下募集ノ順序標準ヲ講究シ、其募集法案ヲ立ツルコト左ノ如シ。

縣下各郡寄附金募集法案

寄附金ハ有志者各自ノ意向ニ任スルヲ以テ、本會敢テ其額ヲ豫定シ、若クハ賦課徵收ノ法ヲ設クルハ、素ト揑構ニ屬スルノ嫌アリト雖モ、實際募集上彼我ノ便宜ヲ計リ終局ノ速成ヲ尙バザルベカラズ、若夫レ往復複雜ニ、時日遷延ニ、其煩勞ト冗費トヲ要スルハ深ク本會ノ警戒スル所ニシテ、嘗テ屢焦慮スルノ點實ニ茲ニ存ス、故ニ募集ノ目的標準卽金額幷ニ徵收法案ヲ豫定シ、勵精其望ヲ遂グルノ運動ヲ須要ナリトス今ヤ縣下一般ニ向ヒ實施セントスル順序ノ梗概ヲ摘記スレバ

第一、募集見込額ノ事

縣下二十郡（度會郡ヲ除ク）ニ於テ金拾萬圓ヲ募集セントス、抑モ我度會郡ニ於ル成額ヲ以テ標準トシ、縣下一般ニ算及セバ數拾萬圓ノ額ニ達スベキモ、本郡ト他各郡トノ間ニ於ル郡民ノ感情ハ自ラ幾分ノ差異ナキヲ得ザルベシ、故ニ茲ニ拾萬圓ト商定シ、之ヲ二十郡ノ戸數假額凡拾五萬ニ除シ、其得ル所六拾六錢六厘六毛有奇ヲ以テ平均一戸當リ募集額ト認メ、之ヲ定率卽チ標準トス、此額ヤ難キニ似テ然ラズ、蓋各地必シモ幾何ノ富裕家アリ自ラ幾十百戸分ニ超過シテ義捐ス

ル所ナクンバアラズ、加之縣官、裁判官、郡吏員等アリ、亦以テ充分ノ贊助協力ヲ請ハザルベカラズ、假令貧窮ニシテ應ジ難キ鰥寡孤獨ノ輩アルモ、彼ヲ以テ是ヲ補フノ餘裕綽々タリ、且其徴收ニ至テヤ一時卽收ノ課法ニ依ラザルベカラザルニ非ズ、要スルニ委托其人ヲ得、周旋其宜キヲ制セバ、二三年間ニ徐々完結ノ途ニ就カンノミ、誰カ各自應分ノ義捐ヲ拒ンデ　聖代國恩ニ酬ユルノ道ヲ知ラザランヤ、本會將ニ縣下ニ向ツテ此豫算ヲ實獲セント欲ス

第二、募集順序ノ事

前陳見込ヲ立ツルニ從ヒ、之ヲ實踐スル所ノ順序ヲ盡サヾルベカラズ、其概要ヲ掲グルコト左ノ如シ

第一　縣官裁判官郡吏、其他吏員一般ニ義捐ヲ乞フ事及縣廳ヨリ各郡長ニ內示ヲ乞フ事

第二　郡長(卽贊助員)ヨリ各町村戶長及資產家名望家ニ內諭ヲ乞フ事

第三　前項戶長及資產家名望家ヲ擧テ創立委員トシ、募集上ノ注意ヲ乞フ事

第四　每町村知名ノ篤志者ヲ擧テ募集委員トシ、其地方ノ寄附周旋ヲ囑托スル事

第五　創立委員、募集委員等ニハ依托書ヲ送付スル事

第六　寄附金ハ囑托ノ日ヨリ三週日間ニ記帳報告ヲ經ムル事

第七　寄附金徴收方ハ其地ノ情況ニ從ヒ、募集委員ニ依テ適宜ノ法ヲ設クベシト雖モ、本會ハ豫メ立ツル所ノ標準ニ由リ募集幷ニ取纏メ方ヲ托スル事

第八　各地方ノ富豪家ハ平等見込ニ拘ラズ、特別ノ寄附ヲ乞フ事

第九　創立委員若クハ募集委員ハ記帳ニ止ムト雖モ、縣下ニ限リ別ニ徴集委員ヲ置カズ、徴收ノ金額ハ贊助員ノ命ニ從ヒ本會又ハ最寄銀行本支店ニ送付ノ手續ヲナス事

第十　以上順序ヲ整フル爲メ、役員各郡ヲ巡リテ郡長ニ依賴シ、豫メ募集上ノ諸方法ヲ協議シ且其統轄ヲ請フ事

第十一　各地募集ノ都合ニヨリ本會ヨリ特ニ募集掛ヲ派遣スル事

右ニ記セル手續ニ依リ、三個月間ニ縣下全體ノ記帳ヲ完結シ、且直チニ三個月乃至五個月中ニ其三分ノ一額ヲ領收セント欲ス、但シ集纏金ハ各地最寄銀行本支店ニ

預ケ金トシ送付ノ勞ヲ省キ、確實利便ノ制ヲ施スノ規則ナリト雖モ、縣下ニ限リ姑ラク變則ノ簡便法ヲ取リ贊助員ノ管理ニ任ゼントス

此月、石井本縣知事、本會ノ懇願ヲ容レ、書ヲ縣下各郡長ニ發セラル。

四月中旬、度會郡內募集未決ノ部落アリ、之ガ結了ヲ促サンガ爲メ、事務員上月秀三・橋爪佐太郎・柴山佐七郎ノ三名ヲ派シ、巡回督促セシム。

曩ニ宇治山田各町及度會郡村落中、寄附金ニ換算スベキ人夫ノ勞役ヲ徵シテヨリ、各村民相率キテ日ニ土工ニ從事セザルハナシ、四月末日ニ至リテ止ム。其區域百一個町村ニ亙リ人員ノ積算一萬九千四百七人、但先ヅ之ヲ外宮方面ノ苑地ニ課スル所ナリ。

五月九日、庶務主計兩部員ノ總會ヲ開キ、本年一月以來ノ事迹幷ニ前年度收支決算書・神苑計畫書・縣下募集法案・本郡寄附成額表等ヲ示シ、縣下募集着手ノ順序・大岩庶務部員東上ノ顚末・苑地工事ノ實況等ヲ報告ス。

一月下浣ヨリ東京ニ出デシ大岩芳逸、調査ノ大要ヲ齎ラシ、五月下浣ヲ以テ歸所ス、滯留四閱月、其調査未了ニ屬スル部類ハ、在京福地復一ニ托セリ。(大岩芳逸從來醫ヲ業トス、本會創始以來會務ニ奔走シ殆ド家業ヲ拋ツ、當時倉田山ノ計畫ニ熱中セルモノ蓋此人ヲ最トス、惜哉徵古館落成ニ先ダツコト三年、明治三十九年十二月ヲ以テ易簀ス)。

縣下募集ノ法案ヲ立ツルヤ、五六月以來、幹事以下ノ役員、部署ヲ定メ各郡ニ出張シ、鋭意募集ノ事ニ從フ、而シテ其成績未ダ擧ラズ。翌七月、石井本縣知事、佐賀縣知事ニ轉任セラルヽニ會セリ。本會假會頭鹿島則文ニ代リテ、神宮禰宜中田正朔、廳下ニ至リ、幹事太田小三

郎以下役員數名ト共ニ、宴ヲ設ケテ石井知事ニ餞ス。顧フニ本會ノ創業今日アルヲ致スモノハ、石井知事奬勵指導ノ力多キニ居レリ、而シテ基礎未ダ立タズ卒然此更迭ニ遇フ、一時事業ノ進捗ヲ阻遏スルノ感ナクンバアラザルナリ。既ニシテ後任知事山崎直胤、本縣ニ赴任ス。

七月十六日、假會頭、幹事以下役員、連署シテ既往經營ノ綱領且將來ノ奬勵扶翼ヲ山崎知事ニ具陳稟請ス。

外宮方面、開苑劈頭ノ工事トシテ、東ハ參道口、一ノ鳥居前ヨリ、西ハ岡本町東端ニ至ル一帶ニ、幅七間ノ道路ヲ通シ、以テ苑地ト人家トノ區劃ヲ明ニシ、而シテ其路線中豐川・岡本ノ町界ニ水路ヲ鑿ナ、橋梁ヲ架設スルコトヲ定ム。竣功後須崎橋ト命名セル者是ナリ。

內宮方面、開苑劈頭ノ工事モ、亦宇治橋以內　宮域ニ達スル一直線ノ國道ヲ修築スルニ在リ、其地均シ土工ニ充ル爲メ、附近町村ノ寄附人夫ヲ徵シ、七月一日以來之ニ着手ス。

凡ソ工事中、其簡單ナルモノハ寄附人夫ヲ用フト雖モ、稍技術ヲ要スル部分ニ至テハ、土木業者ヲシテ之ヲ請負シメ、縣廳ニ請フニ土木吏員ノ派出臨監ヲ以テセリ。殊ニ苑地ノ風趣ヲ設ケ林泉ノ裝置ヲ配スルガ如キハ、宜ク苑藝家ノ考案ニ待ツ所ナカルベラカズ。茲ニ於テ七月下旬、東京ノ人、小澤圭次郎ヲ招キ實境ヲ熟視シ意匠考案ヲ畫カシム。(小澤圭次郎ハ成島柳北ノ門ニ遊ビ詩及書ヲ能クス、其苑藝ハ自ラ一家ノ見アリ)卽チ立案シテ名勝興造ノ大旨ヲ說キ、會員ニ告グル所ノモノ左ノ如シ。

神苑會會員諸賢ニ呈ス

凡ソ天下ノ事物、一利アレバ、一害之ニ從ヒ、一得アレバ一失之ニ伴フハ、數ノ免ルヲ

得可ラザル者ナリ、我國ノ工藝ニ於ケルヤ、其技術ニ從事スル者ハ多ク胸中ニ墨氣ヲ有セズ、其文字ヲ解釋スル者ハ、常ニ手藝ノ練熟ヲ缺ク、是古來ノ通弊ニシテ、園藝豈獨リ斯數ヲ免レ、斯弊ヲ脫スルコトヲ得ベケンヤ、故ニ世ノ園治ヲ職トシ樹藝ヲ業トスル者ハ、大抵眼ニ一丁字ナキヲ多シトス、是ヲ以テ陳腐ノ舊套ヲ因襲シ更ニ靈活ノ新案ヲ翻出スルコト能ハズ、染習ヲ株守シテ今日ニ至レリ、抑モ園藝ノ事タル、上代ニ在テハ邈トシテ之ヲ稽フベカラズ、中古ニ及テハ漸ク史傳ニ散見スレドモ、其眞造ノ方法、施設ノ景況ハ得テ之ヲ詳ニシ難シ、降テ近古ニ至テ、假山ノ方法分レテ二派トナル、嵯峨流、四條流是ナリ、今世ニ及テ更ニ二派ヲ顯出セリ、所謂文人風、西洋風是ナリ、其長短軒輊ハ片言之ヲ折ムベカラザルヲ以テ、敢テ茲ニ喋々ヲ要セズ、今ヤ神苑ノ創設ニ際シ過テ推選ノ光榮ヲ荷フ、吾輩ノ面目如何カ之ニ過グルヲ得ン、唯恐ル腐淺ノ偏見、謬陋ノ空技ヲ以テ、叨ニ斯美舉盛業ヲ贊襄シ、罪ヲ本會ニ重ネ、笑ヲ大方ニ貽サンコトヲ、然リト雖モ、諮問ヲ辱シ委囑ヲ受ケ、遠ク來テ苑地ノ形勢ヲ通覽スルヲ得タリ、安ゾ逡巡趦趄シテ諂言諛辭ヲ陳述スルニ止ル可ケンヤ、別紙聯カ所見ヲ吐露シ圖案ヲ略記ス、夫ノ得失長短ノ若キハ素ヨリ諸賢ノ藻鑑ニ存セリ、姑ク以テ遮眼ニ供ス、敢テ采覽ニ充ツルト云フニハ非ザルナリ

明治二十一年七月三十一日伊勢國山田ノ客舍ニ於テ東京小澤圭次郎謹記

神苑名勝興造ノ大旨

恭惟ニ　神宮ハ國家ノ宗廟ニシテ　宮域ハ天下ノ靈區ナリ、今此靈區ニ接シテ新ニ神苑ヲ開設センニハ、上古典雅ノ餘韵ヲ探討シテ、池塘ノ名勝ヲ考索スベク、今世凡俗ノ流風ヲ踏襲シテ、新苑ノ宏賁ヲ經始スベカラザルナリ、余神苑ノ地形ヲ巡覽點檢スルニ　內宮接續地ハ噴泉ヲ設クルヲ得可クシテ　外宮接續地ハ沼池ヲ穿ツニ便ナリ、故ニ噴泉池沼ノ二者ヲ以テ兩地賁園ノ骨子ト定メ、其泉ヲ稱シテ管玉井ト曰ヒ、其池ヲ稱シテ勾玉池ト曰フ、其ニ其形似ニ取ルナリ、更ニ管玉井ヨリ噴出スル所ノ流泉ヲ引テ、淺瀨曲水ヲ作リ以テ流觴流扇ノ遊宴ニ供スルヲ得可ラシメ、又各種黃色ノ花卉ヲ駢植シテ、彎然タル一大環狀ノ逕路ヲ作リ、之ヲ金環逕ト稱ス、管玉ノ井ト金環逕トハ、是則チ　內宮神苑ノ大點景ナリ、而テ勾玉ノ池ノ東半ニ在ル酉社ノ周圍ニ各種白色ノ花卉ヲ駢植シ、池水ニ沿テ環然タル一大環狀ノ堤路ヲ造リ、之ヲ銀環堤ト稱ス、勾玉池ト銀環堤トハ、是則チ　外宮神苑ノ大點景ナリ、其他

御蓋亭床几及ビ神苑燈鶯叢亭ノ如キハ、皆　神宮ニ縁故アル者ニシテ、甲ハ創形ヲ以テ新苑ヲ粧ヒ、乙ハ舊觀ヲ存シテ後世ニ傳ハラシム、夫ノ樹石ヲ粧點シ橋柵ヲ架設シ、或ハ小丘ヲ築キ、或ハ迂徑ヲ開キ、四時ノ彩花終歲ノ綠葉交互間錯シテ、映帶趣ヲ取リ、向背觀ヲ改メ、以テ照應起伏ノ姿態ヲ顯シ、隱見參差ノ風致ヲ添ヘ、春綉秋錦ハ言ヲ俟タズ、納涼ニ觀雪ニ、公衆ヲシテ游目眄懐ノ快樂ヲ享有セシメンコト、固ヨリ一般造園ノ方圖ニ據テ可ナリ、必シモ典故ニ拘泥シ、一々牽强附會ノ稱呼ヲ下スコトヲ要セザルナリ、茲ニ內外兩苑ヲ分テ圖案ヲ立テ附スルニ解說ヲ以テス、請フ其圖說ニ就テ看覽セラレンコトヲ

內宮神苑ノ名勝解說

管玉ノ井

管玉ノ井ニ用ル井筒ハ其高サ八尺（八坂瓊、八千戈、八百萬、八咫等ノ古訓ニ基キテ八ヲ取ルナリ）ニシテ、圓徑ハ三尺トス、石質ハ青石ヲ要スレドモ其穴ヲ穿ツコト困難ナレバ、宜シク青銅ヲ以テ之ヲ鑄造スベシ、井筒ノ下面ニ据付クベキ石ハ成丈ケ大ナル一石ヲ用ヒンコトヲ要ス（此石ハ何石ニテモ宜シ）

金環逕

金環逕ハ一大環狀ノ低キ土手ナリ、其圓徑ヲ二十間（但シ土手敷ノ外周ニテ）トシ、堤上ノ道幅ヲ二間トシ、堤ノ高サヲ四尺トシ、堤ノ基礎ヲ五間トス、其正南ニ面スル所ヲ廣サ五間許開放シテ、環內ニ出入スルノ正路ト爲シ、以テ金環ノ缺處ニ擬スルナリ、其他ノ小路ハ、堤ノ內外ヨリ斜ニ小坂ヲ作テ、自在ニ堤ヲ上下シ、環內ニ出入スルコトヲ得可ラシム（此小坂ハ便宜ナ計リ堤ノ各所ニ設クベシ）而シテ環內ノ中央ニハ一ノ茅亭ヲ作リテ小休所トシ、又二三個ノ大橫石ヲ位置ニ隨テ粧點シ、常綠樹ヲ添植シテ小景ヲ設クベシ、堤ノ兩側ハ勾配ヲ緩クシテ斜メニ內外ニ張出シ、此所ニ各種黃色ノ花卉ヲ栽植ス

御蓋ノ亭

圖案ノ如ク鐵ヲ以テ一ノ亭子ヲ造リ、其亭ヲ稱シテ御蓋亭ト曰フ、是神寶中ノ一物タル紫ノ御蓋ノ形狀ヲ模擬シテ、神苑中ノ一名勝ニ充ル者ナリ、夫ノ尋常傘亭ノ如キハ世間園中到處ニ之ヲ見ル、何ゾ神苑中ニ之ヲ新築スルコトヲ要センヤ、蓋シ蓋柄ノ直下ニ据付ル盤石ハ成ル丈ケ平面ニシテ成ル丈ケ廣大ナル自然石

ヲ用ヒンコトヲ欲スルナリ

蓋ノ四隅ニ卷起セル蕨手ニハ、金鈴ノミヲ懸垂シ、紅紫段染ノ揚卷總ハ平常之ヲ掛置カザルナリ、夫若レ良辰佳節ニ際シテ公衆群簇シ、或ハ貴賓來遊ノ時ハ更ニ之ヲ掛ケテ以テ美觀ヲ裝ヒ、夜ニ入レバ撤去シテ之ヲ收藏ス

床几

竹椅、藤床、磁敦ノ類ヲ按排シテ、園中小憩ノ用ニ供スルハ、世間普通ノコトニシテ、是等ノ物ヲ以テ御蓋亭下ノ飾具ト爲スニ足ラザルナリ、故ニ圖案ノ如ク鐵ヲ以テ床几ヲ造リ、之ヲ御蓋亭下ニ放在シテ小憩ノ用ニ充ツベシ、是亦神寶中ノ御床几ヲ模倣シタル者ナリ、蓋シ大和錦ニ代用スルニ櫻ノ板ヲ以テスルハ、苑中風日ニ暴露シテ久ニ耐ンコトヲ欲シ、板面ニ錦紋ヲ彫刻スルハ、原品ノ大和錦タルヲ示シ、腰ヲ掛ルノ際滑倒セザランコトヲ要スルガ爲ナリ

外宮神苑ノ名勝解說

勾玉池

古來池沼ノ形狀ニハ、圓形、方形、雲形、半月、雞卵、瓢簞、洲濱、扇面、草體、心字形等ノ各種アリテ、其地勢ニ隨ヒ大小廣狹ヲ異ニスレドモ、皆是尋常一樣ノ觀ニ過ギズシテ神苑ニハ適當セザルナリ、余舊舊田ノ地形ヲ案ズルニ、西南ハ　宮域ニ沿ヒテ屈折シ、東北ハ舊社ヲ抱テ盤曲セリ、仍テ之ヲ開鑿シテ西隅ヨリ南半マデ　宮域ニ沿ヒテ堤路ヲ新築シ、北東ハ往還故道ヲ掘廣ゲ舊社ヲ環抱シ、池形ヲシテ彎然屈曲スルコト、勾玉ノ形狀ニ等シカラシメ、且ツ一大石ヲ池面ノ西北部ニ据エテ水中ヨリ突出セシメ、之ヲ勾玉ノ穴ニ擬シ、併セテ中島ノ望ニ充テ、其池ヲ稱シテ勾玉ノ池ト曰フ、又西南ノ堤ノ尾ヨリ、長キ板橋ヲ千鳥形ニ架設シテ舊社ノ西隅ニ達スベシ、是一ハ往來逍遙ノ便ヲ謀リ、一ハ風景眺望ノ美ヲ添ンガ爲メナリ、勾玉池ニハ大小各種ノ龜鼈類ヲ放養シテ、常尋ノ金魚、緋鯉、眞鯉等ヲ畜養セザランコトヲ欲ス、蓋シ鯉鮒ノ如キハ、他日倉田山神苑ノ池沼ニ於テ大イニ之ヲ飼馴ス可キヲ以テナリ

附記

目下、舊社ノ後面ヨリ東ヘカケテ　宮域相逼リ、池形細キニ失シテ、勾玉ノ形狀ニハ十分適當スルコトヲ得ザレドモ、池畔ノ　宮域地所ハ、他日拂下ゲ允請ノ

許可ヲ俟テ之ヲ掘廣ゲ、西南堤尾ヨリ取續ケテ堤道ヲ築キ東隅ニ達セシムベシ、然ル時ハ池形完全ヲ得テ水局寛廣ヲ覺エ、益景色ノ善美ヲ盡スニ至ルベキナリ

銀環堤

銀環堤ハ匂玉池ノ東半ニ於テ小堤ヲ築キ、酋社ヲ圍繞シテ彎然タル形狀ヲ作リ、各種ノ白色花卉ヲ以テ之ニ駢植シタルモノナリ

神苑燈

伊勢ノ國ニ之ヲ特有シテ他州ニ之無キ者ハ　兩宮ニ奉獻シタル常夜燈ノ、製作ト、舊御師ノ家ニ建設シタル表門ノ結構是ナリ、然ルニ此兩者ハ維新ノ後、年ヲ逐ウテ荒廢ニ歸シ、已ニ毀撤スル者多ク、曾テ修繕ヲ加フル者無シト云フ、況ヤ新ニ之ヲ奉獻シ之ヲ建設スルニ於テヲヤ、余思フ今ニ及テ之ガ式樣ヲ保存セザレバ、恐クハ十數年ノ後遂ニ其跡ヲ絕チ、復見ルコトヲ得可ラザルニ至ランカ、故ニ外宮神苑ニ小丘ニ築キ、礎石ヲ疊ミ、其上ニ堅牢ナル故形ノ一大燈籠ヲ建立シ、每夜點火シテ上ハ神燈ノ一ニ充テ、下ハ苑中ノ標準トシ、併セテ街路ノ一分ヲ照耀シ、且其本州特有ナル燈籠ノ形狀ヲ後昆ニ傳ヘ、永ク神苑ノ粧飾ト爲サンコトヲ欲スルナリ、則チ其燈ヲ稱シテ神苑燈ト曰フ

鴛鴦亭

鴛鴦ノ亭ハ舊御師ノ表門ノ形ヲ以テ茶亭ト爲シタルモノナリ、其制頗ル雄偉莊重ニシテ一種特別ノ結構ナリ、之ヲ舊諸侯甲第ノ正門ニ比シテ更ニ勝レル所ハ、門屋ノ兩端ニ鯱形ヲ裝飾シタル者是ナリ、今此舊門一宇ヲ購求シテ、若シ購求スベキ門無ケレバ新ニ模造スベシ、之ヲ苑中ニ移シ、修理ヲ加ヘテ圖案ノ如ク門ノ左右子房ヲ改メ、休息茶屋ノ用ニ充ル時ハ、所謂本州特有ノ舊觀ヲ存シテ、以テ苑中ノ一名勝ト爲スニ足ルベシ、御師、鴛鴦、訓讀相通ズルヲ以テ之ヲ稱シテ鴛鴦亭ト曰フ

但シ門柱上ノ横木ニ、其定紋ヲ貼付セシ跡ヘ鴛鴦彎給ヲ紋形ニ作リテ之ヲ貼付スベシ、是舊樣ヲ失ハズシテ以テ新字面ノ實稱ヲ表スル爲メナリ

外宮神苑樹木概算表

松　一丈八尺ヨリ二丈　三十本

松	一丈以上	百七十本
短葉松（カムロ）	二尺	五十本
白梅	一丈以上	八十本
櫻	一丈以上一丈五尺	二百五十本
楓	一丈以上	百本
千葉楓（イダシ）	二三尺	百本
柳	一丈以上	三十本
百日紅	八尺ヨリ一丈	五十本
海棠	八尺	五十本
椿	一丈以上	百十本
山梔子（クチナシ）		百株
ミスキ		三十株
牡丹		三十株
白花菖蒲		三百株

合歡木（ネブ）	一丈以上	五十本
槇同		二十本
椴同		二十本
檜同		三十本
青桐同		二十本
椎同		二十本
唐松同		二十本
木槲同		二十本
梅同		二百五十本
桃同		五十本
黃木犀同		五十本
紫陽花		三十株
マンサク		三十株
芍藥		三十株

白杜若		三百株
白山茶花	六七尺	百　本
山茶花	同	八十本
卯ノ花	同	百五十株
白躑躅		三百五十株
雪ノ柳		百　株
白荻		百五十株
芙蓉		五十株
山吹		百　株
八ッ手		三十株
荻		百　株
藤		十　本
沉丁木		三十株
玉ラン		三十株

白菊		二百株
芝		三千八百坪

内宮神苑樹木概算表

松	一丈五尺ヨリ二丈	三十五本
松	一丈以上	二百二十本
短葉松	二三尺	七十本
櫻	一丈以上	二百七十本
楓	同	百二十本
千生楓	二三尺	七十本
梅	一丈以上	五十本
椿	七八尺	六十本
海棠	同	十　本
合歡木	一丈以上	五十本
枝垂柳	同	三十本

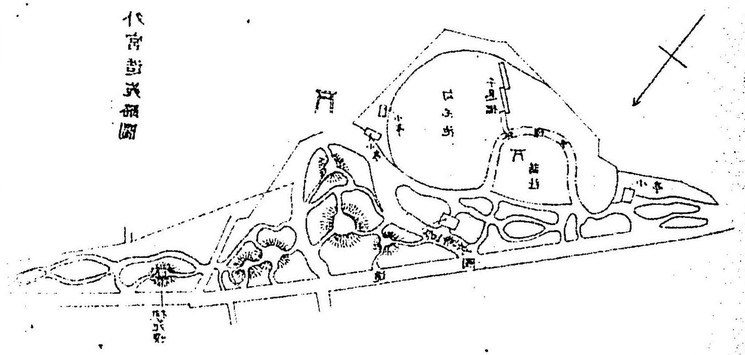
山茶花	六七尺	三十本
木犀	一丈以上	十本
八ッ手	五六尺	六十株
南天		十株
芙蓉		五十株
紫陽花		五十株
萩		百五十株
黄蹴躅		千株
山吹		三百株
ミスキ		百五十株
山茱萸		百五十株
女郎花		五百六十株
夏黄菊		五百六十株
秋黄菊		五百六十株

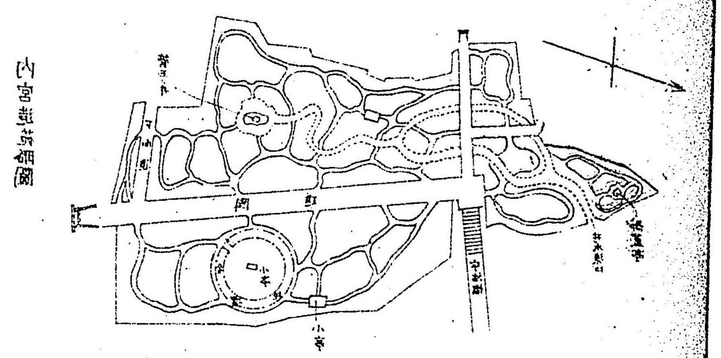
寒黄菊	五百六十株
素吾（ツハブキ）	五百六十株
烏帽子草	七百株
蒲公	七百株
琉球蹴躅	二百五十株
皐月	五百株
キリシマ	百五十株
芝	四千五百坪

但シ右記載ノ外ニモ適宜ノ植物有之節ハ草木ヲ論ゼズ取用ユ可キ積リ也

外宮造苑略圖

內宮造苑略圖





右小澤案ヲ印刷シテ會員ニ頒チ、意見ヲ徵スルノ資トス。惟ルニ神苑ノ構造ハ　宮域ノ清森ニ鑑ミ、愼重覈査、以テ適應ノ施設ヲ要ス、今之ヲ本會ニ於テ專決スルハ憚ル所ナシトセズ、乃チ卑見ヲ具シテ

神宮祭主朝彥親王殿下ニ捧呈シ、添ルニ小澤案ヲ以テシテ　殿下ノ清鑒ヲ仰ギ奉レリ。

苑地計畫道路改修ニ關スル演述書

本會計畫ノ第一着歩タル　兩宮接近地、神苑開設ノ實施ニ關シ、嘗テ從事致候地所買上、人家取退ノ件ハ、本年初春既ニ其調理ヲ遂ゲ、爾來序ヲ逐ヒテ土木ノ端ヲ開クニ至レリ、熟ラ該地ノ實址ヲ案ジテ、第一、在來ノ道路ヲ改修スルノ緊急ヲ感ジ候ニ付、主トシテ之ガ工事ヲ擧ゲ候、右ハ天下通行人ノ便益ノミナラズ、大ニ苑地ノ風趣幷ニ域外ノ規模ニ相關スルノ故ニ有之候、而シテ今回愈苑地全體ノ計畫ヲ覈定センガ爲メ、園藝ニ精シキ者ヲ東京ヨリ招聘シ、書類ノ如ク實況ニ就キテ將來構成ノ

意匠ヲ描カシメ候、右圖案ニ憑據シテ速ニ奏功ヲ期セント欲シ準備ヲ急グ今日ニ際シ、之ニ先チテ迅速決定スベキハ、道路改修ノ結果ヨリ生ズル　宮域ト連接ノ關繫ニ有之候、蓋本會精神ノ注グ所ハ乍恐　神宮ノ御尊嚴ヲ增シ、域外ノ規模ヲ整理スルニアルヲ以テ、億萬不朽ノ蹟ヲ樹ツルノ基礎トシテ、再ビ會シ難キノ時機ニ乘ジ、力ノ及ブ所勉メテ適切ナル改良ヲ施カント欲シ、卽チ別紙圖面ノ如ク國道幷ニ參道道敷ヲ改築シ、而シテ後、苑景ヲ構設セバ　宮域ト連接ノ體裁其宜キヲ得テ、微衷徹底ノ結果ヲ望ムベキ儀ト存候得共、參道ニ至リテハ事　宮域內ノ一端ニ延及候故、猥リニ本會獨自ノ決斷ニ任ズル能ハズ、爲ニ工事ヲ躊躇セシムルノ情況ニ有之苦慮罷在候、然レドモ今日ノ形迹ヲ閲スレバ、嘗テ人家存在中ノ時ト廣狹開塞ノ狀況、其他諸般ノ趣大ニ相異ナルヲ以テ、在來ノ國道敷ヲ變更スレバ、從テ　宮域ノ境場ニモ波及改修ヲ要スベキハ止ムヲ得ザルノ勢ト存候、特ニ目今　外宮宮域ヲ貫流スル豐川ハ、汚水溷濁ノ注グ所トナリ、不潔ノ觀ヲ呈シ候段、甚遺憾ノ義ト存候間、別紙圖面ノ如ク此際改良、淨流ヲ疏通候樣企望仕候次第ニ有之候、且又　宮域近傍、道路改修及人家取退等ノ事例、卽チ今回本會ノ計畫ト相類スルノ擧ハ、屢古人ノ企ツル所ニ有之、參考ノ一端トモ存候間、古記中散見仕候左ノ件々ヲ抄シテ御采覽ヲ煩シ候也(附屬書類略ス)

本年二月、大學院學生理學士坪井正五郎、人類學研究ヲ目的トシ巡遊ノ途次、來リテ本會ヲ訪フ。庶務部長村井恒藏・部員吉川清三郎・藤井清司等之ニ接シテ學說ヲ聽キ大ニ得ル所アリ(高倉山岩窟其他處々ニ嚮導ス)。由來本會歷史博物館ノ計圖ニ關シテハ、人類學上ノ見地ニ基キ、其考證調査幷ニ立案ヲ請フノ必要ヲ認ム、然レドモ經費未ダ給セザルヲ以テ、依托ヲ他日ニ期センコトヲ約セリ。次デ八月、東京人類學會幹事若林勝邦ノ來訪ニ接ス。其後本會計畫ノ事業ニ關シ　神宮ノ古規舊例幷ニ神都ノ沿革一斑ヲ領知スベキノ必要ヲ感ゼリ。庶務部員藤井清司、幹事ノ命ヲ承ケテ專ラ其調査ニ從事シ、神祇史及舊記ニ散見スル所ヲ拾收シテ調書一部ヲ編製ス。篇

次七項、其一、鎮座記事及歷朝崇事ノ概要、其二、齋宮ノ事蹟、其三、神領ノ事、其四、宮域內略解及遷宮ノ事、其五、御師ノ事、其六、神都彙聞、其七、祭儀ノ事トス、此餘着目スル所ノ事項少カラズト雖モ、卷帙浩瀚ニ亙リ、稽査時日ヲ移スノ恐アルヲ以テ止ム。

十一月初旬、宮內大臣土方子爵ノ京都ニ出張セラル、ヲ聞クヤ、幹事太田小三郎馳セテ之ヲ名古屋ニ迎ヘ、具サニ本會ノ情況ヲ面陳シ懇請スル所アリ。幾クモナク十二月一日、本地ニ參向セラル。本會待ツニ貴賓ヲ以テシ、太田幹事ハ關驛ニ、自餘役員ハ松坂或ハ宮川ニ逢迎シ、一志久保町吸霞園ヲ旅館ニ充ツ。翌日、神苑計畫地ニ就キ實檢ヲ請フ、當時寄附金ノ實收豫期ノ如クナルヲ得ズ、財計困難、爲ニ土功ノ進行ヲ鈍クシ、隴墟索寞ノ狀ナクンバアラズ。而シテ今幸ニ宮內大臣ノ視察ヲ辱シ、深ク贊襄ヲ表セラル、ニ會フ、他日發展ノ動機此ニ胚胎スル者多シ。時ニ本會左ノ事迹書ヲ調製シテ大臣ニ呈ス。

神苑會事迹書

神宮ハ帝國ノ大廟ニシテ、神都ハ天下ノ靈區也、此　宗廟ト此靈區トハ、國體ヲ宣揚シ　皇猷ヲ顯章スル所、豈之ヲ不問ノ域ニ附スルヲ得ンヤ、然レドモ維新以來ノ世變ニ際シテ神都市井ノ舊盛ヲ失墜シ、天下參詣ノ人士ヲシテ徒ラニ歔欷ノ情ヲ發セシムルニ至リシハ實ニ痛歎大息ニ堪ヘザル處、且陋屋　宮域ニ接迫シテ往々不潔ノ觀ヲ呈シ、爲メニ莊嚴ノ狀ヲ損フナシトセズ、今ノ　聖代ニ方リ、宜ク衰殘悲傷ノ觀ヲ拭ウテ、更ニ之ガ規模ヲ恢弘スルニ非ズンバ、遂ニ千歲ノ靈境ヲ埋沒シ國家ノ面目ヲ減損スルアランコトヲ畏ル、也、地方有志ノ輩此ニ慨アリ、自ラ揣ラズ、神苑會ヲ唱首シ、明治十九年十二月ヲ以テ創立ノ認許ヲ得ルニ至レリ、爾來　兩宮接續地開苑ノ事ヲ以テ其第一着歩ト定メ、速カニ之ガ實蹟ヲ奏成センガ爲メ、拮据事ニ從ヒ殆ド寧處ニ遑アラズ、當初度會郡民ニ向ツテ贊助ヲ訴ヘ、稍江湖ニ唱道スルノ基礎ヲ樹ツルヲ得タリ、今其成績ニ關シテ記スベキモノヲ敍スレバ、概略左ノ如

シ

第一　寄附金募集ノ成額

金六萬九千九百弐拾圓弐拾五錢　度會郡寄附高

金參萬圓　神宮司廳下賜金

金五百圓　〃　久邇宮朝彦親王殿下御寄附

金凡五萬圓　縣下各郡ニ於テ本年中ニ募集見込高

計金拾五萬〇四百弐拾九圓弐拾五錢也

第二　工事ノ成績　本件ニ關シテハ(一)地所買上幷ニ人家撤去ノ事件ヲ調理シ(二)臨時土木ヲ二見ケ浦ニ起シテ賓日館ヲ建築シ(三)人家撤去地ヲ一掃シテ新タニ道路ヲ修築シ(四)苑地構造ノ方圖ヲ檢案シ(五)十一月中葉ヲ以テ既ニ其一部ノ工事ヲ入札請負ニ附セシガ如キ、着々施工ノ緒ニ就クニ至レリ、就中創始ノ際ニ在テ最モ調理ノ困難ヲ告ゲシハ、第一事件卽チ地所家屋ノ件ニシテ、其奏了ノ跡ヲ計フレバ

地所壹萬九千六百四十坪二合八勺　兩宮接近地買上坪數

建家四千百三十坪八合九勺八才　兩宮接近地撤去家屋百六十戸建坪

金五千四百拾貳圓七拾七錢　右地所買上料

金弐萬〇四百六拾八圓七拾六錢弐厘　右家屋撤去料

抑モ　兩宮接近地人家撤去及　宮域境界改修等ノ擧ハ、古來官民ノ間ニ於テ屢施行セル所ニシテ、例スルニ慶安元年　外宮接近ノ人家凡七十戸ヲ撤去シテ、溝ヲ穿チ道ヲ改メ　宮域ト市街トノ境域ヲ定メ、寛文十一年、再ビ人家ヲ退ケテ三千餘坪ノ道路ヲ擴メシガ如キ、其他參道ノ改修若クハ石垣ノ修築等ニ至テハ逐一列擧ニ遑アラズト雖モ、概ネ皆局部ノ小土功ニシテ、未ダ完全修理ノ域ニ至ラザルモノ也、而シテ這回本會ノ大擧ヲ以テ、始テ煩錯セル從前ノ面目ヲ掃蕩スルヲ得タリ

本會計畫上、第二着歩ノ目的トスル倉田山ニ至テハ、地積二十有餘萬坪ノ廣キニ亙ルノミナラズ、其設備ノ如キモ亦尋常ニ非ルヲ以テ、未ダ實施ノ域ニ至ラズト雖モ、歴史博物館ノ設置ニ就テハ調査頗ル浩濟ニ渉リ、爲メニ時日ヲ要スル少カラザルヲ以テ、昨年以來、取調員一名ヲ東京ニ置キ、其裝置順序等ニ關シテ專ラ調査スル所アラシム、是第二着歩ノ目的ニ對シテ豫メ準備ヲナス所ナリ